

# 男女協働参画に関するアンケート調査 結果報告書

令和 4年 3月  
伊万里市

## 目次

<b>I. 調査の概要</b>	1
1. 調査の概要	1
2. 令和4年度 調査結果の概要と課題	2
<b>II. 市民 調査結果</b>	12
■回答者の属性	13
1. 男女平等について	
(1)男女平等の実現状況	14
2. 家庭について	
(1)性別役割分担意識について	17
(2)家事時間・育児時間・介護時間	19
3. 職業について	
(1)現在の職業状況	20
(2)女性が仕事を続ける上での障害	21
(3)男性の育児休業・介護休業	21
4. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について	
(1)ワーク・ライフ・バランス	23
5. 子育てと教育について	
(1)子どものしつけ	27
6. 防災について	
(1)男女協働参画視点からの防災	29
7. 政策決定の場への女性の参画について	
(1)女性の意見の政策への反映状況	29
(2)女性委員が少ない現状	30
8. 男女間の暴力について	
(1)DVドメスティックバイオレンスを受けた経験[被害]	31
(2)DVドメスティックバイオレンスをした経験[加害]	33
(3)性暴力を受けた経験	35
(4)伊万里女性相談	38
9. 性的少数者(LGBT)について	
(1)LGBTについての社会的意識	39
(2)パートナーシップ制度について	39
10. 市として取り組むべき方策について	
(1)男女協働参画社会の実現のために取り組むべき方策	40
11. 条例と宣言都市について	
(1)男女共同参画宣言都市	41
(2)男女協働参画を推進する条例	41
12. 男女協働参画に関する意見・要望等	41

<b>Ⅲ. 事業所 調査結果</b>	44
<b>■回答者の属性</b>	45
<b>1. 男女協働参画の職場にするための積極的改善について</b>	
(1)男女協働参画の職場にするための取り組み	47
(2)職場における女性の地位向上	48
<b>2. 育児・介護に関する休業制度について</b>	
(1)育児・介護休業制度	49
(2)再雇用制度	51
<b>3. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について</b>	
(1)ワーク・ライフ・バランス	52
<b>4. ハラスメント対策について</b>	
(1)セクシュアル・ハラスメント	53
(2)パワー・ハラスメント	55
(3)マタニティ・ハラスメント	57
<b>5. 市として取り組むべき方策について</b>	60
<b>6. 自由意見</b>	60

<b>Ⅳ. 中学生 調査結果</b>	62
<b>■回答者の属性</b>	63
<b>■家族構成</b>	63
<b>1. 男女平等について</b>	
(1)家族等から言われること	63
(2)家事について	65
(3)男女平等の実現状況	65
<b>2. 将来について</b>	
(1)職業について	66
(2)性別役割分担意識	68
<b>3. DV(ドメスティック・バイオレンス)について</b>	
(1)DVについて	70
(2)デートDVについて	70
<b>4. 自分らしく生きられる社会について</b>	
(1)「男女共同参画社会」という言葉について	73
(2)「男女協働参画社会」実現のために取り組むこと	74
<b>5. 自由意見・要望等</b>	75

V. 高校生 調査結果	76
■回答者の属性	77
■家族構成	77
1. 男女平等について	
(1) 家族等から言われること	77
(2) 家事について	79
(3) 男女平等の実現状況	79
2. 将来について	
(1) 職業について	80
(2) 性別役割分担意識	82
3. DV(ドメスティック・バイオレンス)について	
(1) DVについて	84
(2) デートDVについて	84
4. 自分らしく生きられる社会について	
(1) 「男女共同参画社会」という言葉について	87
(2) 「男女協働参画社会」実現のために取り組むこと	88
5. 自由意見・要望等	89



<b>I 調査の概要</b>
----------------

## 1. 調査の目的

本調査は、家庭・地域生活、職場、社会活動などのさまざまな場面における男女の意識や実態を把握し、第5次伊万里市男女協働参画基本計画に反映させることを目的としています。

## 2. 調査対象及び調査方法等

調査対象	一般市民	事業所	中学生	高校生
配布数	1,500	100	479	529
抽出法	無作為抽出	無作為抽出	市内の中学3年生 全員	市内の高校2年生 全員
調査方法	郵送法	郵送法	学校を通じて配布・回収	
調査時期	令和3年9月			
調査地区	市内全域			

## 3. 回収結果

調査区分	一般市民	事業所	中学生	高校生
配布数	1,500	100	479	529
有効回答数	697	53	425	495
有効回答率	46.5%	53%	88.7%	93.6%

## 4. 調査報告書の見方

(1)比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しました。

(2)基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。

(3)複数回答の問がありますので、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。

(4)図表として示したものの中には「無回答者」を省略した部分があります。そのため、各区分の標本数の合計が全体の標本数と一致しないことがあります。

(5)図表として示したものには、値が0の数値を省略しています。数値の詳細は、別途集計表に掲載します。

(6)文中に記載している「H28年調査」「前回調査」とは「男女協働参画社会づくりのためのアンケート調査」(平成28年9月・伊万里市)、「佐賀県調査」とは「令和元年度男女共同参画社会づくりのための佐賀県民意識調査結果報告書」(令和2年4月・佐賀県)、「全国調査」とは「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年9月・内閣府)の事です。

## 令和3年度 男女協働参画に関するアンケート調査結果の概要と課題【市民】

### 1. 男女平等について (P.14~)

- 男女平等の実現状況について、「学校教育の場」(69.2%)が、平等と感じている割合が最も高く、「職場」「地域社会活動の場」「社会通念習慣しきたり」で、平等と感じている割合も前回調査時より高くなっている。  
「家庭生活の場」は、34.1%であり、前回調査より低くなっている。

#### 【課題】

「職場」の男女平等と感じている割合は、現計画の目標値である 35%を超えている。「学校教育の場」の男女平等と感じている割合は、前回調査より高くなっているが、現計画の目標値である 75%には届いていない。「家庭生活の場」でも、前回調査より低くなり、目標値には届いていない。全ての分野で「男女平等」と感じる割合が高くなるよう、さらなる広報・啓発が必要と考えられる。

### 2. 家庭生活について (P.17~)

- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」といった性別役割分担意識については、女性の 20.4%、男性の 31%が賛成。前回調査時より、女性は 3.2%、男性は 9.3%増加している。  
佐賀県調査(女性 29.3%・男性 41.5%)や全国調査(女性 31.1%・男性 39.4%)と比較すると性別役割分担意識は低くなっているが、まだ根強く残っている。
- 1日の家事時間は、「家事時間」は、女性が 3 時間 39 分、男性が 1 時間 25 分で、H28 調査より 5 分長くなっているが、男性より、女性が 2 時間 14 分長くなっており、主に女性が家事を担っている状況である。  
育児時間、介護時間についても女性が 1 時間以上長くなっている。

#### 【課題】

家庭観は多様化に伴い、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」に賛成する割合は低下傾向にあるが、性別役割分担意識を持っている市民が2割(25.1%)を占めている。男女が協力して家事・育児・介護を行うことができるよう、男性の家事参画推進につながる広報・啓発が必要と考えられる。

### 3. 職業について (P.21~)

- 育児休業について「男性も取得すべき」が、女性は 63.5%、男性は 59.7%となっているが、「女性は取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある」が、女性は 9.7%、男性は 14.5%となっており、取得すべきではないとする割合も2割弱となっている。

## 【課題】

男性の育児休業取得について「男性も取得すべき」が6割を超えているが、男性が取得することに違和感がある、取得すべきでないとする割合が3割程となっており、男性の育児休業取得の推進を図るため、広報・啓発が必要と考えられる。

## 4. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について (P.23~)

○「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の優先度の理想の割合は、「仕事と家庭生活」が全ての世代で最も高いが、現実には「仕事」を優先している割合が高く、複数の活動をバランス良く行いたいという理想に反して単一の活動を優先している。

また、生活の中で仕事・家庭・地域等、複数の活動を優先する市民の割合は、35.2%となっており、H28 調査 37.5%より低くなっている。

現計画の目標値である 50%には届いていない。

○男女がともに仕事と生活の調和を実現していくための条件として必要だと思われるのは、「家事・育児が男女のどちらかに負担にならない事」が 46.5%で、最も高く、次に「長時間労働をなくすこと」が、39.6%となっている。

## 【課題】

「仕事」の優先度は、理想と現実の優先度が大きく違い、生活の中で仕事・家庭・地域等、複数の活動を優先する市民の割合は、H28 調査 37.5%より低くなっており、現計画の目標値である50%には届いていない。今後も、市民へワーク・ライフ・バランスの推進を促すとともに、事業所に対し従業員の仕事と家庭生活等との両立に配慮した職場づくりを促す取組が必要と考えられる。

## 5. 子育てと教育について (P.27~)

○子どものしつけについて、「性別を問わず、経済的に自立できるよう教育が必要」という考え方について、92.3%が賛成。

また、「性別を問わず、生活に必要な技術を身に付けたほうがよい」という考え方についても 92.7%が賛成している。

「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」という考え方については、37.7%が賛成している。

## 【課題】

「女の子も男の子も、個性・才能を活かした育て方を」との考え方が一般化してきている反面、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」育てた方がよいと考える人も少なくない。今後も、子どもと親を対象とした意識啓発講座を継続していくことが重要である。

## 6. 防災について

(P.29～)

- 防災の推進のために必要だと思われることは、「女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保」(67.1%)が最も高く、次に「市や地区の防災会議委員に男女をバランス良く配置」(54.7%)となっている。

### 【課題】

災害発生という非常事態における緊急対応には、日常における性別による固定的な役割分担意識が顕著化しがちであるため、防災対策及び防災の検討や避難所運営等の災害の現場における意思決定など、施策段階から男女協働参画の視点を取り入れることが重要である。

## 7. 政策決定の場への女性の参画について

(P.29～)

- 現在の伊万里市の政策に「女性の意見が反映されている」と答えた人は46.2%となっており、40.7%の人が「審議会等の女性委員をもっと増やした方がよい」と考えている。方針決定の場への女性の参画が少ない理由としては、「男性中心の組織運営」(48.8%)、「女性自身が、社会進出に対して積極性が不十分」(39.3%)となっている。

### 【課題】

方針決定の場への女性が少ない理由として「男性中心の組織運営」や「女性自身の積極性が不十分」という回答が多い。今後、女性の参画意識の向上を図り、男性中心組織の改善を行うとともに、女性が方針決定の場へ参加しやすい環境づくりが必要と考えられる。

## 8. 男女間での暴力について

(P.31～)

- これまでに配偶者や恋人から暴力を受けた経験は、「大声で怒鳴られる」15.2%で最も高く、「物を投げる・壊す」が10.6%、「何を言っても無視する」が9.9%と、身体的暴力と精神的暴力の被害の割合が高くなっている。
- 性暴力については、これまでに異性から何らかの性暴力を受けた経験は、女性23.7%・男性5.3%となっている。
- 「女性相談」を知っている割合は、27.3%で、前回調査時より、10.8%高くなっているが、69%は知らないとしている。
- 男女間での暴力による被害をなくすための対策として、「身近な相談窓口を増やす」(69.6%)が最も高く、次に「加害者への罰則、警察による介入・指導の強化」(55.5%)となっている。

### 【課題】

暴力を受けた場合の相談の有無については、「相談しなかった」人の割合が高く、相談した人のうち相談相手は「知人・友人」が6割強となっている。一方、「伊万里



市女性相談を知っている」人は3割弱となっており、現計画での目標値である20%は超えたが、まだまだ周知が不十分である。

今後もDV防止についての啓発と相談窓口の周知を幅広く行うとともに、DV被害者の支援を充実させるため、関係部署及び関係機関等の緊密な連携による相談体制の強化が必要と考えられる。

## 9. 性的少数者(LGBT)について (P.39~)

○性的少数者(LGBT)についての社会的意識について、「高まっている」と思う割合は、61.1%で、パートナーシップ制度については、「内容まで知っている」は、9.3%で、「内容は知らないが聞いたことがある」が 54.1%であり、内容まで理解できている割合は低い。

### 【課題】

性的少数者(LGBT)についての社会的意識については高まっているが、パートナーシップ制度の認知度も低く、今後も性的少数者(LGBT)についての理解促進のための啓発活動が必要と考えられる。

## 10. 市が取り組むべき方策について (P.40~)

○男女協働参画社会づくりのために伊万里市に望むことは、「学校教育における男女の平等と相互理解・協力についての教育の充実」(40.3%)、「保育や高齢者の施設・サービスの充実」(38.5%)、「ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発の充実」(34.7%)となっている。

### 【課題】

市民の多くが、「保育や高齢者等の施設・サービスの充実」を望んでおり、環境整備が強く求められている。

## 11. 条例と宣言都市について (P.41~)

○伊万里市が「男女共同参画宣言都市」であることを知っていた人は、27.4%と非常に低い。

○伊万里市が平成28年4月に「男女協働参画を推進する条例」を施行したことを知っていた人は、18.9%と非常に低い。

### 【課題】

「男女共同参画宣言都市であること」や「男女協働参画を推進する条例を施行したこと」について知っている人は、依然として一部の市民に留まっている。男女協働参画についての意識の醸成を広く図るための啓発及び広報のあり方の検討を行う必要があると考えられる。

## 令和3年度 男女協働参画に関するアンケート調査結果の概要と課題【事業所】

### 1. 男女協働参画の職場にするための積極的改善について (P.47～)

- 男女協働参画の職場にするために行っていることとして、「業務に必要な教育や能力・資格取得のための教育や研修を性別に関係なく実施」(69.8%)が最も高い。男女協働参画の職場にするための取組やワーク・ライフ・バランスを推進するための取組を実施している事業所の割合は増加している。
- 「ポジティブ・アクション」について、「言葉も内容も知っていた」のは 24.5%で、前回調査時より、6%高くなっているが、「言葉も内容も知らない」のは 37.7%であり、浸透していない。

#### 【 課題 】

男女共同参画の職場にするために、ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組を行っている事業所は6割強となっており、前回調査時よりも増加しているが、「ポジティブ・アクション」について、「言葉も内容も知っていた」のは2割強であり、事業所に対し「ポジティブ・アクション」と取組みについての広報・啓発を行う必要がある。

### 2. 育児・介護に関する休業制度について (P.49～)

- 育児休業・介護休業ともに全ての事業所が認めている。育児休業の取得者は、女性 93.5%、男性 15.7%となっており、取得率は、男女共に前回調査時より高くなっている。
- 妊娠・出産・育児・介護を理由に退職した従業員に対する再雇用制度を「実施している」のは 69.8%となっており、妊娠や出産、育児、介護などを理由に退職した従業員に対する再雇用制度を実施している事業所は、前回調査より高くなっている。

#### 【 課題 】

全ての事業所が「育児休業・介護休業」を認めているが、男性の育児休業の取得率は低い結果となっている。男女協働参画を推進していくには女性の活躍が必要であり、男性の育児参画を進めるため、さらなる広報・啓発が必要であると考えられる。

### 3. ワーク・ライフ・バランスについて (P.52～)

- ワーク・ライフ・バランスの推進を実施または検討している事業所は 64.1%で前回調査(26.0%)よりも大幅に増えているが、「具体的取り組みは行っていない」としている事業所が 24.5%となっている。

【 課題 】

各自の生活様式に合わせた多様な働き方を可能とする必要があり、今後も事業所に対し、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた広報・啓発が引き続き必要であると考えられる。

4. ハラスメント対策について (P.53~)

- セクシャル・ハラスメントについての取り組みを行っている事業所は 66.0%であり、前回調査時(55.6%)より高くなっている。  
しかし、「取り組みを行っていない」7.5%、「必要性を感じていない」13.2%など 2 割以上の事業所がまだ取り組みを行っていない。
- パワー・ハラスメントについての取り組みを行っている事業所は 69.8%であり、前回調査(48.1%)より高くなっている。
- マタニティ・ハラスメントについての取り組みを行っている事業所は 58.5%であり、前回調査(37%)より高くなっている。

【 課題 】

ハラスメントについての取り組みを行っている事業所は、前回調査よりも増えているが、取り組みを行っていない事業所が3割程ある。  
特に、マタニティ・ハラスメントについての取り組みを行っている事業所は、6割弱となっており、今後も、事業所に対し、ハラスメント対策について広報・啓発が必要と考えられる。

5. 市として取り組むべき方策について (P.60~)

- 事業所の男女協働参画を進めるために伊万里市に望むことは、「保育施設の保育サービスの充実」60.4%が最も高く、次に「高齢者や障害者のための施設や介護サービスの充実」39.6%となっている。

【 課題 】

事業所の多くが、「保育や介護の施設のサービスの充実」を望んでおり、環境整備を強く求めている。

## 令和3年度 男女協働参画に関するアンケート調査結果の概要と課題【中学生】

### 1. 男女平等について (P.63~)

- 家族等から「女(男)だから〇〇しなさい」と「よく言われる・時々言われる」は、女子が49.8%であり、男子が、27.2%で、女子が男子の2倍弱となっている。
- 家族等から言われる内容は、「手伝い」や「座り方・歩き方」が多くなっている。
- 男女平等の実現状況について、“男性優遇”の割合が最も高いのが「社会の中・女子」24.6%であり、“女性優遇”の割合が最も高いのが「学校の中・男子」16.8%である。

#### 【課題】

家族等から、「女(男)だから〇〇しなさい」と言われる割合は女子の方が多くなっており、性別による固定的な役割分担意識が、まだあると思われるため、生徒だけでなく、家族を含め、男女協働参画についての意識の醸成を図るための啓発や周知が必要と考えられる。

### 2. 将来について (P.66~)

- 将来の職業について、女子は「看護師・介護福祉士等」「公務員」が多く、男子は「スポーツ関係」「会社員」が多い。
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」といった性別による固定的な役割分担意識に、女子の5.3%、男子の18.4%が賛成。市民アンケートでの結果(女性20.4%・男性31.0%)と比較すると、中学生は市民より、固定的性別役割分担意識を持っている割合が低い。

#### 【課題】

将来の職業の選択については、男女での偏りがあり、職業に関する性別のイメージがあると思われる。

また、固定的な性別役割分担意識を持っている割合は、中学生は市民より、低いが、男子の2割は固定的な役割分担意識に賛成であり、性別の固定観念にとらわれない進路選択ができる広報、啓発や学習会等を行う必要があると考えられる。

### 3. DV(ドメスティック・バイオレンス)について (P.70~)

- デートDVを「言葉も内容も知っていた」のは28.7%、DV(言葉も内容も知っていた:69.4%)に比べ、認知されていない。
- 交際相手から受けた暴力として、「自分のメール、SNSをチェックされたり、他の友人との付き合いを止められた」(女子4.8%・男子1%)や「馬鹿にされたり傷つ

くようなことを言われたりした」(女子 3.9%・男子 3.0%)など、実際に暴力を受けている生徒がいる。

- 交際相手から受ける暴力の認識は、「自分のメール、SNSをチェックされたり、他の友人との付き合いを止められる」「長時間無視される」などは暴力とは思わないが、3割程となっている。

#### 【 課題 】

交際相手からの行為で「長時間の無視」や「行動の制限・束縛」は、「殴る・蹴る」などの直接的な暴力に比べ、精神的な暴力を認識していない割合が高く、精神的暴力についての啓発が必要であると考えられる。

また、「暴力を受けたことがある」という回答があり、表面化していないケースも存在すると思われるため、DV、デートDV防止の啓発と相談窓口のPRが必要と考えられる。

#### 4. 自分らしく生きられる社会について (P.73~)

- 伊万里市が「男女共同参画宣言都市」であることを知っていたのは 4.7%であり、「男女協働参画を推進する条例」を知っていたのは 2.1%で、どちらも浸透していない。
- 男女協働参画社会実現のために取り組むこととして、「子どもの時から男女平等について学ぶ」64.7%が最も高く、次に「男性も家事、育児、介護を学ぶ教室を開く」34.8%となっている。

#### 【 課題 】

「男女共同参画宣言都市であること」「男女協働参画を推進する条例」について知っている人は少なく、男女協働参画についての意識の醸成を広く図るための啓発を行う必要があると考えられる。

また、子どもの時から男女平等について学ぶ機会があれば、男女協働参画社会の推進につながるという考えが多く、幼少期から男女平等について学ぶ機会が必要と考えられる。

## 令和3年度 男女協働参画に関するアンケート調査結果の概要と課題【高校生】

### 1. 男女平等について

(P.77~)

- 家族等から「女(男)だから〇〇しなさい」と「よく言われる・時々言われる」は、女子が48.8%であり、男子が、20.4%で、女子が男子の2倍強となっている。
- 家族等から言われる内容は、「手伝い」「言葉使い」が多くなっている。
- 男女平等の実現状況について、“男性優遇”の割合が最も高いのが「社会の中・女子」33.0%であり、“女性優遇”の割合が最も高いのが「学校の中・男子」20.0%である。

#### 【課題】

家族等から、「女(男)だから〇〇しなさい」と言われる割合は女子の方が高くなっており、性別による固定的な役割分担意識が、まだあると思われるため、生徒だけでなく、家族を含め、男女協働参画についての意識の醸成を図るための啓発や周知が必要と考えられる。

### 2. 将来について

(P.80~)

- 将来の職業について、女子は「看護師・介護福祉士等」「公務員」が多く、男子は「技術者・エンジニア」「公務員」が多い。
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」といった性別による固定的な役割分担意識に、女子の11.6%、男子の13.7%が賛成。市民アンケートでの結果(女性20.4%・男性31.0%)と比較すると、高校生は市民より、固定的性別役割分担意識を持っている人が低いという結果になっている。

#### 【課題】

将来の職業の選択については、男女での偏りがあり、職業に関する性別のイメージがあると思われる。  
また、固定的な性別役割分担意識を持っている割合は、高校生は市民より、低く、前回調査より男子は3割弱程減っているが、性別の固定観念にとらわれない進路選択ができる広報、啓発や学習会等を行う必要があると考えられる。

### 3. DV(ドメスティック・バイオレンス)について

(P.84~)

- デートDVを「言葉も内容も知っていた」のは44.4%、DV(言葉も内容も知っていた:91.5%)に比べ、認知されていない。
- 交際相手から受けた暴力として、「自分のメール、SNSをチェックされたり、他の

友人との付き合いを止められた」(女子 8.8%・男子 2.2%)や「馬鹿にされたり、傷つくようなことを言われたりした」(女子 6.0%・男子 1.9%)など、実際に暴力を受けている生徒がいる。

- 交際相手から受ける暴力の認識は、「自分のメール、SNSをチェックされたり、他の友人との付き合いを止められる」「長時間無視される」などは暴力とは思わないが、4割程となっている。

#### 【 課題 】

交際相手からの行為で「長時間の無視」や「行動の制限・束縛」は、「殴る・蹴る」などの直接的な暴力に比べ、精神的な暴力を認識していない割合が高く、精神的暴力についての啓発が必要であると考えられる。

また、「暴力を受けたことがある」という回答があり、表面化していないケースも存在すると思われるため、DV、デートDV防止の啓発と相談窓口のPRが必要と考えられる。

#### 4. 自分らしく生きられる社会について

(P.87～)

- 伊万里市が「男女共同参画宣言都市」であることを知っていたのは 5.1%であり、「男女協働参画を推進する条例」を施行したことを知っていたのは 3.2%で、更に啓発が必要である。
- 男女協働参画社会実現のために取り組むこととして、「子どもの時から男女平等について学ぶ」50.7%が最も高く、次に「男性も家事、育児、介護を学ぶ教室を開く」39.2%となっている。

#### 【 課題 】

「男女共同参画宣言都市であること」と「男女協働参画を推進する条例」について知っている人は少なく、男女協働参画についての意識の醸成を広く図るための啓発を行う必要があると考えられる。

また、子どもの時から男女平等について学ぶ機会があれば、男女協働参画社会の推進につながるという考えが多く、幼少期から男女平等について学ぶ機会が必要と考えられる。

## Ⅱ. 市民 調査結果

### ■回答者の属性

#### 1. 男女平等について

(1)男女平等の実現状況

#### 2. 家庭について

(1)性別役割分担意識について

(2)家事時間・育児時間・介護時間

#### 3. 職業について

(1)現在の職業状況

(2)女性が仕事を続ける上での障害

(3)男性の育児休業・介護休業

#### 4. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

(1)ワーク・ライフ・バランス

#### 5. 子育てと教育について

(1)子どものしつけ

#### 6. 防災について

(1)男女協働参画の視点からの防災

#### 7. 政策決定の場への女性の参画について

(1)女性の意見の政策への反映状況

(2)女性委員が少ない現状

#### 8. 男女間の暴力について

(1)DVドメスティックバイオレンスを受けた経験[被害]

(2)DVドメスティックバイオレンスをした経験[加害]

(3)性暴力を受けた経験

(4)伊万里市女性相談

#### 9. 性的少数者(LGBT)について

(1)LGBTについての社会的意識

(2)パートナーシップ制度について

#### 10. 市として取り組むべき方策について

(1)男女協働参画社会実現のために取り組むべき方策

#### 11. 条例と宣言都市について

(1)男女共同参画宣言都市

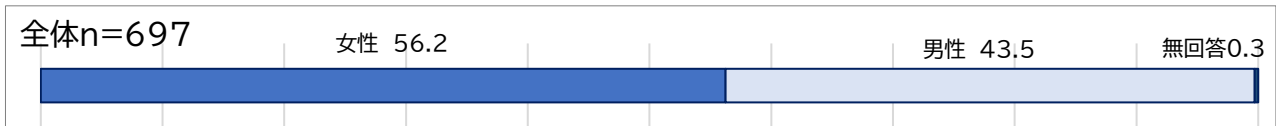
(2)男女協働参画を推進する条例

#### 12. 男女協働参画に関する意見・要望等

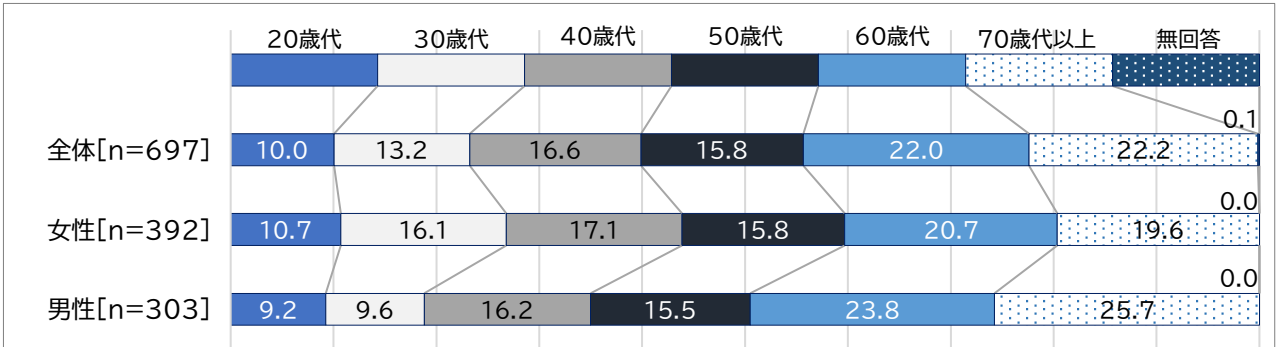


■回答者の属性

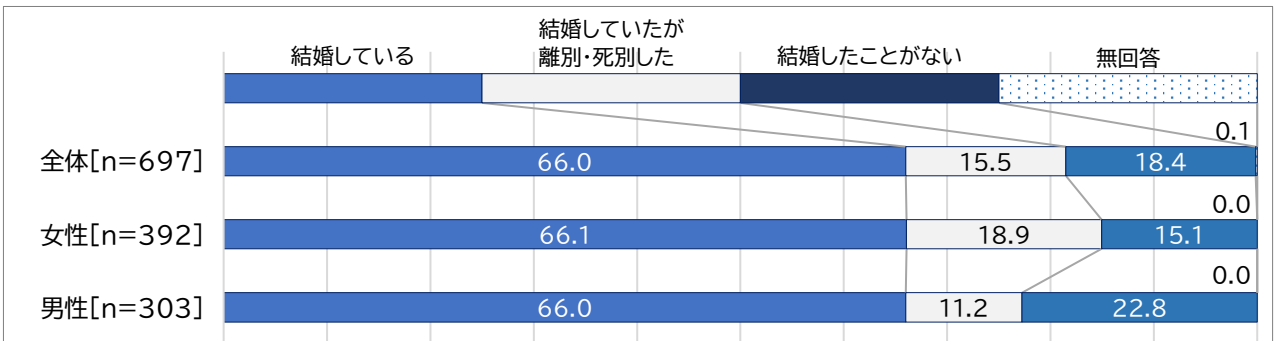
① 性別



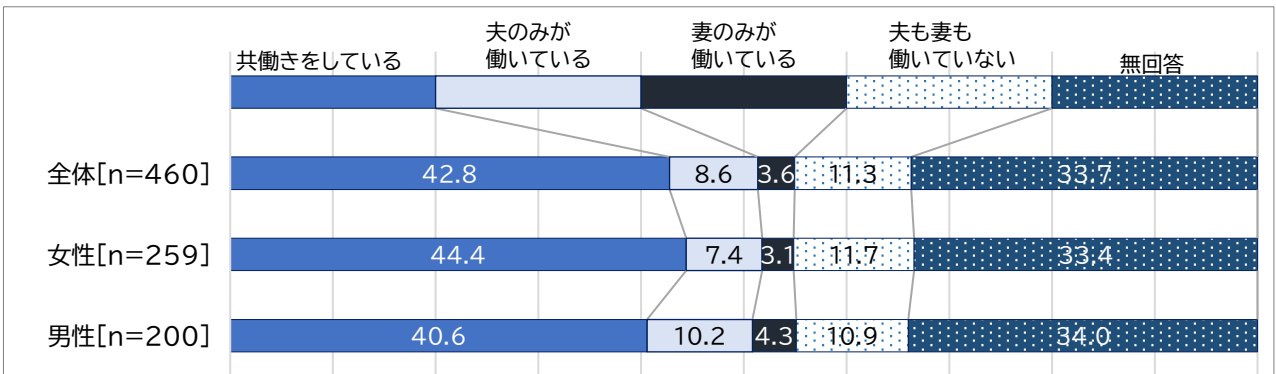
② 年齢



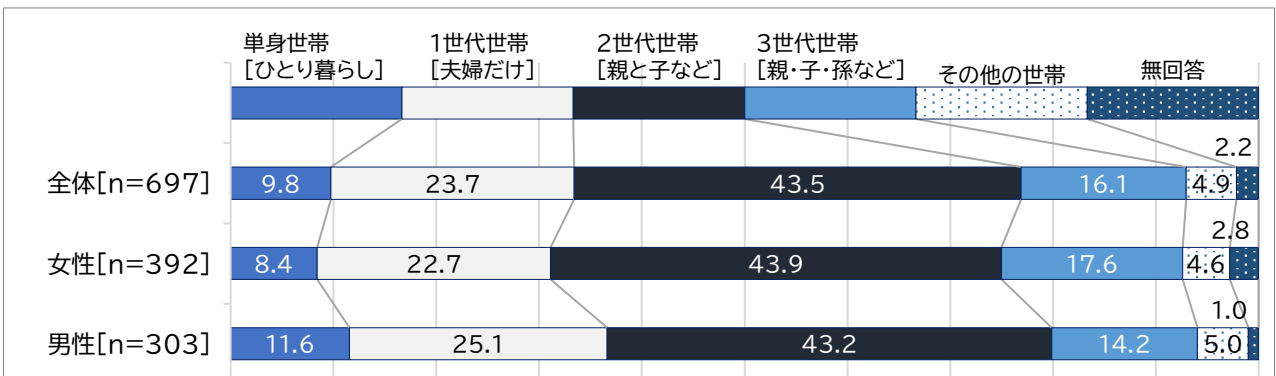
③ 婚姻の有無



④ 共働きの状況【婚姻の有無で「結婚している」と回答した人】



⑤ 世帯構成



## 1. 男女平等について

### (1) 男女平等の実現状況

問1.

あなたは、男女平等が現在どの程度実現していると思いますか。  
(○は質問項目ごとに1つ)

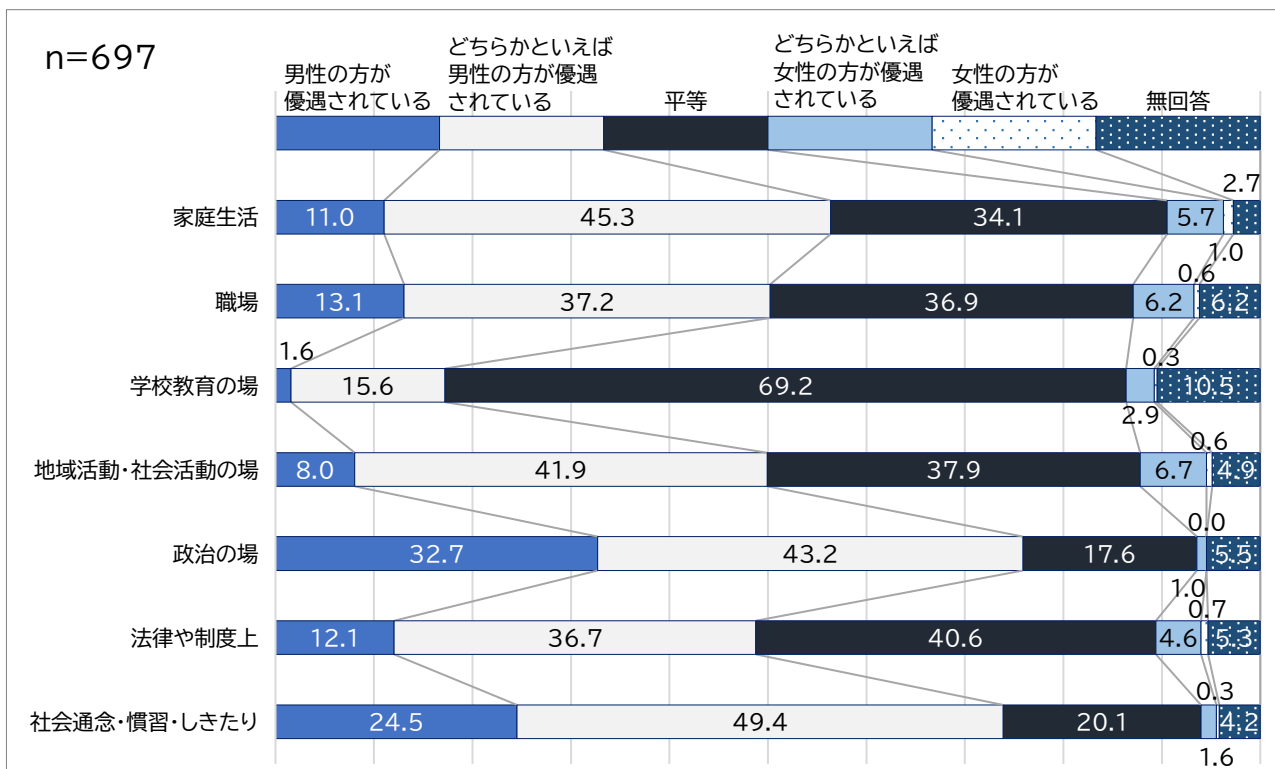
◆平等と感じる割合が最も高いのは「学校教育の場」で69.2%。

「平等」の割合が高かったのは「学校教育の場」が69.2%と7割近く、次いで「法律や制度の上」が40.6%となっている。

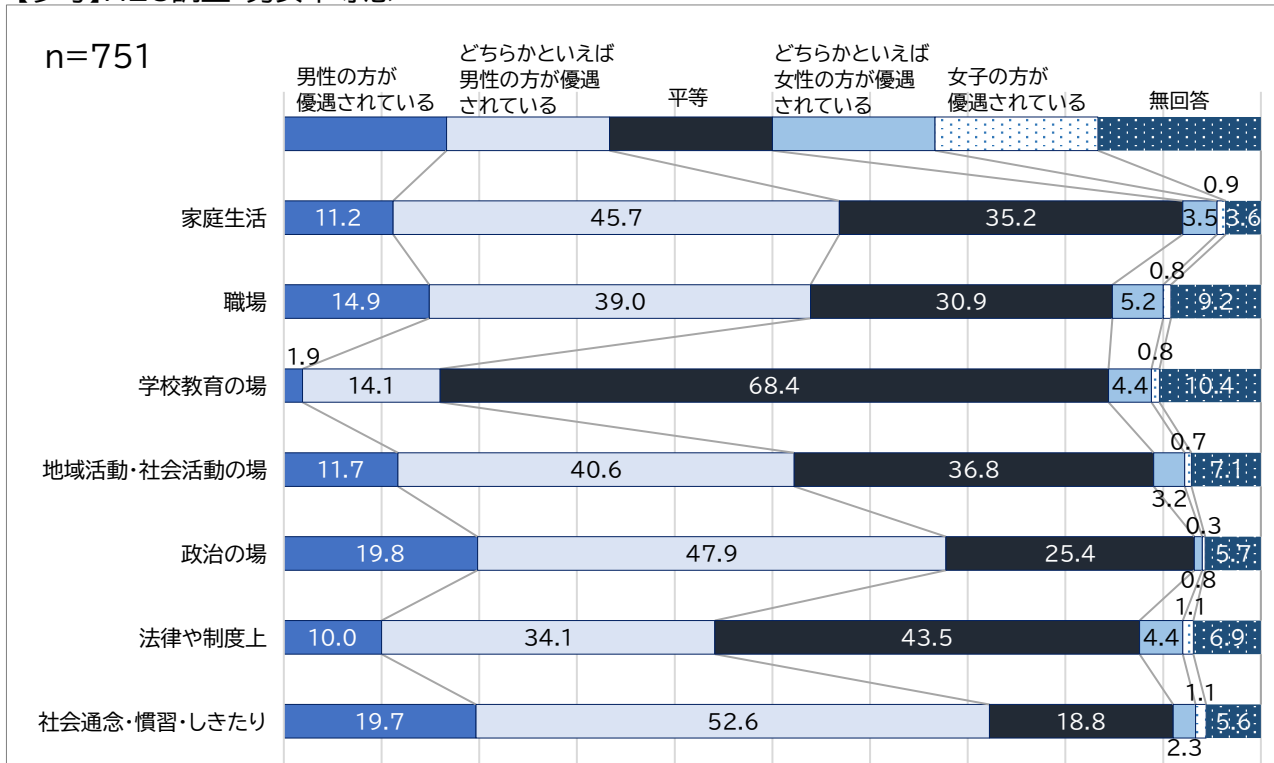
「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」の割合が高いのは、「政治の場」が75.9%(H28:67.7%)、「社会通念・慣習・しきたり」73.9%(H28:72.3%)となっている。

前回のH28調査から特に平等と感じる割合が高くなったのは「職場」で、6ポイント高くなっている。(R3:36.9%、H28:30.9%)割合が特に低くなったのは「政治の場」で、8ポイント低くなっている。(R3:17.6%、H28:25.4%)

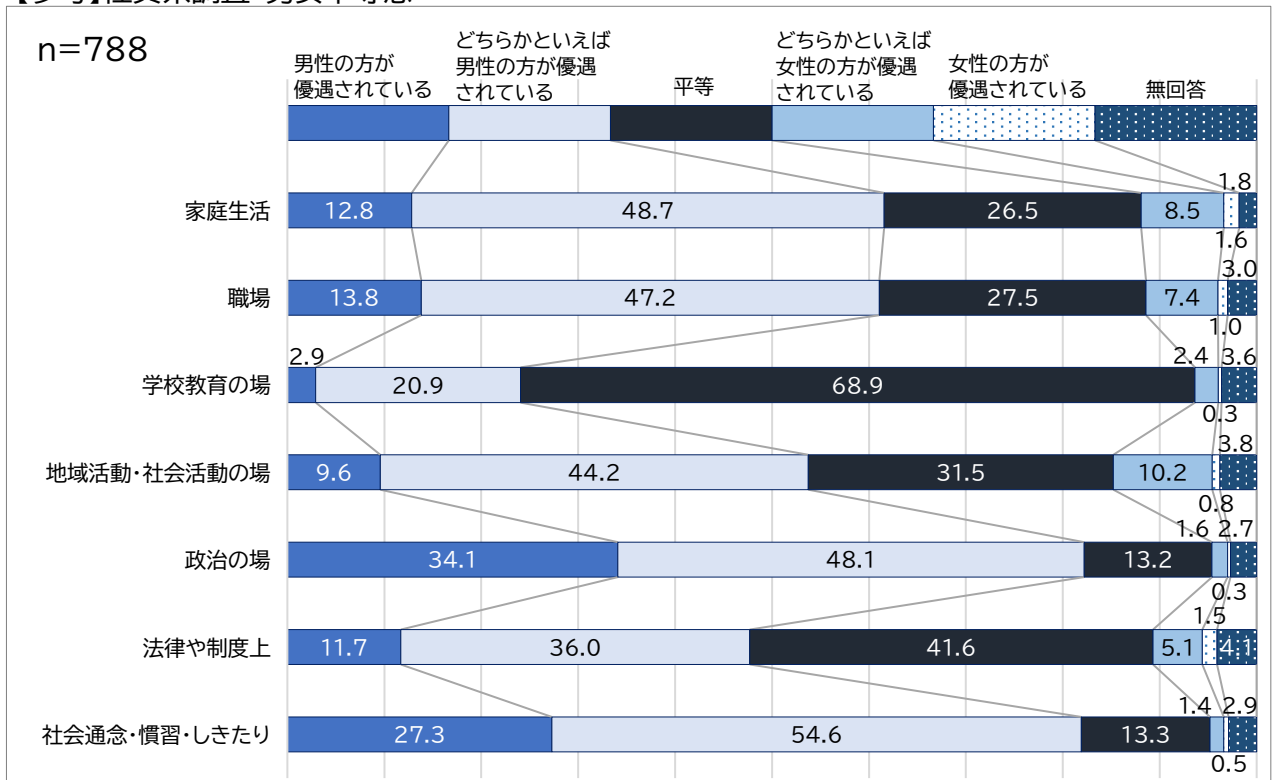
佐賀県調査(R1)と比較すると、「法律や制度上」以外の項目で、「平等」の割合が高くなっている。



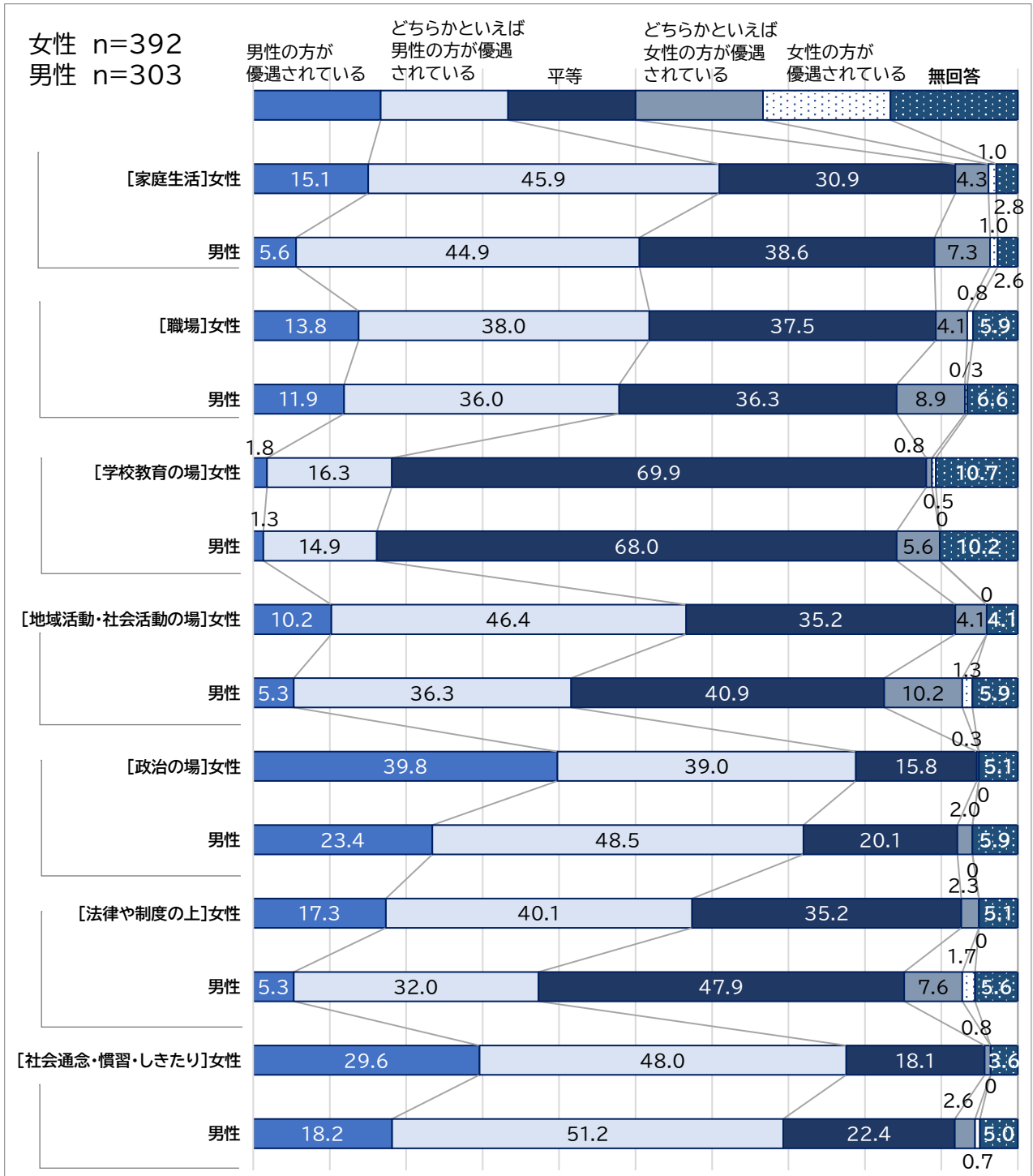
【参考】H28調査・男女平等感



【参考】佐賀県調査・男女平等感



男女平等感(R3調査 性別)



## 2. 家庭について

### (1) 性別役割分担意識について

**問2.** あなたは、一般的に「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思いますか。

◆「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」といった性別役割分担意識について、反対「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合は74%。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」といった性別役割分担意識について、賛成「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、25.1%(H28:19.2%)、反対「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合が、74%(H28:78.6)となっている。

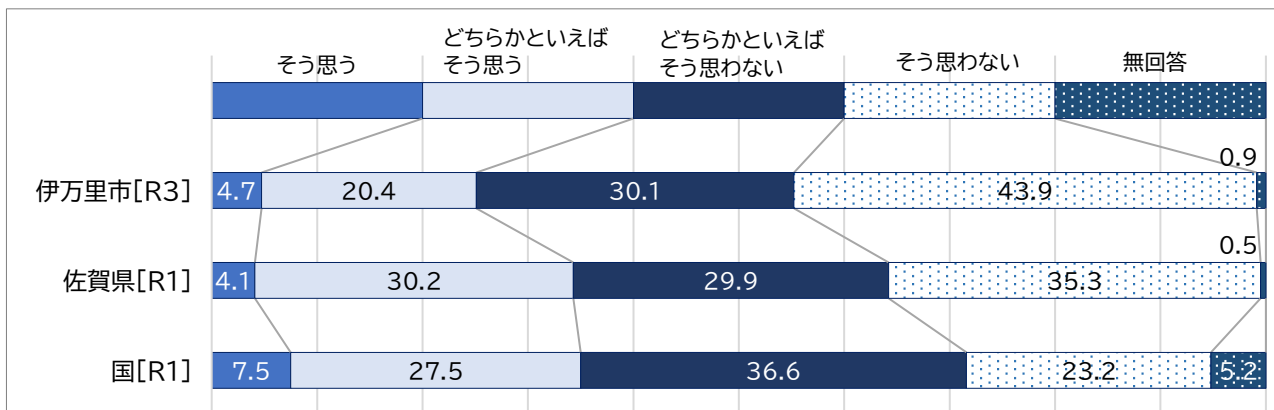
佐賀県調査(R1)34.3%、全国調査(R1)35.0%と比較して、賛成の割合は低くはなっているが、前回のH28調査より5.9ポイント増加している。

性別でみると、賛成は、男性31.0%(H28:21.7%)、女性20.4%(H28:17.2%)となっており、男性の方が10.6ポイント高くなっている。

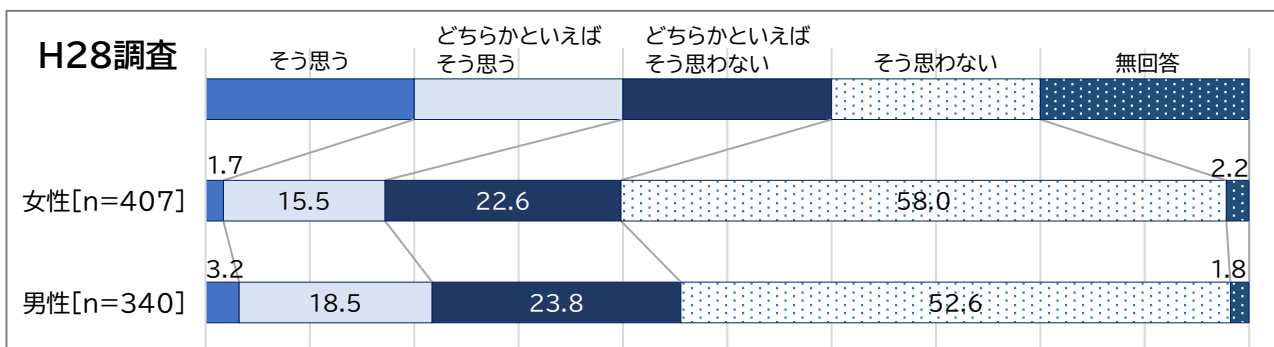
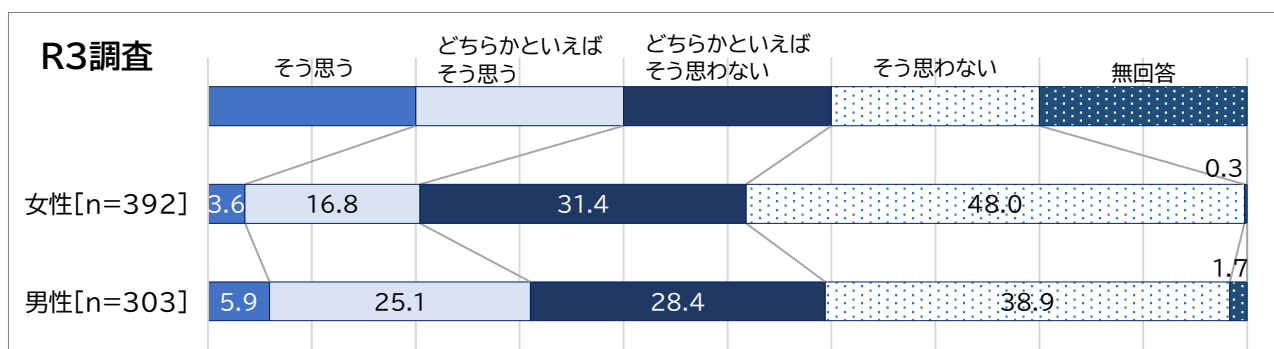
年代別では、20歳代が反対する割合が高く、男性92.9%(H28:85%)、女性90.5%(H28:78.4%)となっている。また、女性の20歳代～60歳代では反対する人の割合が、8割を超えている。

賛成する人の割合が最も高いのは、70歳代以上の男性で、51.2%(H28:36.4%)となっている。

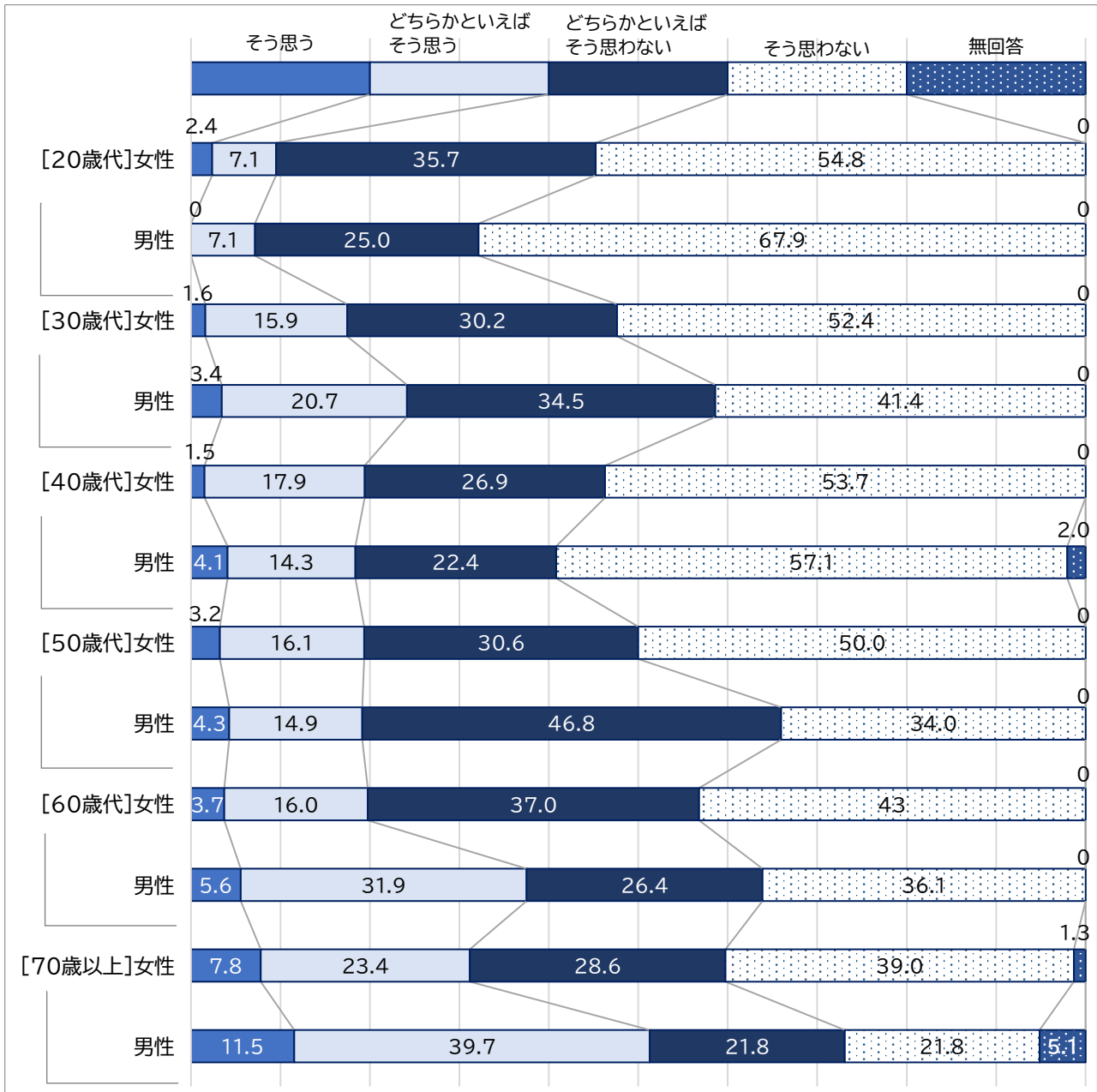
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について【伊万里市/県/国】



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について



【図表】「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について(伊万里市/年代・性別比較)



(2)家事時間・育児時間・介護時間

問3.

あなたの平日における1日の家事・育児・介護時間について、おおよその時間数を記入してください。

- ◆「家事時間」「育児時間」は女性が長い
- ◆男性の「家事時間」「育児時間」が、前回H28調査より長くなっている

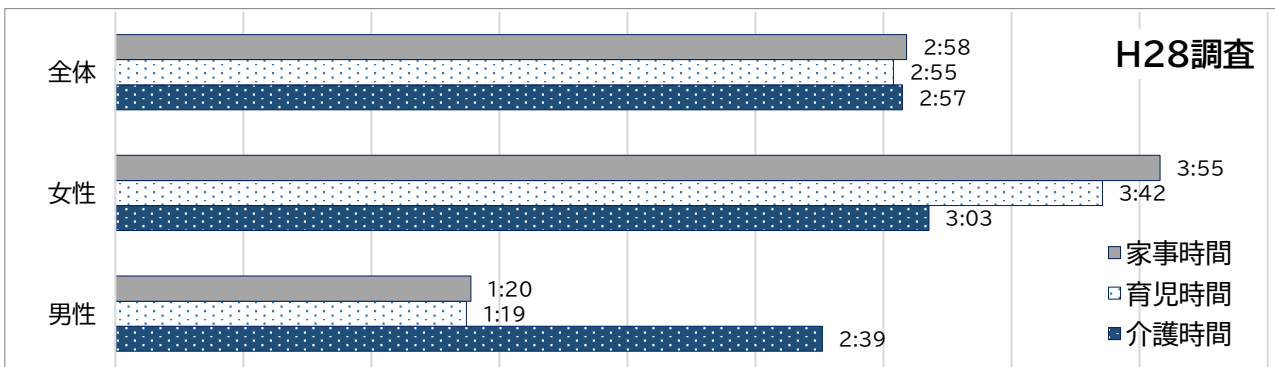
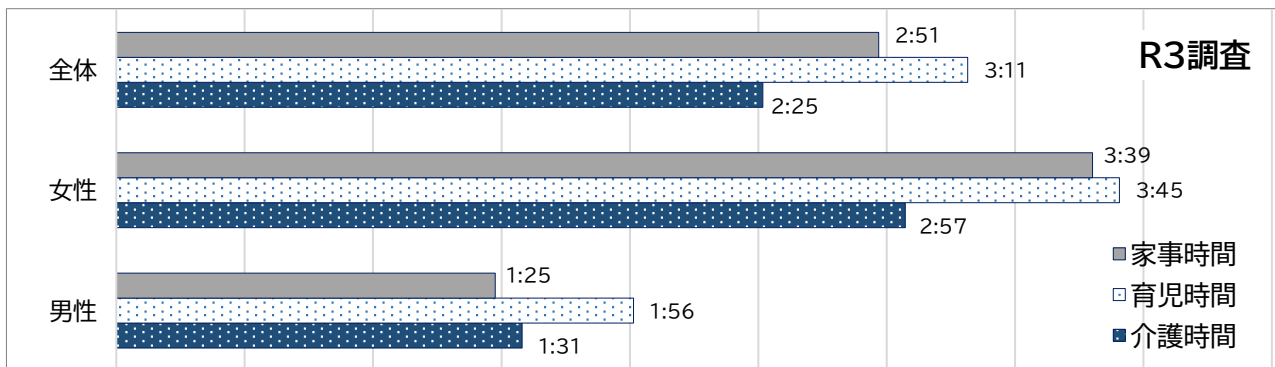
全体では、1日の「家事時間」が、2時間51分(H28:2時間58分)、「育児時間」が、3時間11分(H28:2時間55分)、「介護時間」が、2時間25分(H28:2時間57分)となっている。

男性の「家事時間」は、1時間25分で、H28調査より5分長くなり、「育児時間」は、1時間56分で、H28調査より37分長くなっている。

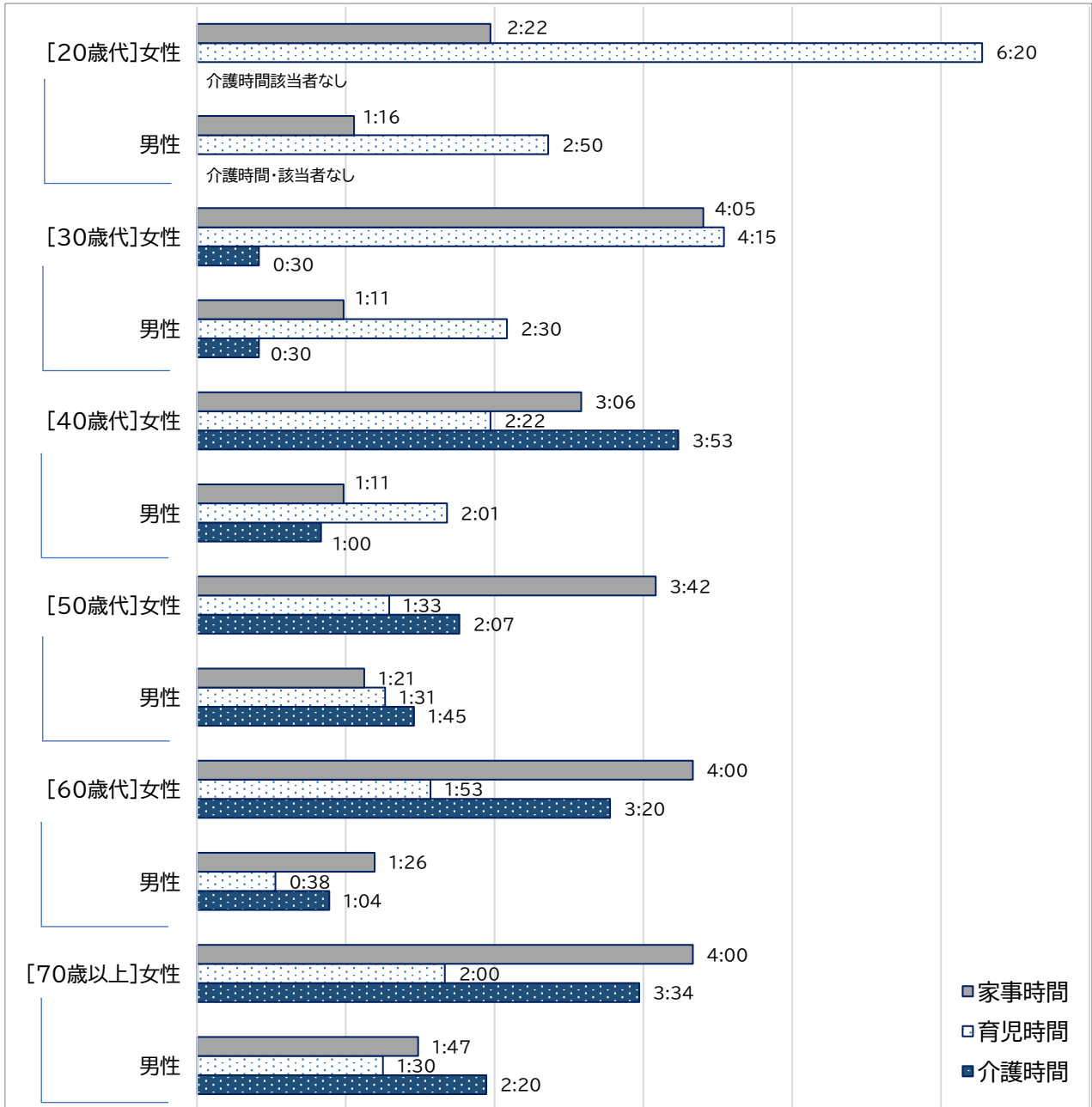
性別で見ると、「家事時間」は、女性が3時間39分で、男性より、2時間14分長く、「育児時間」は、女性が3時間45分で、男性より、1時間49分長く、「介護時間」は、女性が2時間57分で、男性より1時間26分長くなっている。

性別で差が大きいのは、20歳代の「育児時間」で、女性が、男性より3時間30分長く、40歳代の「介護時間」では、女性が、男性より2時間53分長くなっている。

家事時間・育児時間・介護時間



年代・性別比較



3. 職業について

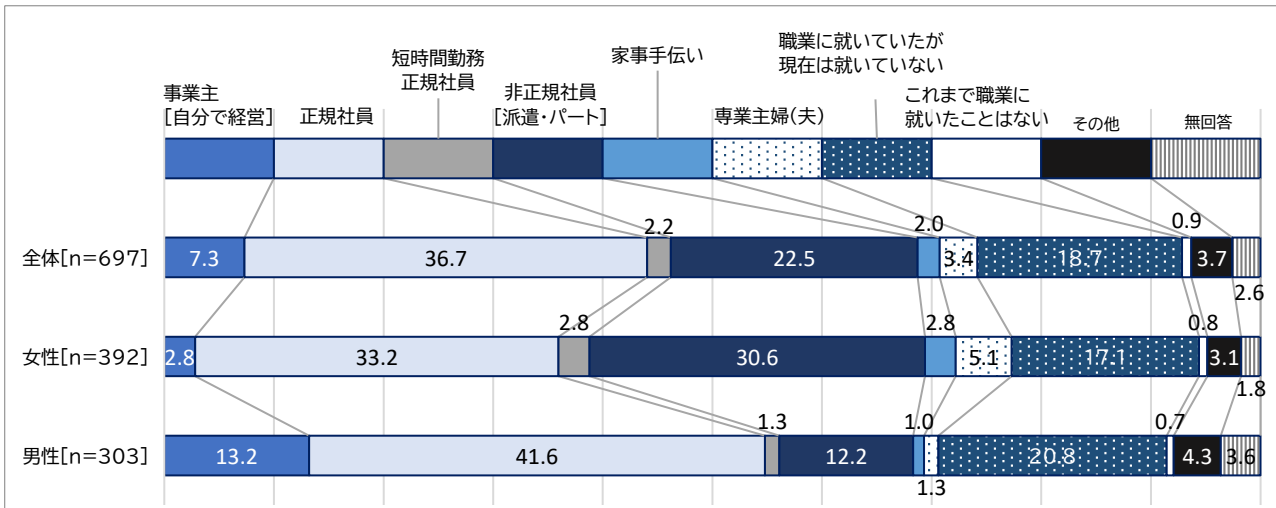
(1)現在の職業状況

問4. あなたは、今どのような形で働いていますか。

◆正規社員は、男性が高く、非正規社員の割合は女性が高くなっている。

全体の4割弱が正社員、2割強が非正規社員となっている。  
 正規社員は、男性が41.6%で、女性より、8.4ポイント高くなっている。非正規社員は、女性が30.6%で、男性より、18.4ポイント高くなっている。





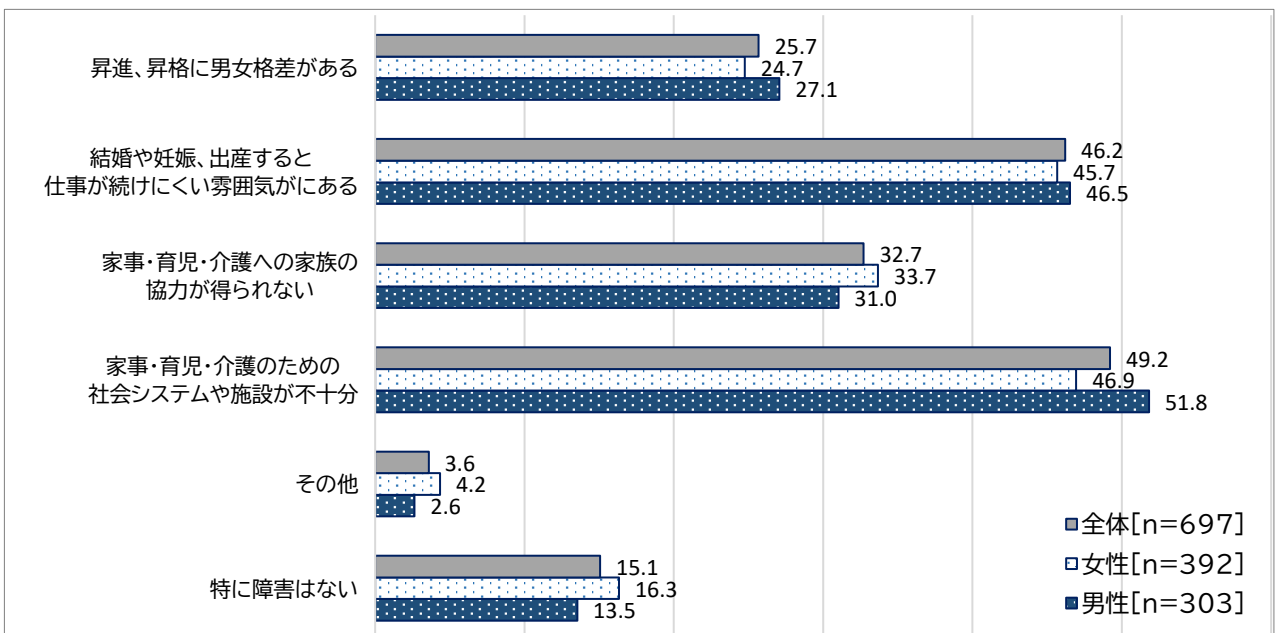
(2)女性が仕事を続ける上での障害

**問5.** あなたは、女性が仕事を続けていく上で、障害になっていることは何だと思います (〇は3つまで)

◆「家事・育児・介護のための社会システムや、施設等が不十分である」「結婚や妊娠・出産すると、仕事や続けにくい雰囲気が職場にある」が多い

全体では、「家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分である」が49.2%(H28:53.3%)で、最も高く、次に「結婚や妊娠・出産すると、仕事が続けにくい雰囲気が職場にある」が46.2%(H28:53.3%)となっている。また、「特に障害はない」が、15.1%(9.5%)となっている。

性別で見ると、「家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分である」が、男性では、51.8%(H28:55.3%)で、女性より4.9ポイント高く、「家事・育児・介護への家族の協力が得られない」が、女性では33.7%(H28:33.7%)で、男性より2.7ポイント高くなっている。

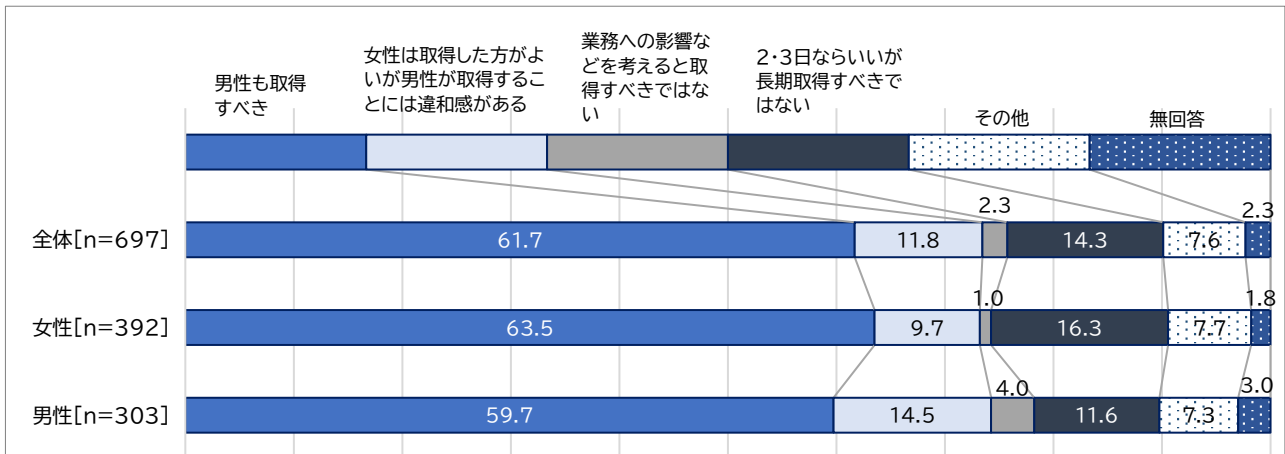


(3)男性の育児休業・介護休業

**問6.** あなたは、男性が育児休業を取得することについて、どう思いますか。(〇は1つ)

◆6割以上が男性が育児休業を取得することに賛成

「男性も取得すべき」が、女性では63.5%で、男性より3.8ポイント高く、「女性は取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある」が、男性では14.5%で、女性より4.8ポイント高くなっている。



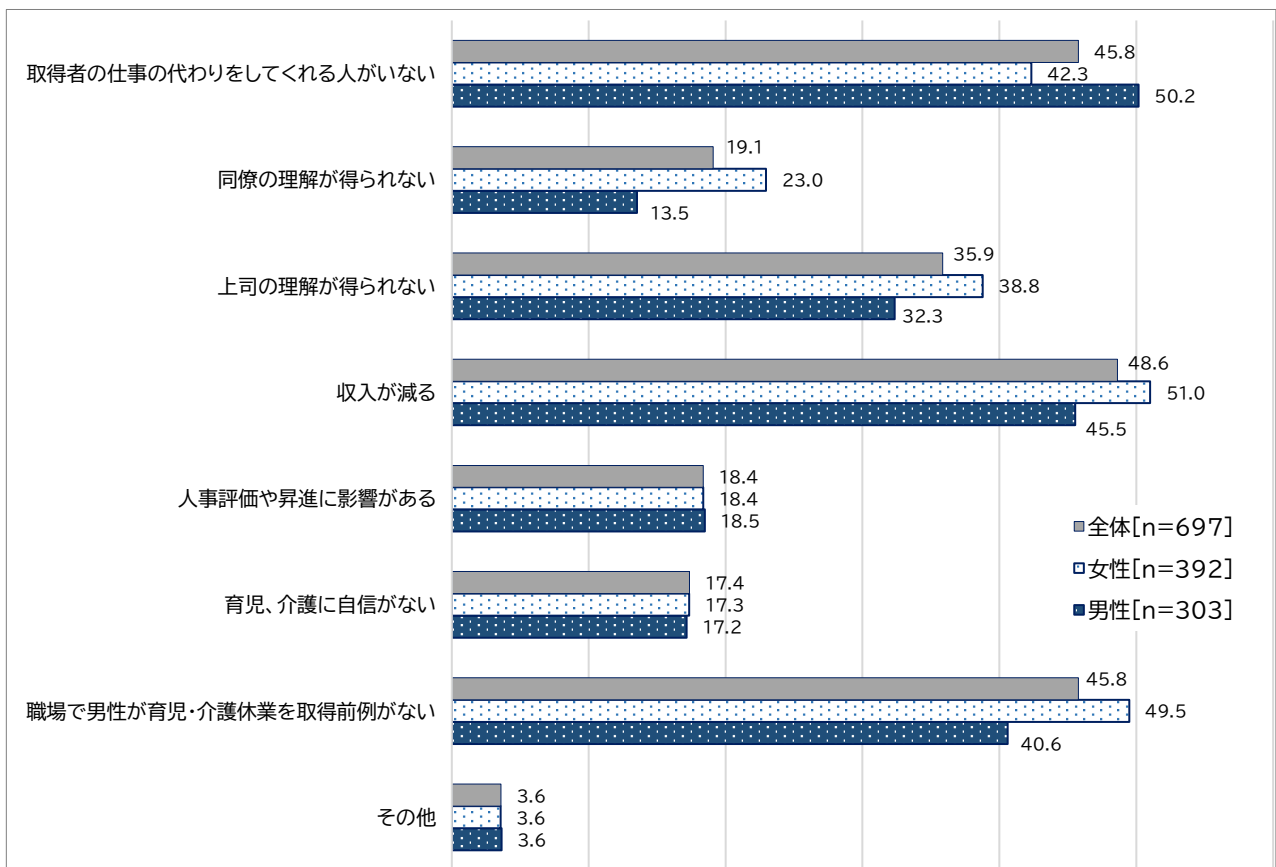
問7.

男性の育児休業や介護休業の取得が進まない現状にあります。あなたはどのような理由からだと思いますか。(〇は3つまで)

◆「収入が減る」「取得者の仕事の代わりにしてくれる人がいない」「職場で男性が育児休業、介護休業を取得した前例がない」が高くなっている

「収入が減る」が、48.6%で、最も高く、次に、「取得者の仕事の代わりにしてくれる人がいない」「職場で男性が育児休業、介護休業を取得した前例がない」が、45.8%となっている。

性別で見ると、男性では、「取得者の仕事の代わりにしてくれる人がいない」が、50.2%で最も高く、次に「収入が減る」が、45.5%となっている。女性では、「収入が減る」が、51%で最も高く、次に「職場で男性が育児休業、介護休業を取得した前例がない」49.5%となっている。



## 4. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

### (1)ワーク・ライフ・バランス

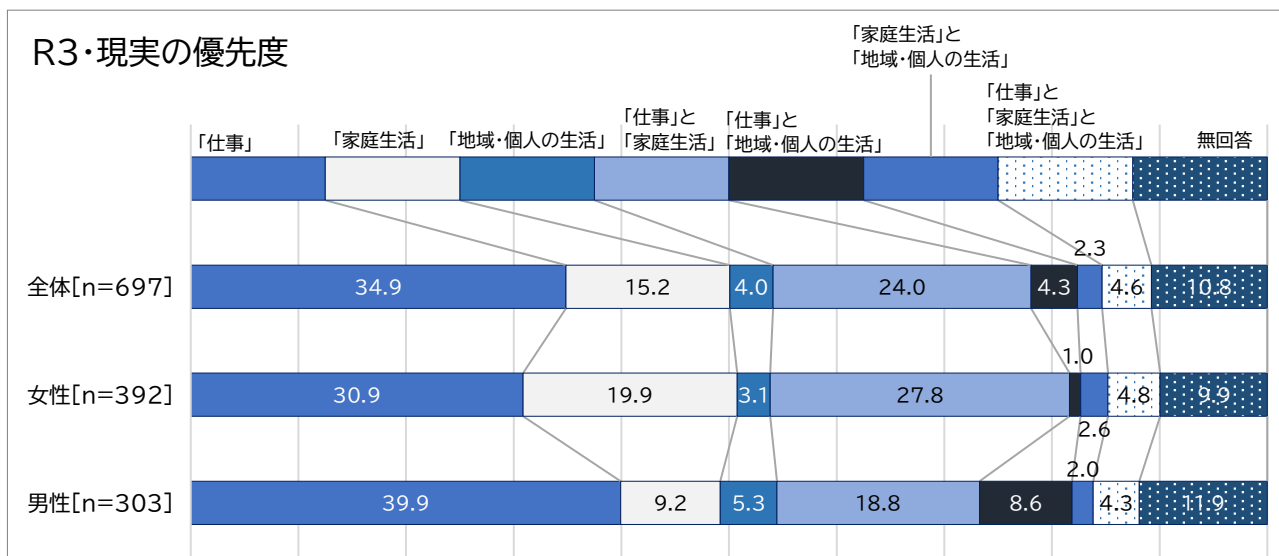
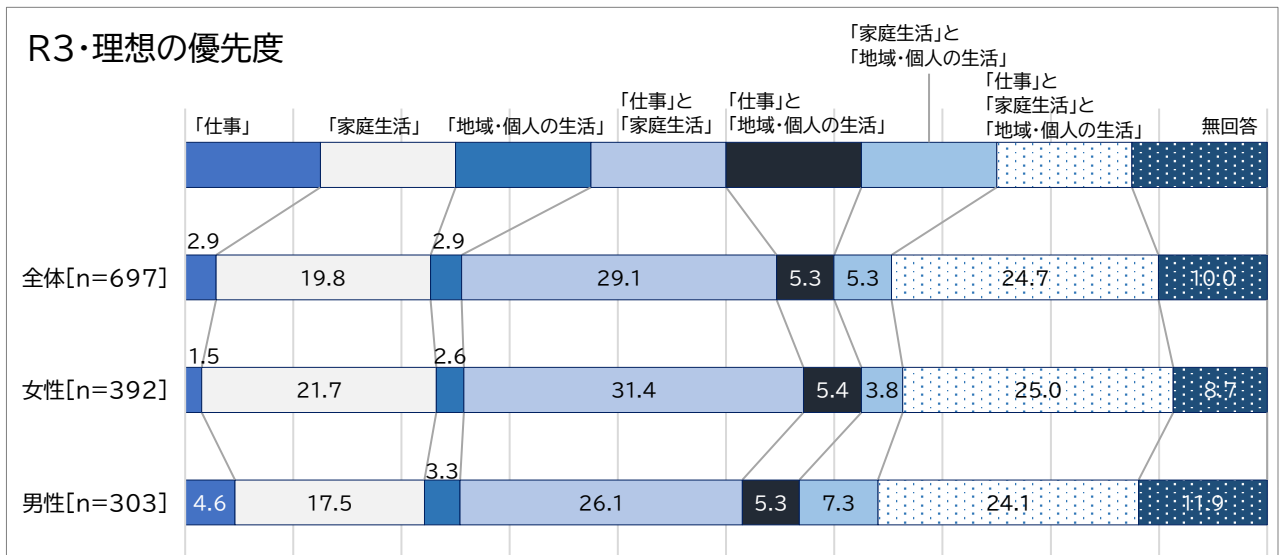
**問8.** あなたの生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のうち“理想の優先度”と“現実の優先度”はどれですか。(〇は1つ)

◆理想の優先度は、『「仕事」と「家庭生活」』、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』、『家庭生活』が高いが、現実には、『仕事』の優先度が最も高い生活の中で仕事・家庭・地域等、複数の活動を優先する市民の割合は、35.2%となっており、H28調査37.5%より低くなっている。

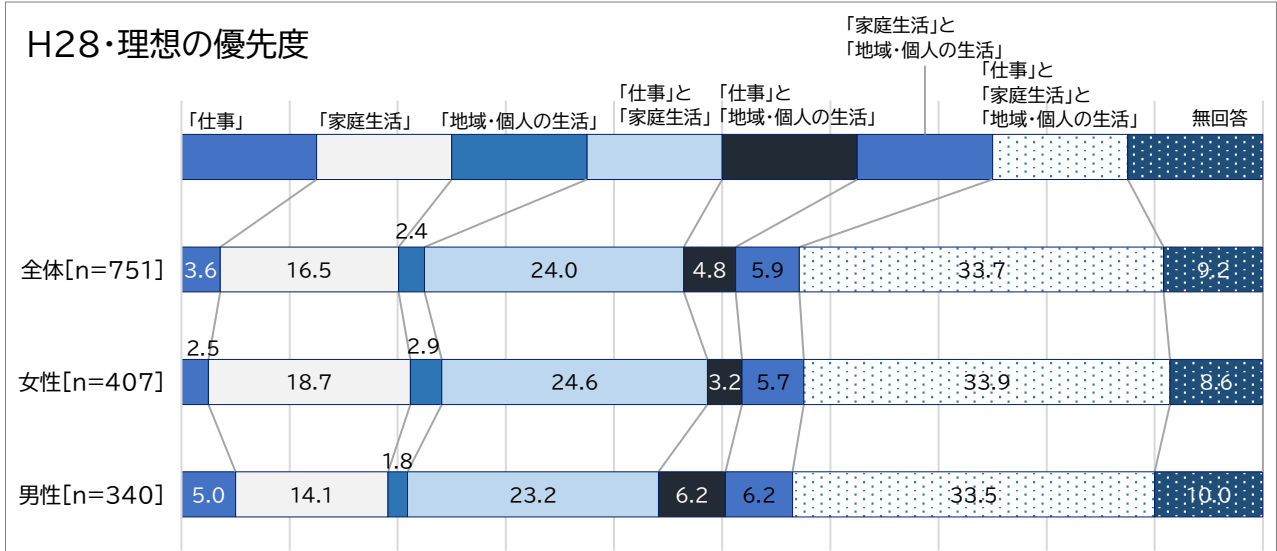
理想の優先度は、全体では『「仕事」と「家庭生活」』が、29.1%(H28:24%)で、最も高く、年代別でも高くなっているが、現実では24%(H28:16.8%)となっている。

現実の優先度は、『仕事』が、34.9%で、最も高く、年代別でも70歳以上を除く、全ての年代で『仕事』の優先度が高くなっているが、理想の優先度は、2.9%であり、理想と現実の優先度の差が大きい。

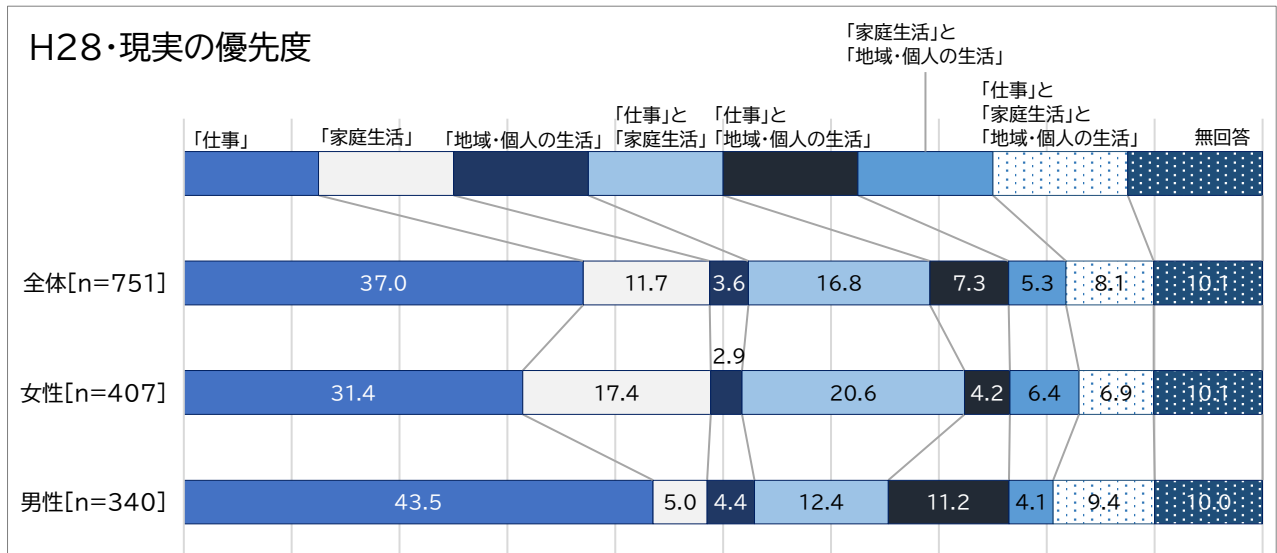
性別で見ると、現実の優先度は男性では、『仕事』が、39.9%で、最も高く、女性より9ポイント高い。また、女性では、『「仕事」と「家庭生活」』が、27.8%で、男性より9ポイント高くなっている。

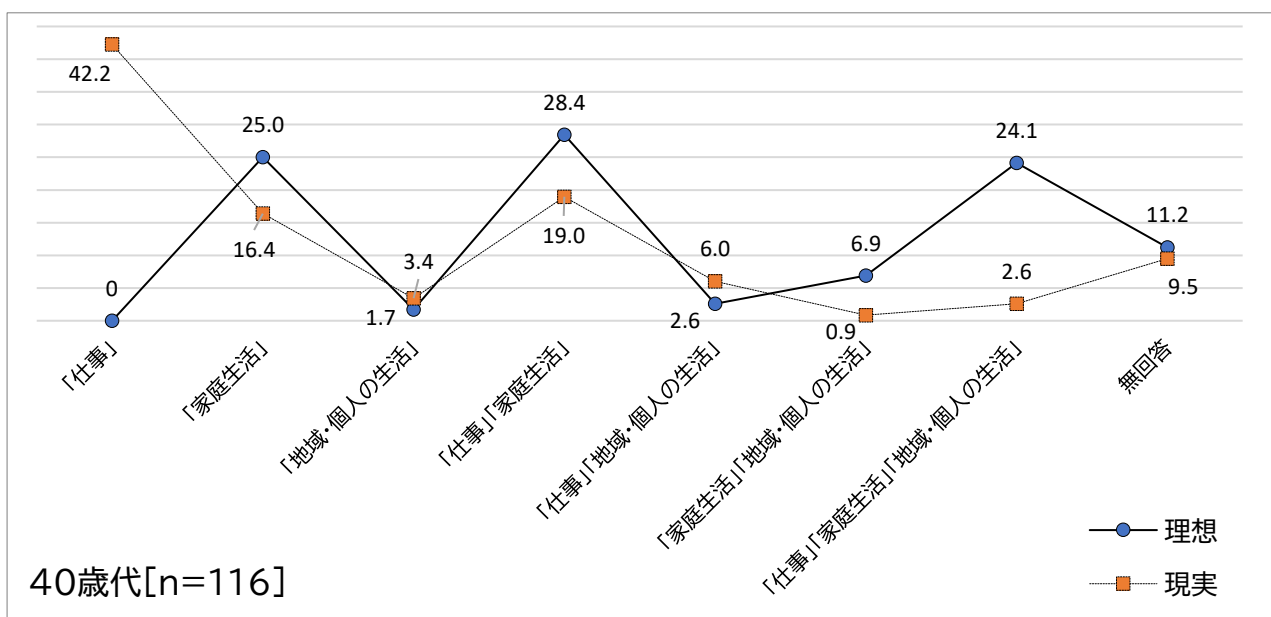
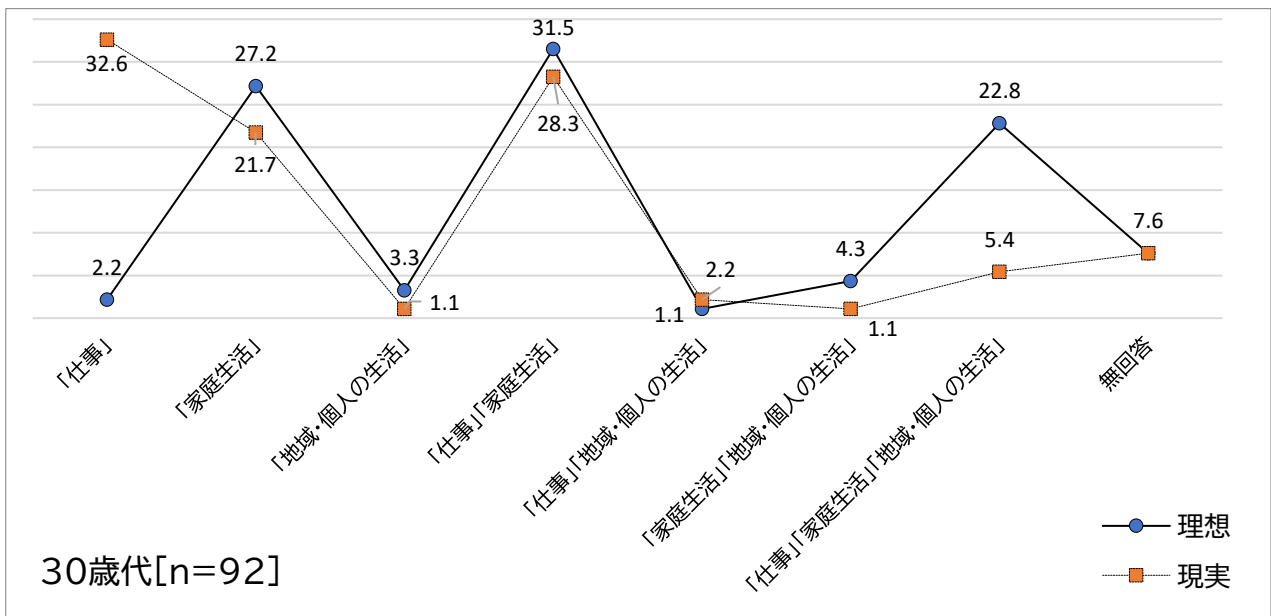
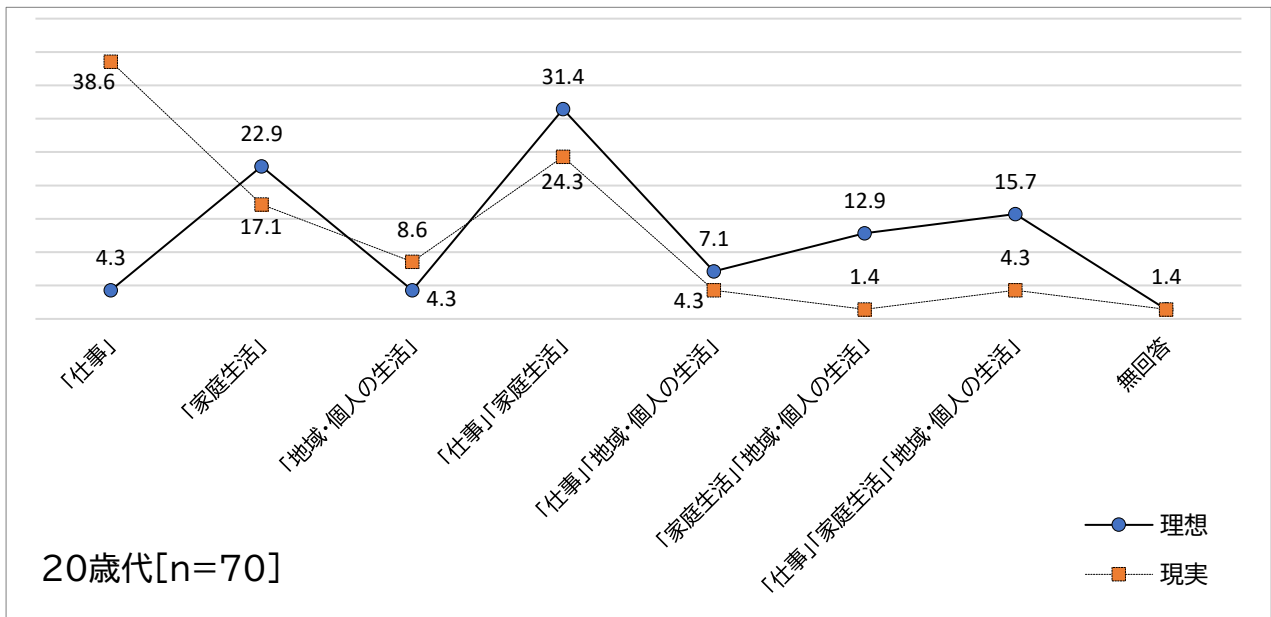


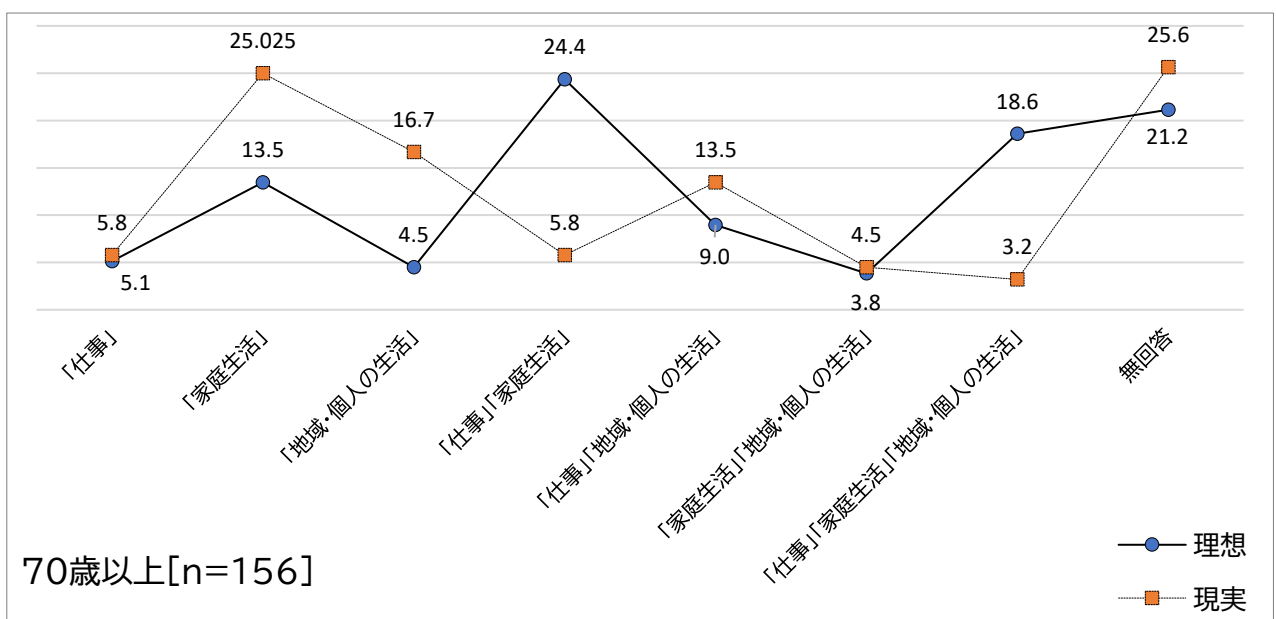
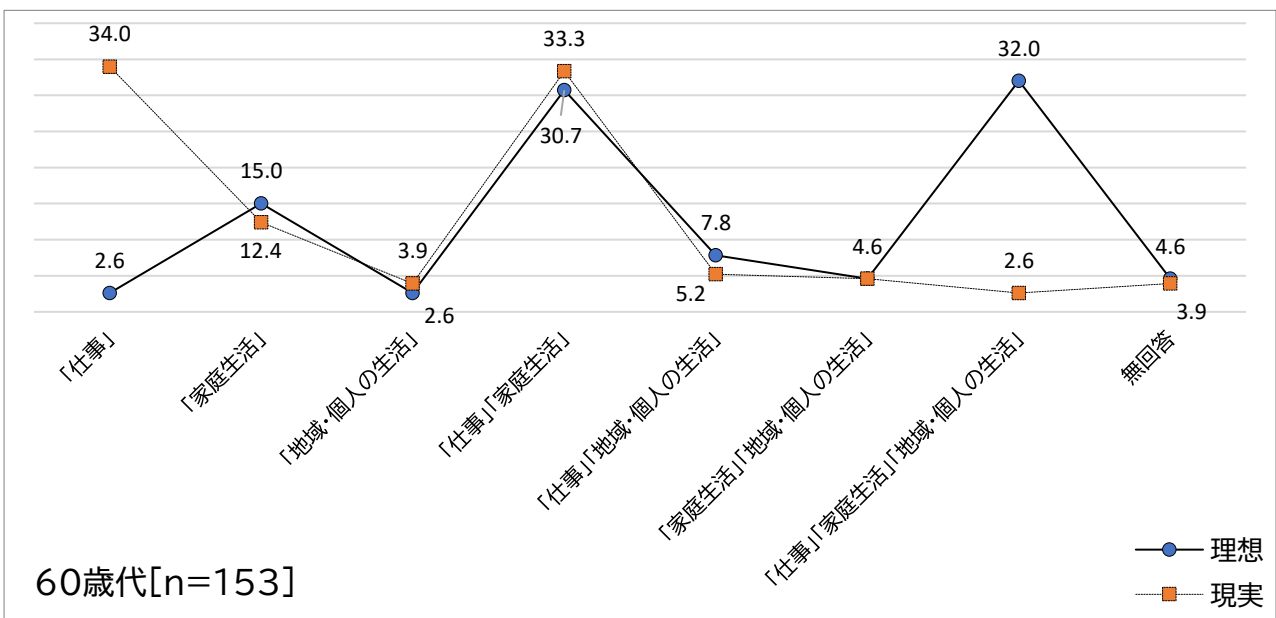
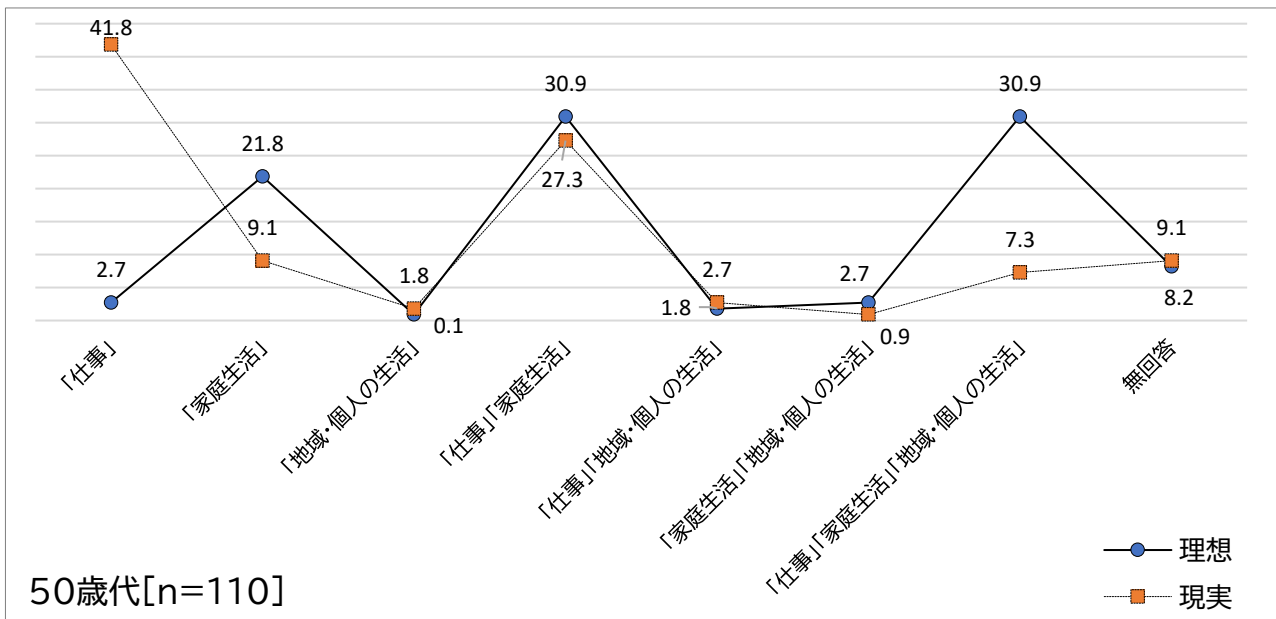
### H28・理想の優先度



### H28・現実の優先度





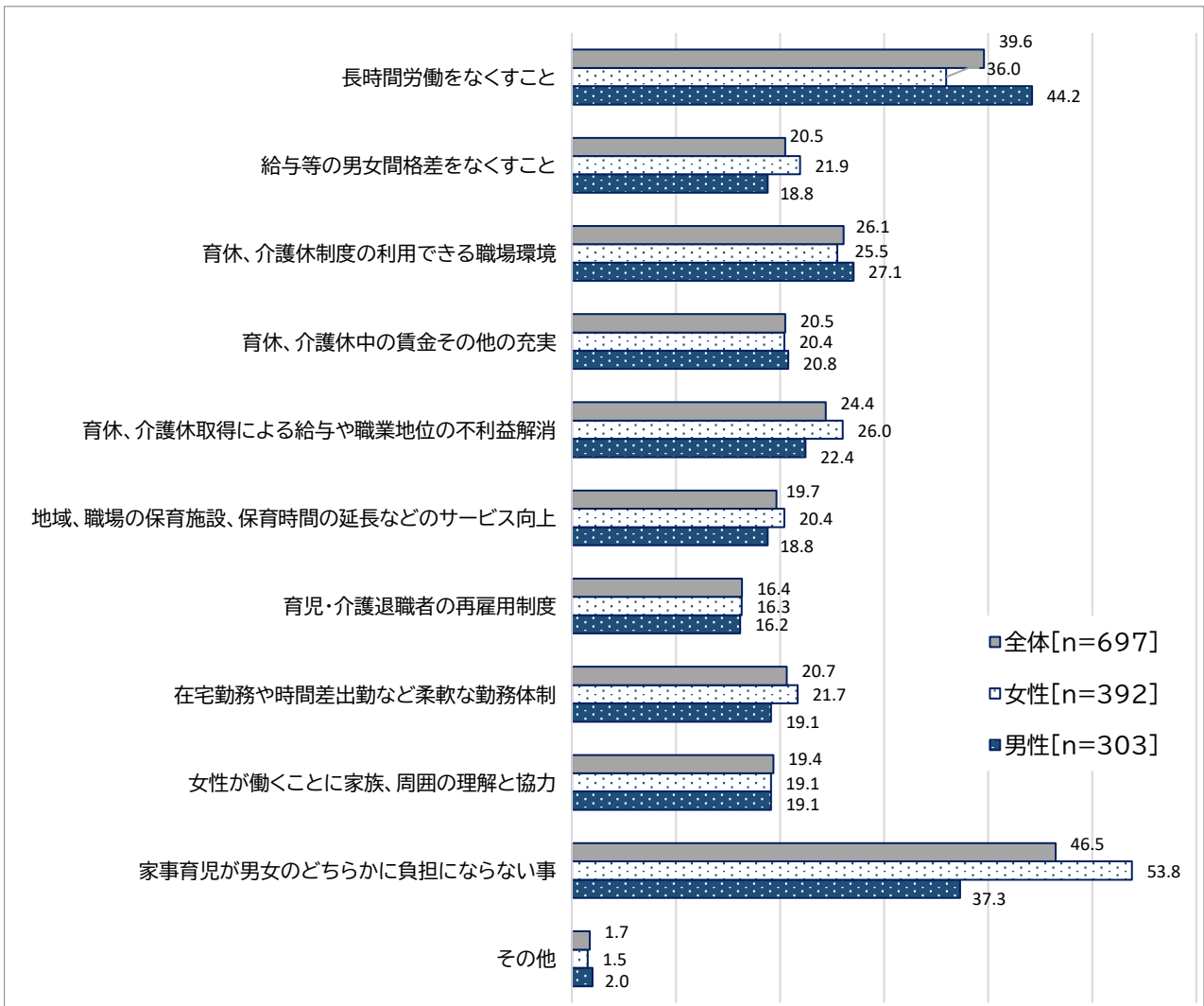


問9.

ワークライフバランスを実現していくため、どのようなことが必要だと思いますか。  
(○は3つまで)

◆「家事や育児を男女が協力して行い、どちらかに負担がかかりすぎないこと」が最も高い

全体では、「家事や育児を男女が協力して行い、どちらかに負担がかかりすぎないこと」が、46.5% (H28:35.6%)で、最も高く、次に「長時間労働をなくすこと」が、39.6%(H28:32.2%)となっている。性別で見ると、女性は、「家事、育児を男女が協力して行い、どちらかに負担がかかりすぎないこと」が、最も高く、男性は、「長時間労働をなくすこと」が、最も高くなっている。



5. 子育てと教育について

(1)子どものしつけ

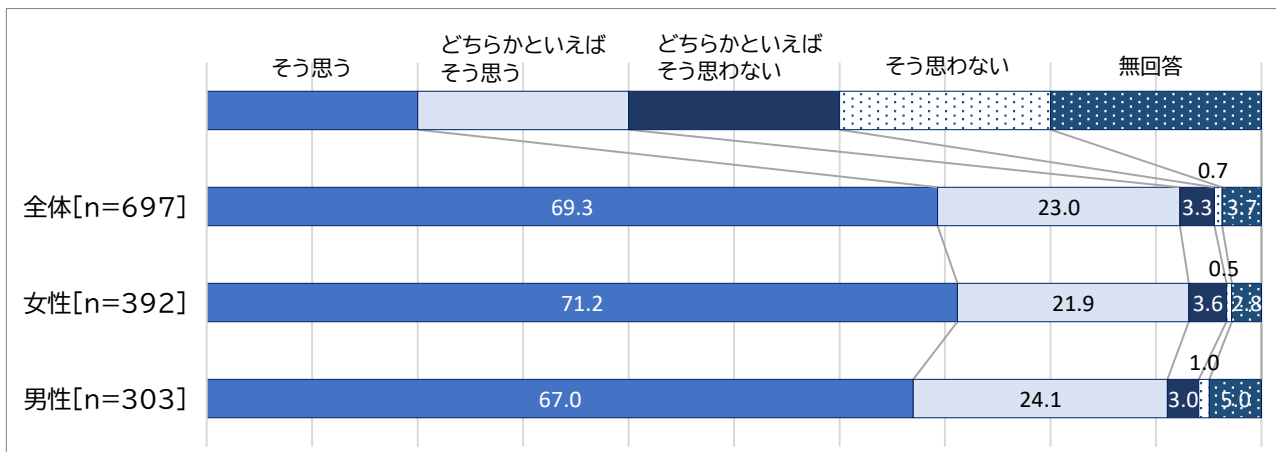
問10.

あなたのご意見に近いものはどれですか。

1. 女の子も男の子も同じように、経済的に自立できるような教育が必要

◆「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は9割強

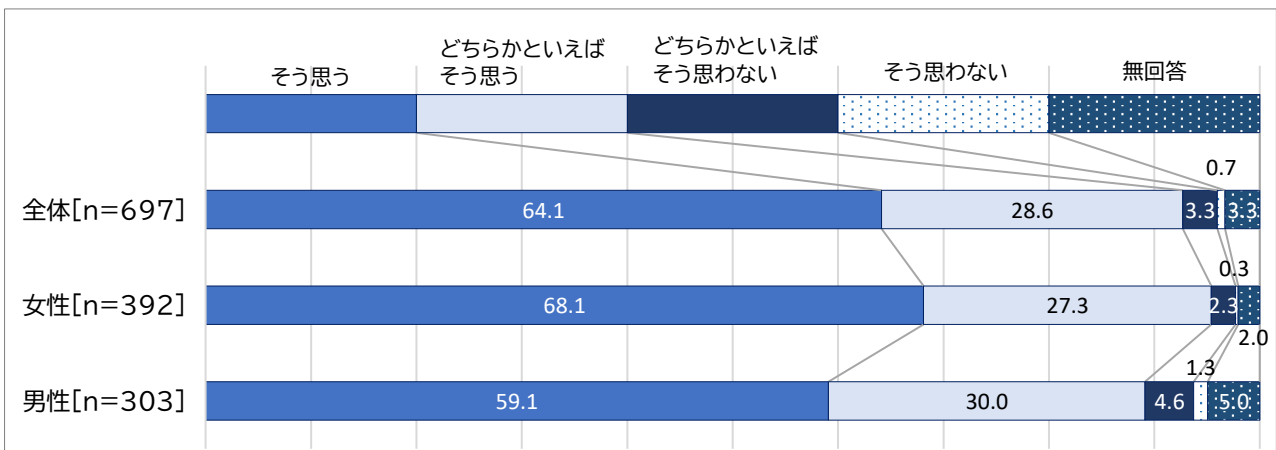
「女の子も男の子と同じように、経済的に自立できるような教育が必要」という考え方について、全体で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、92.3%(H28:91.6%)で、性別による回答の差もほぼない。



2. 女の子も男の子も同じように、炊事・洗濯・掃除など生活に必要な技術を身に付けた方がよい

◆「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は9割強

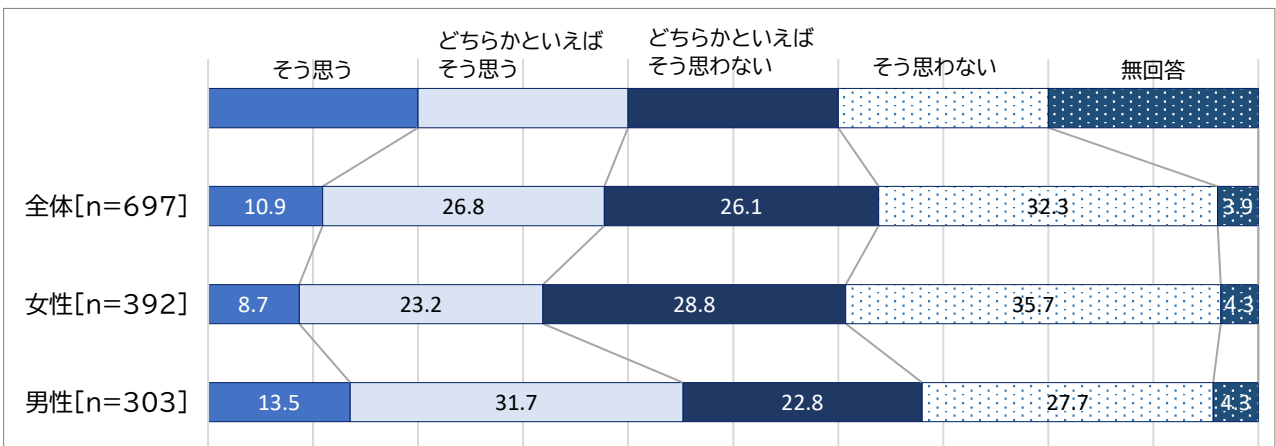
「女の子も男の子も同じように、炊事・洗濯・掃除など生活に必要な技術を身に付けた方がよい。」という考え方について、全体で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、92.7%(H28:90.3%)で、性別による回答の差もほぼない。



3. 男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる

◆「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が6割弱

「男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる。」という考え方について、全体で「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が、女性では64.5%(H28:50.7%)で、男性より14ポイント高くなっている。





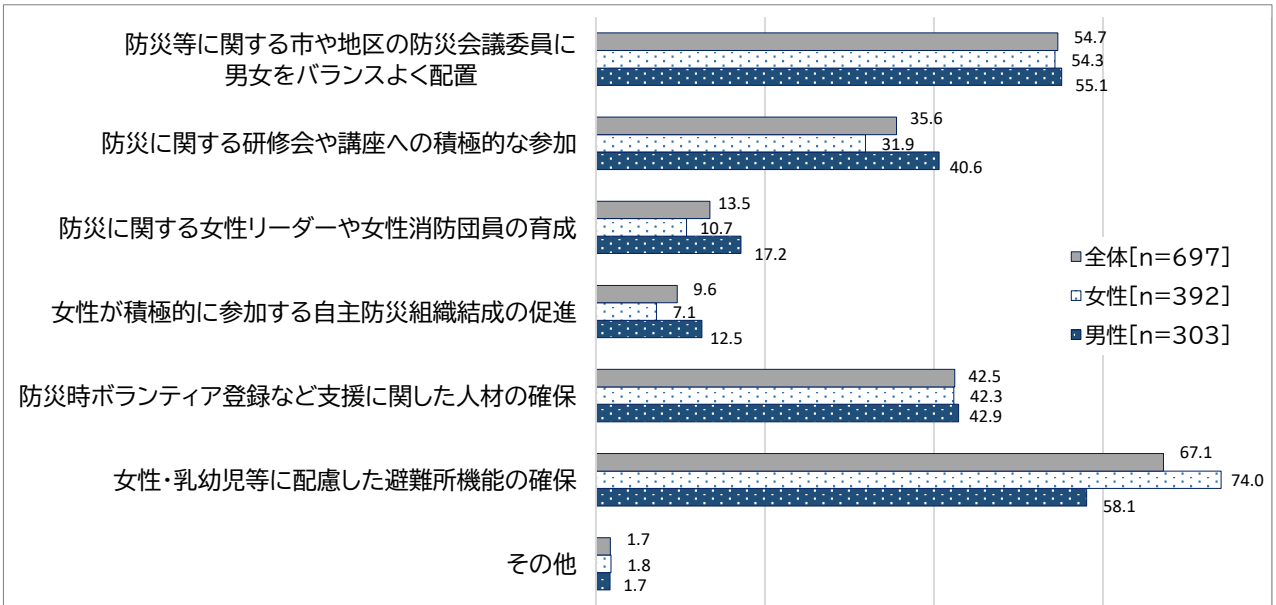
## 6. 防災について

### (1)男女協働参画の視点からの防災

**問11.** 防災[災害復興を含む]には男女のニーズの違いに配慮した取り組みが必要だと考えられるようになってきました。今後の防災活動を推進していくために、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

#### ◆「女性や乳幼児に配慮した避難所機能の確保」が7割弱

全体では、「女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保」が、67.1%(H28:54.9%)で最も高く、「防災等に関する市や地区の防災会議委員に男女をバランスよく配置」が、54.7%(H28:49.5%)で、「災害時ボランティア登録など支援に関した人材の確保」が、42.5%(H28:42.2%)となっています。



## 7. 政策決定の場への女性の参画について

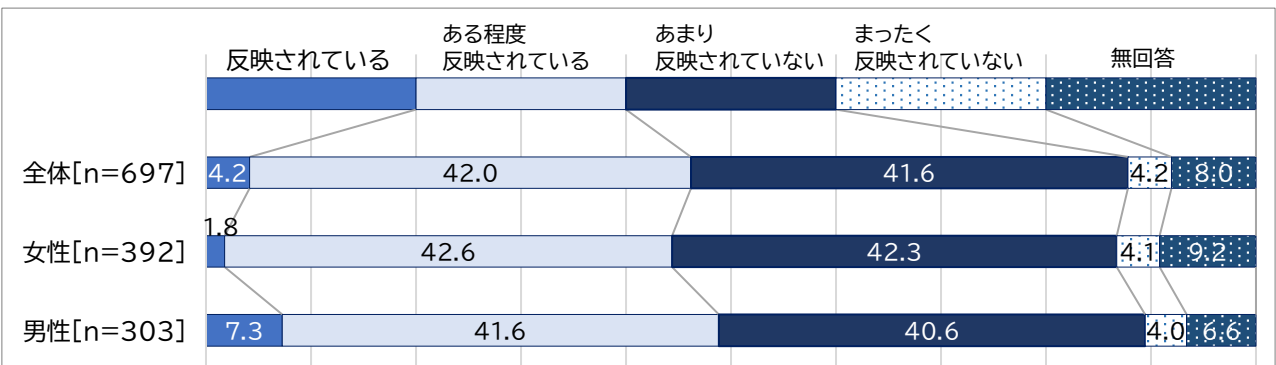
### (1)女性の意見の政策への反映状況

**問12.** あなたは、現在の伊万里市の政策に女性の意見が反映されていると思いますか。(〇は1つ)

#### ◆「反映されている」「ある程度、反映されている」はH28年度調査より微増

「反映されている」「ある程度、反映されている」が、46.2%で、前回のH28調査 40.7%より、5.5ポイント高くなっている。

性別で見ると、女性では、「反映されている」「ある程度、反映されている」が、44.4%(H28:33.4%)で、男性より、4.5ポイント低くなっている。

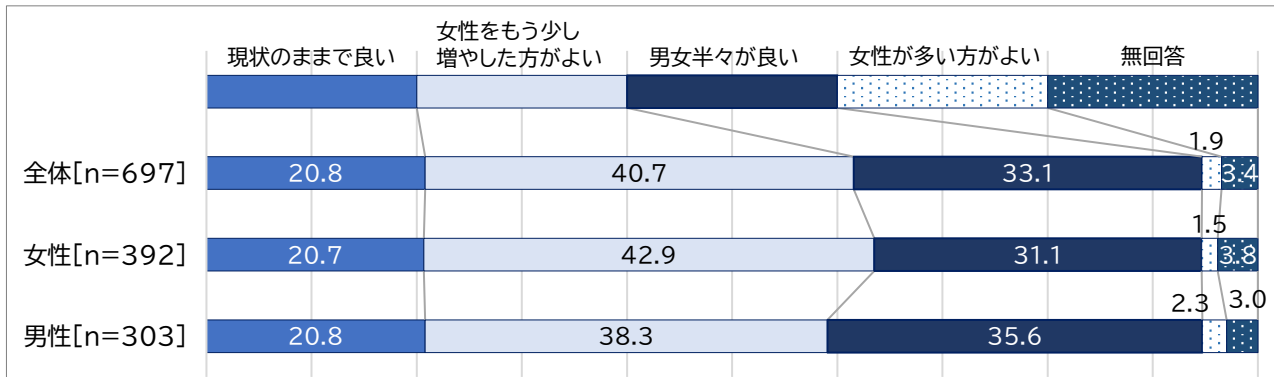


(2)女性委員が少ない現状

**問13.** 伊万里市の審議会等委員の女性比率は現在34.4%(目標値:R4年度までに40%)です。このことをあなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

◆「女性を増やした方がよい」「男女半々が良い」と考えている人の割合は7割強

全体では、「女性をもう少し増やした方がよい」が、40.7%(H28:48.7%)で、「男女半々が良い」が、33.1%(H28:26.8%)となっている。性別による大きな差はない。

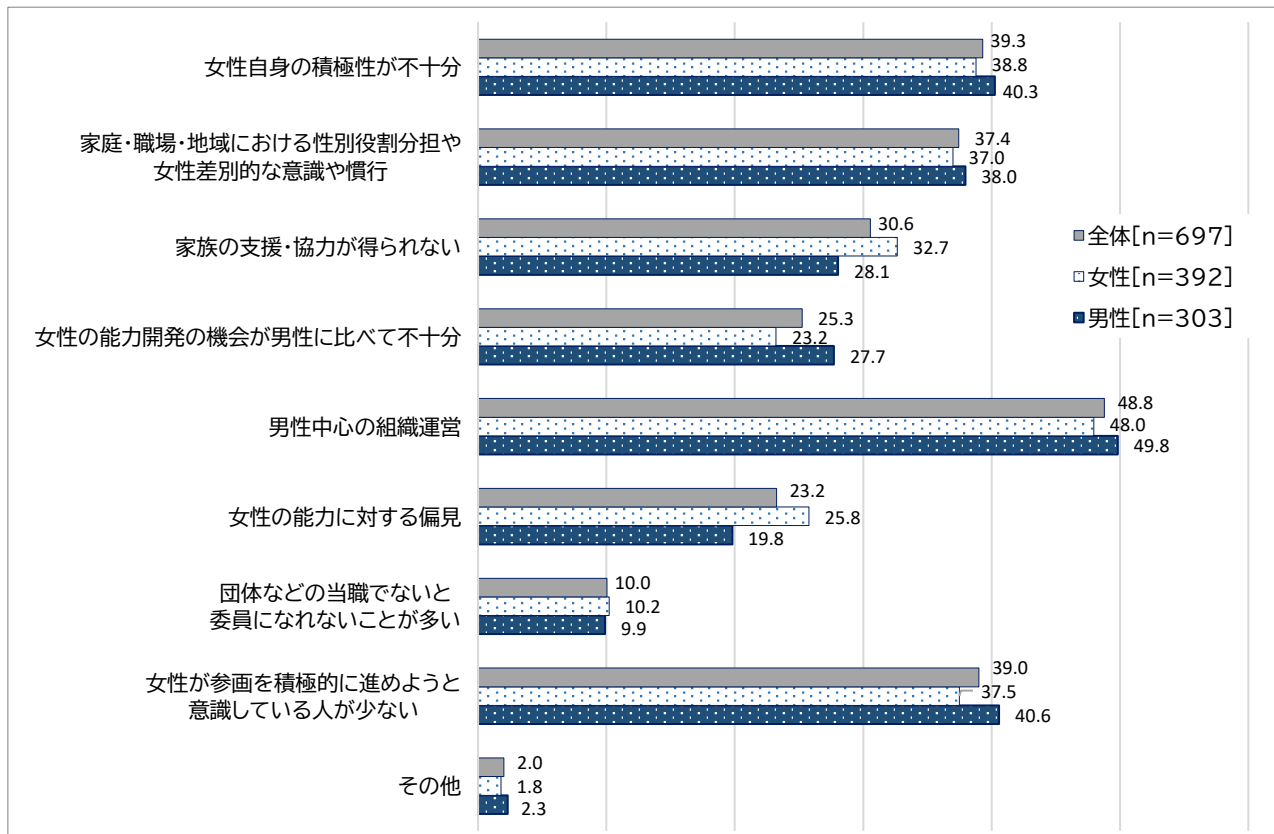


**問14.** あなたは、政治や行政、企業などのさまざまな分野において、女性の管理職等への任用、企画や方針決定の場への女性の参画が少ない理由は何だと思いませんか。(あてはまるもの全てに〇)

◆「男性中心の組織運営だから」が5割弱

全体では「男性中心の組織運営だから」が48.8%で、最も高く、次に「女性自身の積極性が不十分」が39.3%、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」の39.0%となっている。

性別による大きな差はないが、「女性の能力に対する偏見」が、女性では、25.8%で、男性より6ポイント高くなっている。



●企画や方針決定の場に女性の参画が少ない「その他」の具体的な理由

女性は仕事のほか、家事、育児の負担があり、社会進出は難しいと思う。

性別での判断ではなく、個人の能力の問題。

各種組織の中に最低の女性比率を設ける。

## 8. 男女間での暴力について

### (1)DVドメスティックバイオレンスを受けた経験[被害]

問15-1. 今までに次のような暴力を受けたことがありますか。

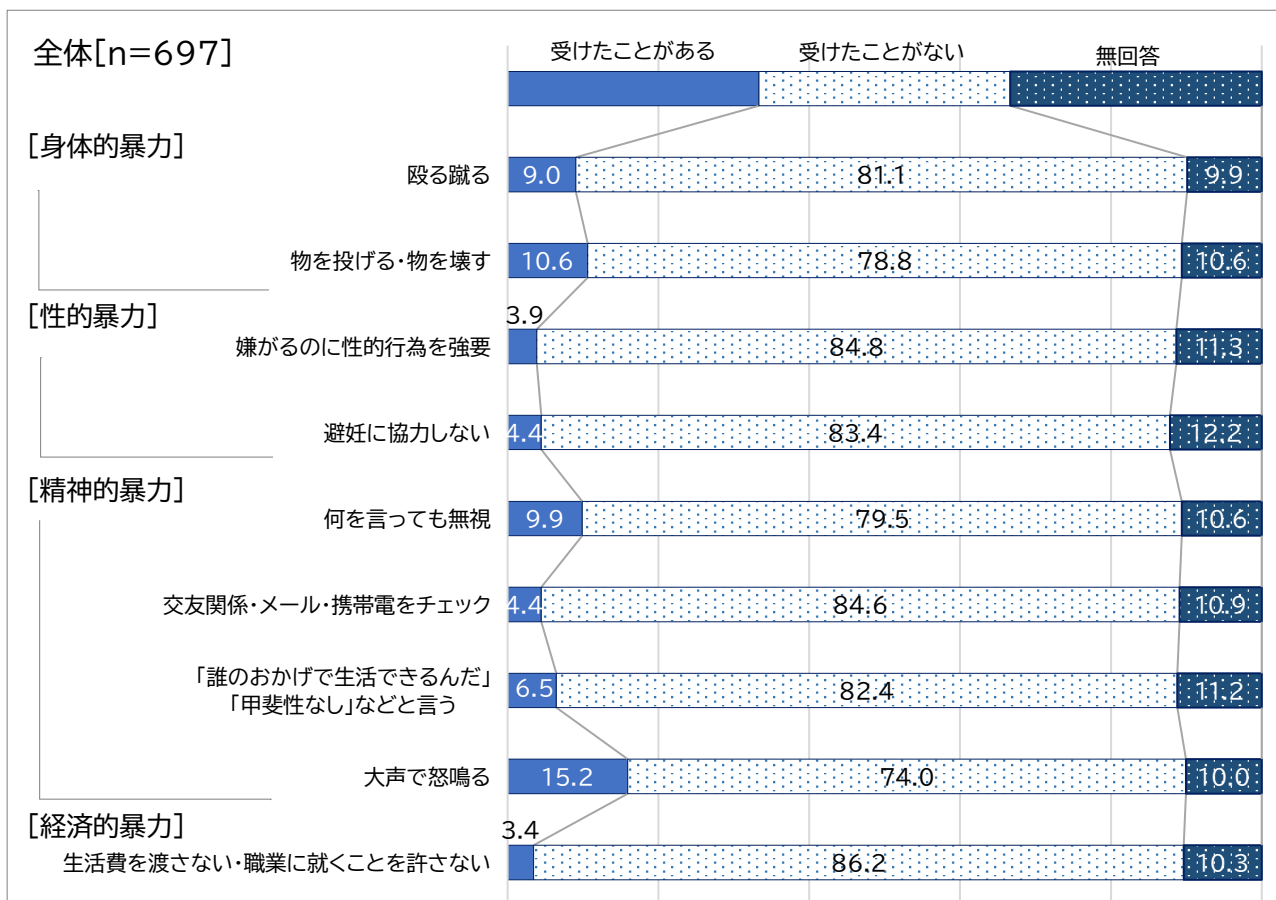
◆身体的暴力を受けたことがある女性は26.3%

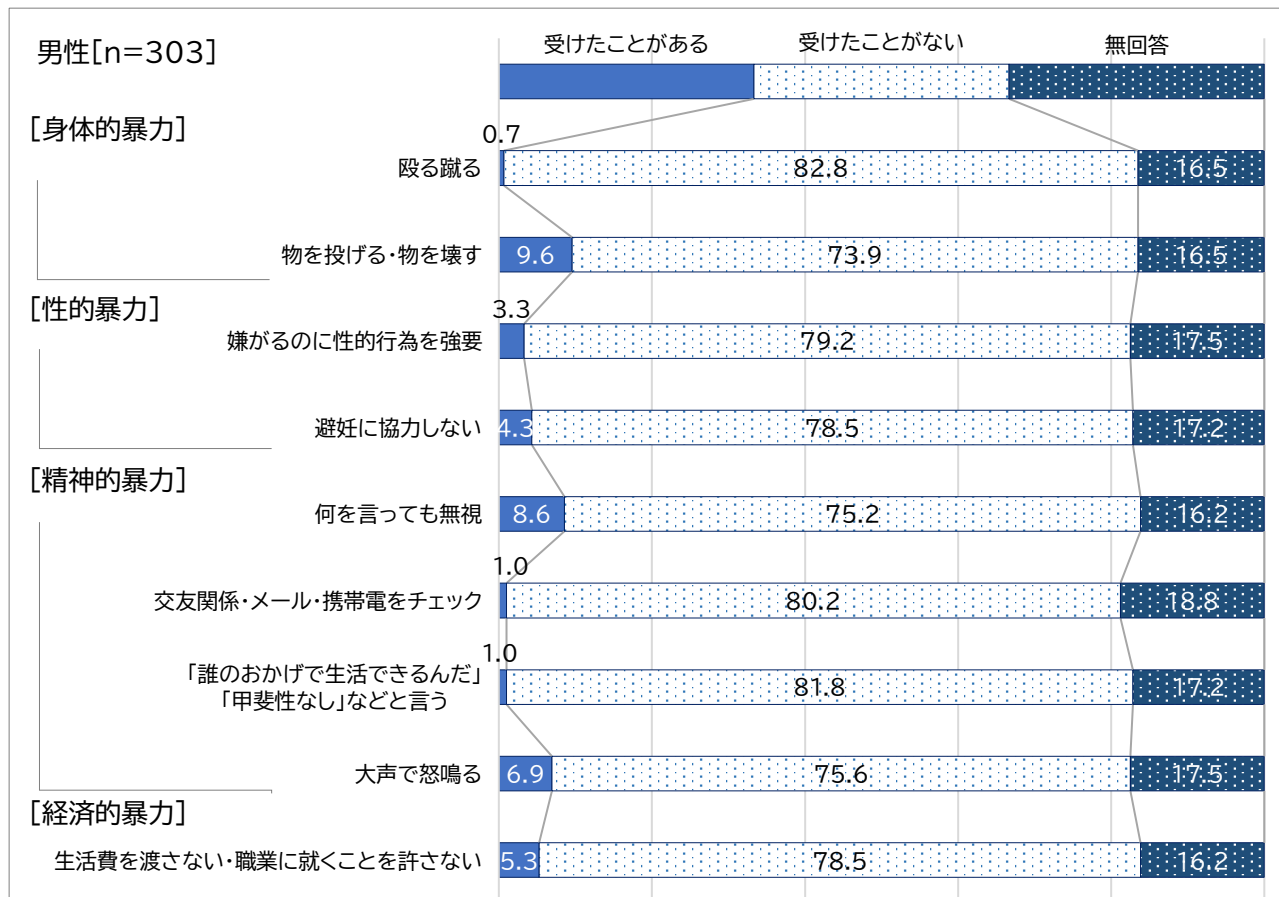
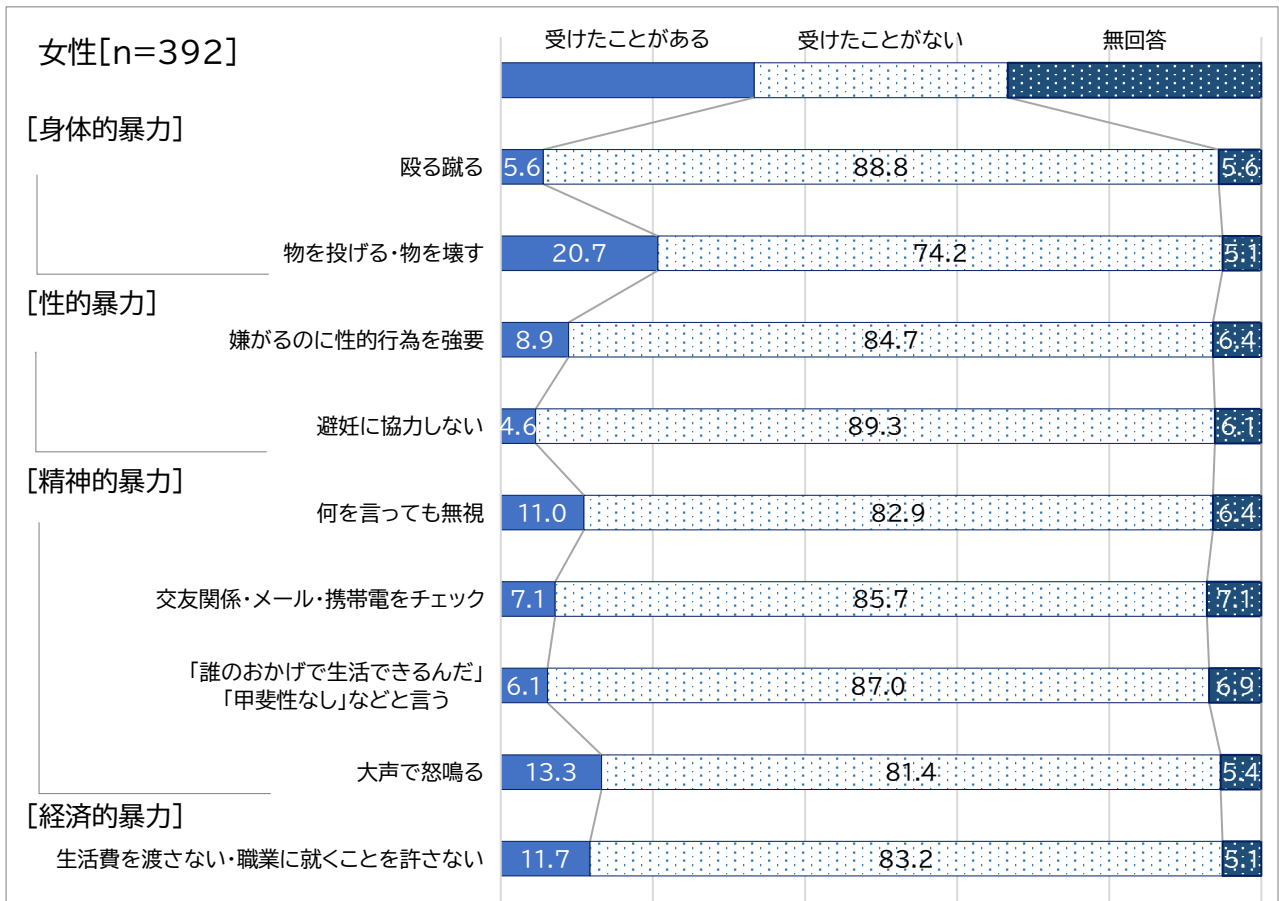
◆すべての項目で、暴力を受けたことがある割合は女性の方が高い

全ての項目で女性が男性よりドメスティックバイオレンスの被害経験の割合が高くなっている。

暴力を受けたことがあるの項目では、全体では『精神的暴力』の「大声で怒鳴る」が15.9%で、最も高く、次に『身体的暴力』の「物を投げる・物を壊す」が、10.6%となっている。

女性では、『身体的暴力』の「物を投げる・物を壊す」が20.7%で、最も高く、次に『精神的暴力』の「大声で怒鳴る」が、13.3%となっている。



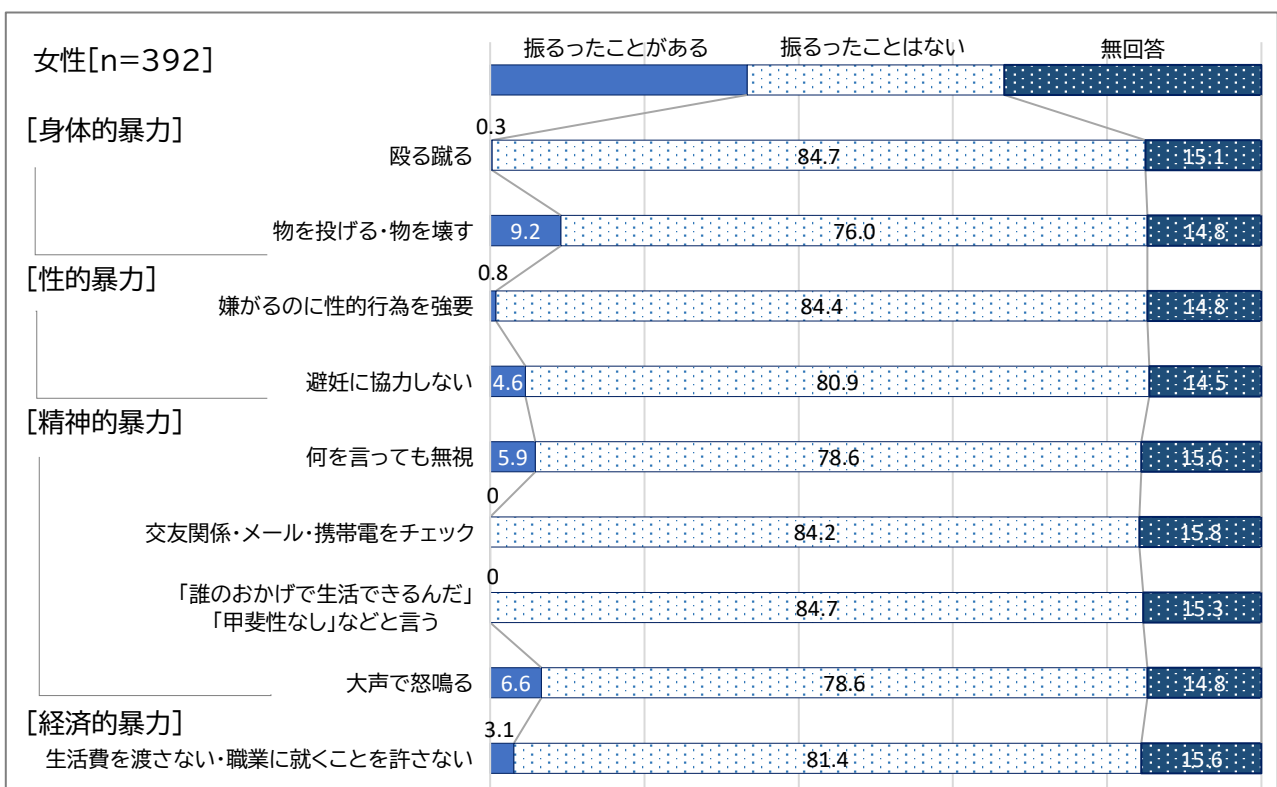
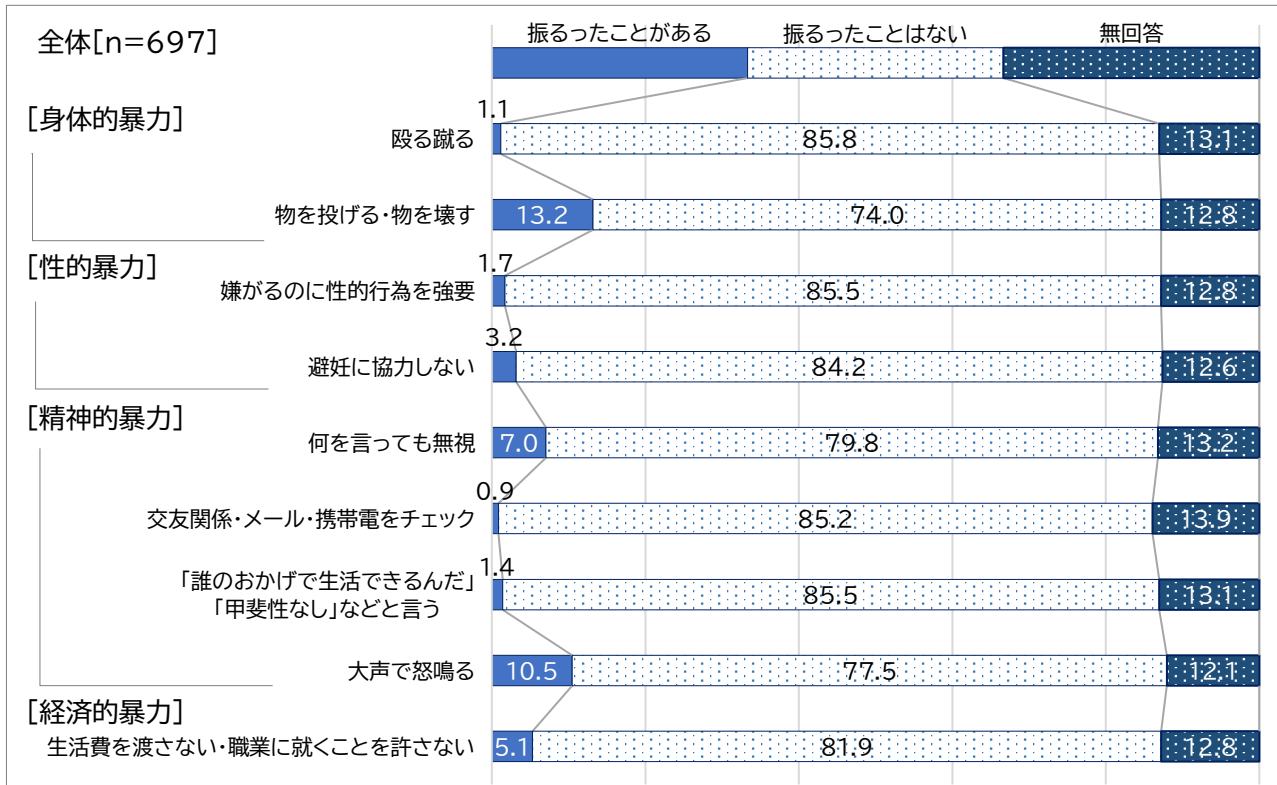


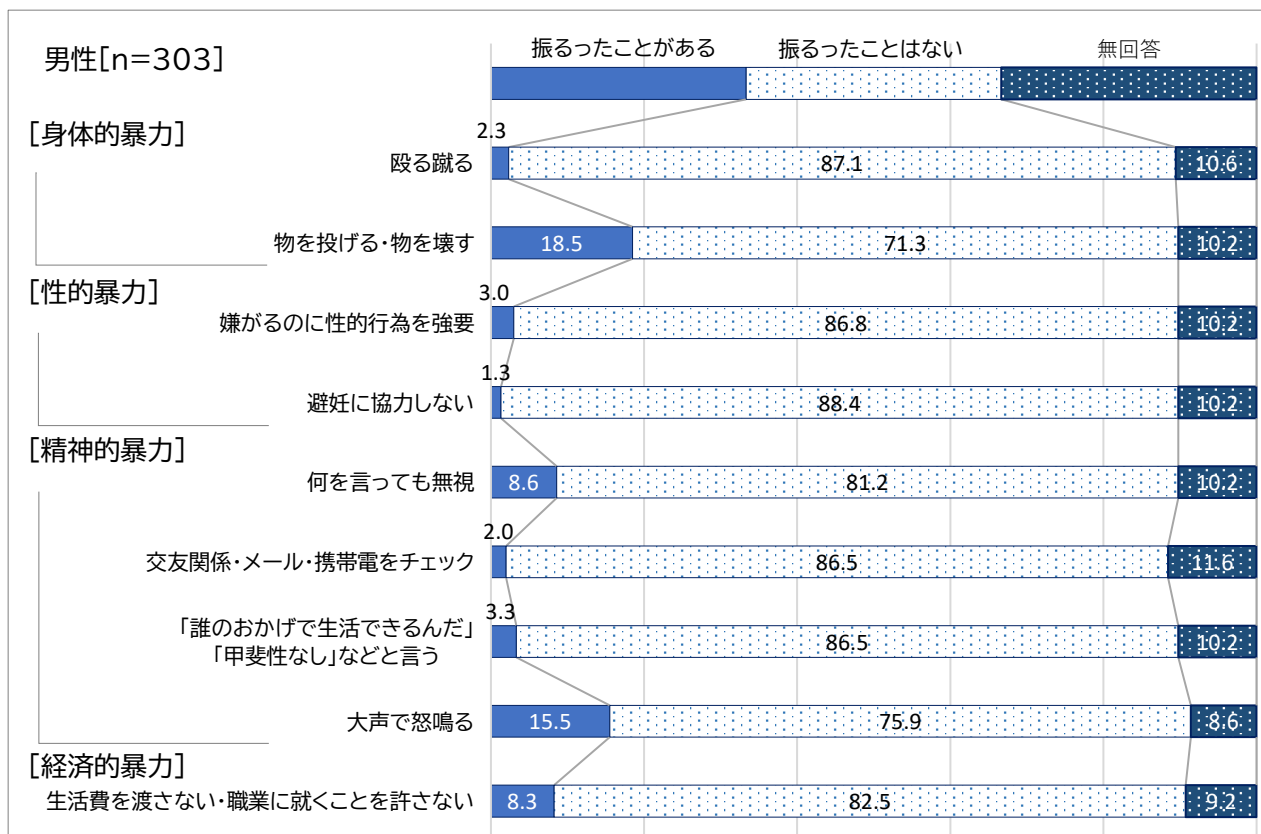
(2)DVドメスティックバイオレンスをした経験[加害]

問15-2. 今までに次のような暴力を振るったことがありますか。

◆男女ともに最も多いのは「物を投げる・物を壊す」

暴力を振るったことがあるの項目では、男女ともに『身体的暴力』の「物を投げる・物を壊す」が13.2%で、最も高く、次に『精神的暴力』の「大声で怒鳴る」が10.5%となっている。





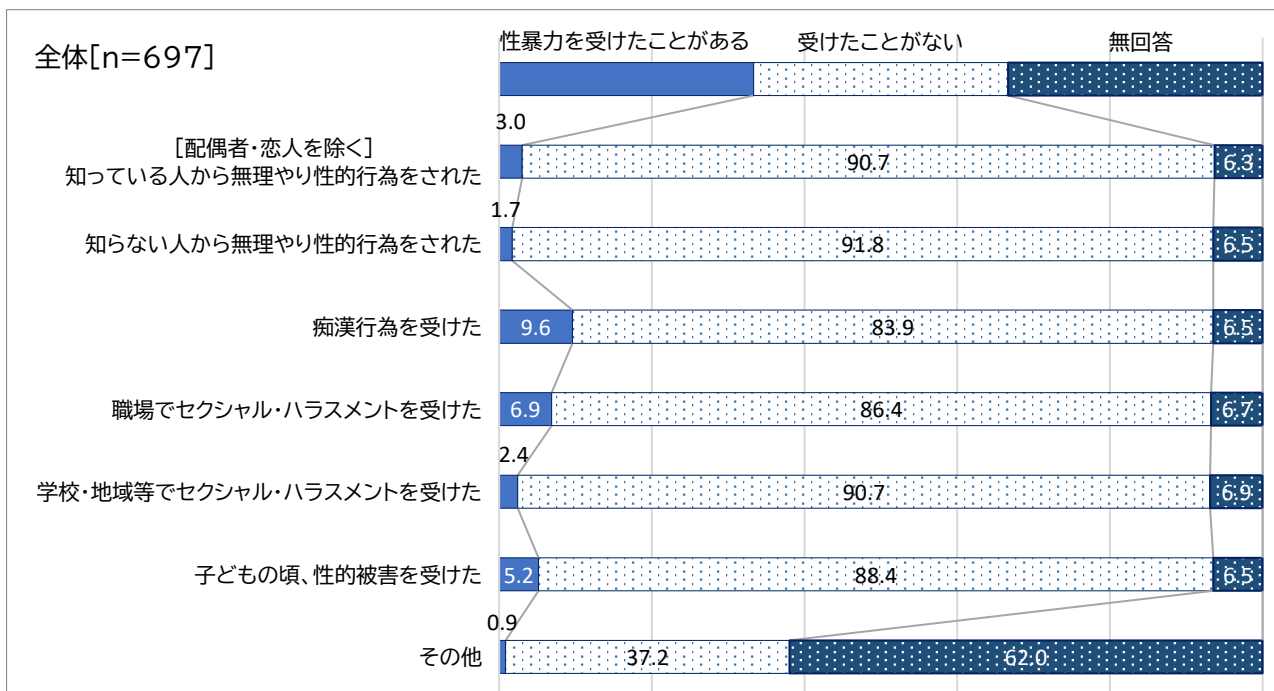
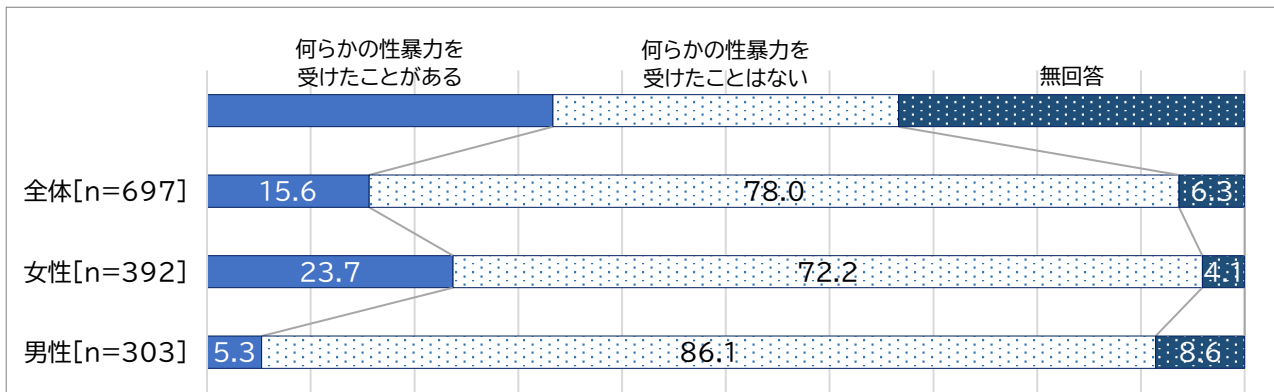
(3)性暴力を受けた経験

**問16.** これまでに異性から性暴力等を受けたことがありますか。

◆性暴力等を受けたことがあるは、女性が2割強

「これまでに異性から性暴力等を受けたことがある」としたのは、女性で23.7%、男性で5.3%となっている。

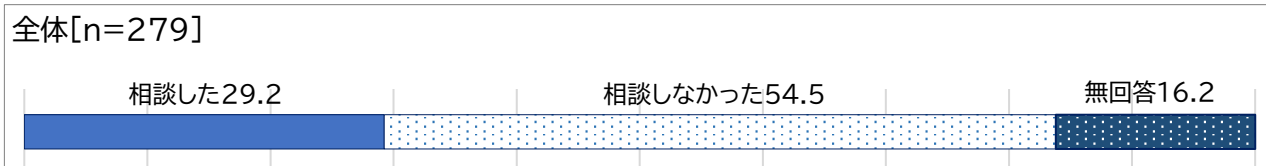
性暴力等の被害については、「痴漢行為を受けた」で9.6%、次に「職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた」が、6.9%となっている。



**問17.** 【問15[DV]・問16[性暴力]で1つでも受けたことがあるとした方】どこ(だれ)に相談しましたか。

◆DV被害・性暴力を受けたことがあるとした人で相談したのは3割弱

「相談した」が、29.2%(H28:20.1%)で、「相談していない」が、54.5%(H28:55.6%)となっている。。



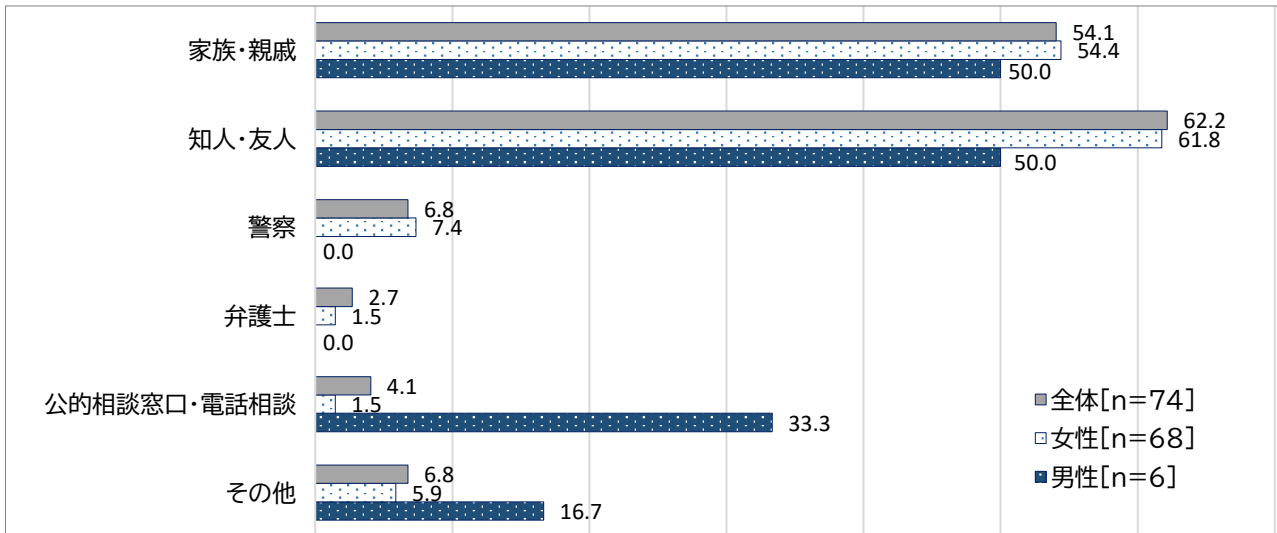
**問17-1. 【問17で、「相談した」とした方】**  
 どこ(だれ)に相談しましたか。

(あてはまるものすべてに○)

◆相談した相手は「知人・友人」が多い

相談した場合の相手は、全体では「知人・友人」が62.2%で、最も高く、次に「家族・親戚」が、54.1%となっている。

「公的な相談窓口・電話相談」の割合は4.1%となっている。また、「警察」への相談は6.8%となっている。

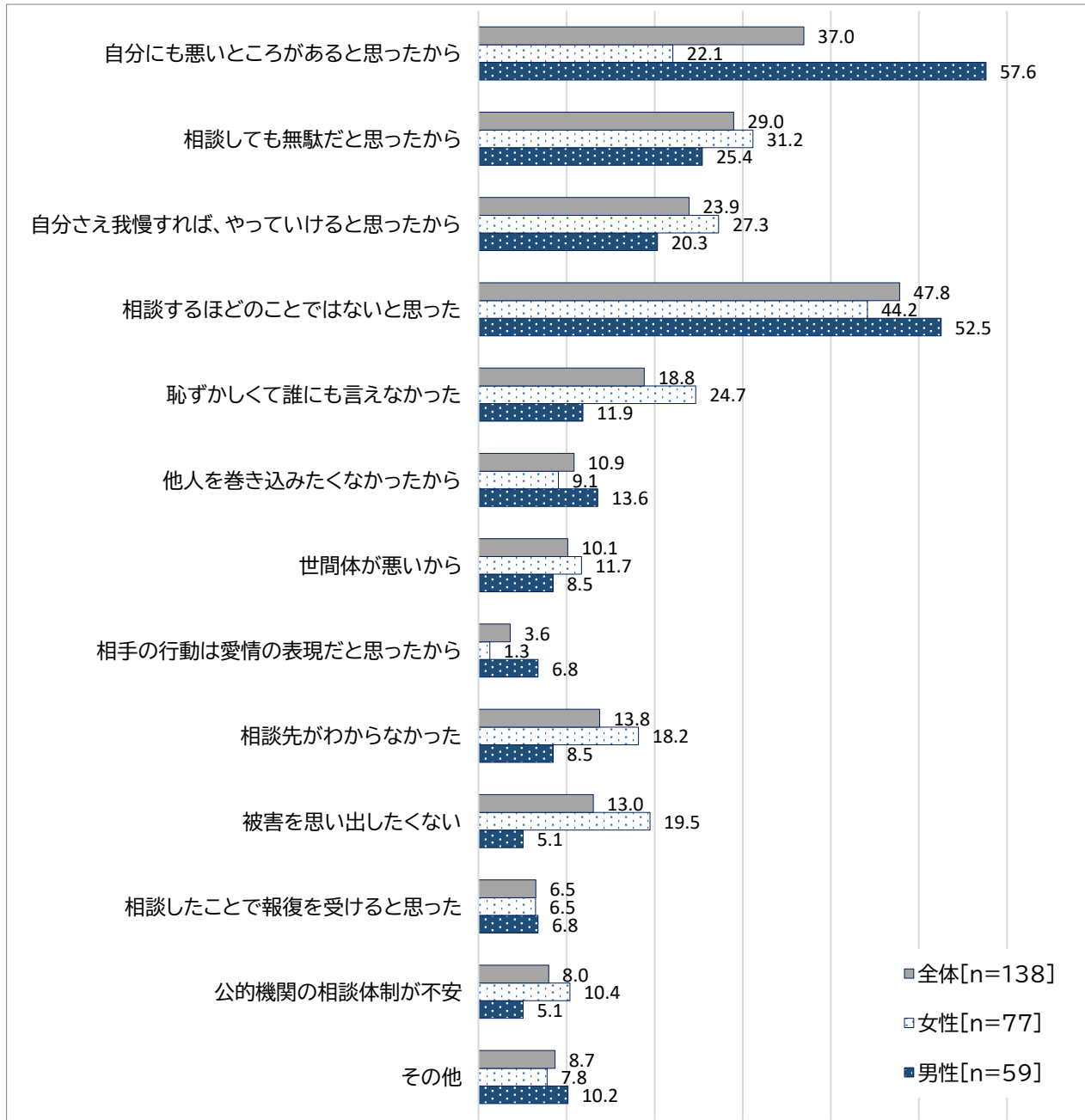




**問17-2. 【問17で、「相談しなかった」とした方】**  
 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

◆「相談するほどのことではないと思った」が47.8%と多い

「相談するほどのことではない」が、47.8%で、もっとも高く、次に「自分にも悪いところがあると思ったから」が、37.0%となっている。



●相談しなかった「その他」の理由

セクハラについて勉強していった後に、自分が受けたことはセクハラだったのではと感じた。

酒の席で、触られたりするのが当たり前の時代だった。泣き寝入りの時代。

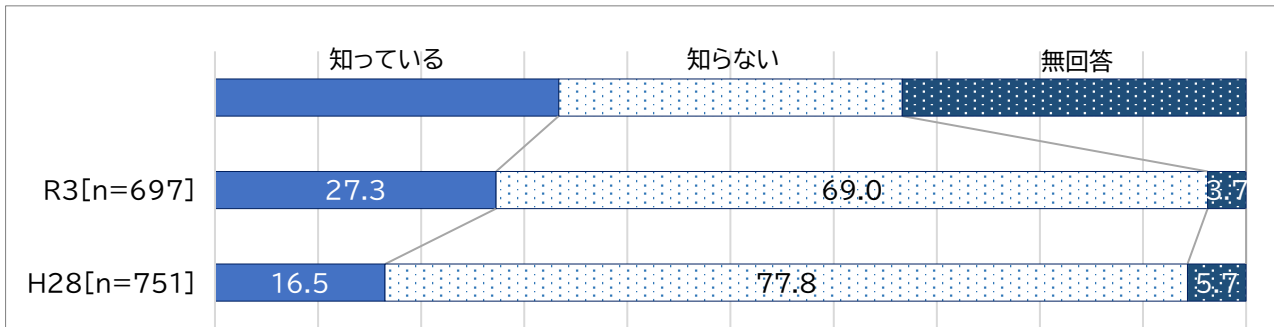
子どもの頃に受けていたのでこれが普通だと思っていた。

(4)伊万里市女性相談

**問18.** 伊万里市で「女性相談」を行っています。このことを知っていますか。

◆知っている割合は27.3%

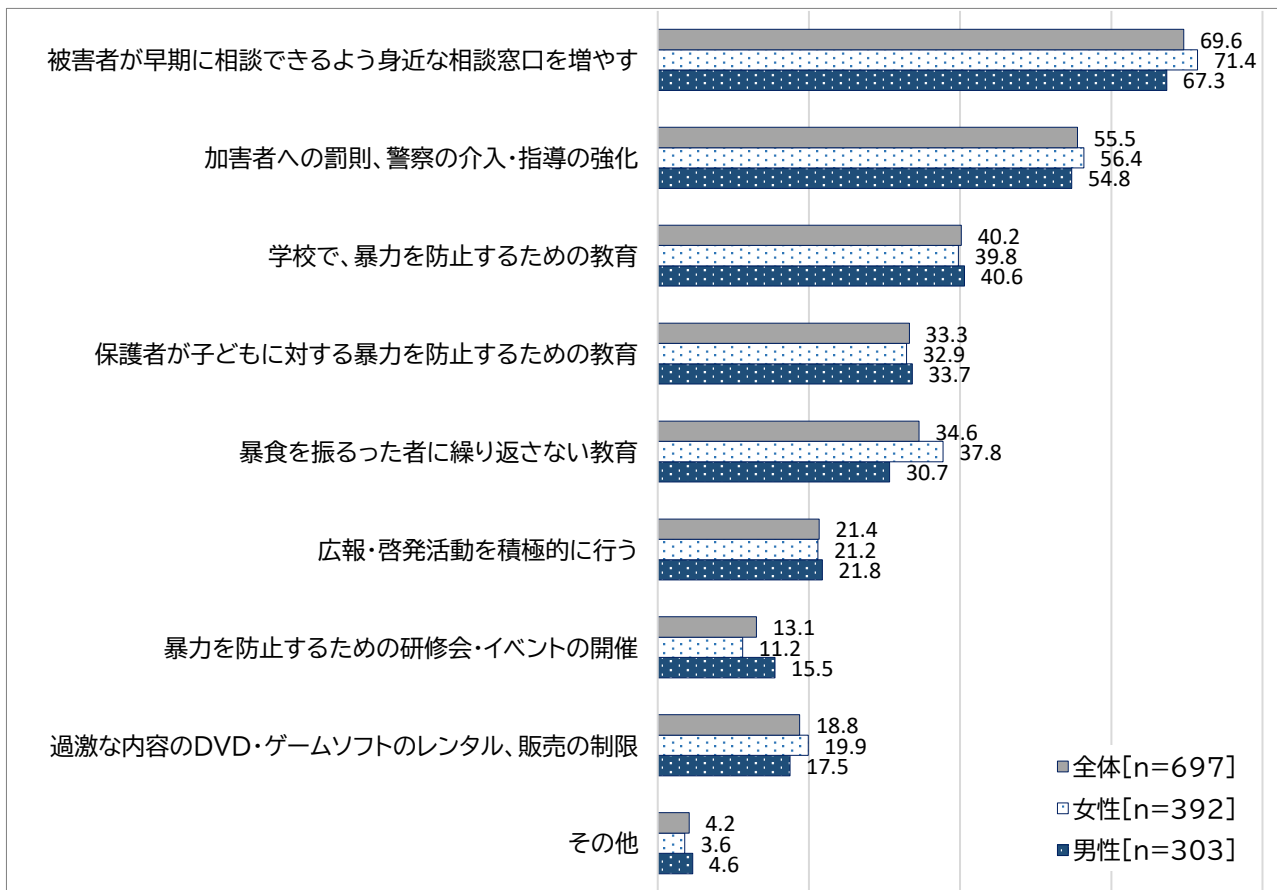
「女性相談」を知っている割合は、27.3%で、H28調査 16.5%より、高くなっている。「女性相談」を知らないが、69%(H28:77.8%)になっている。



**問19.** 男女間での暴力による被害をなくすために、どうすれば良いと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

◆相談窓口を増やすが7割

全体では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が高く69.6%、次に「加害者への罰則、警察による介入・指導の強化」の55.5%、「学校で暴力を防止するための教育を行う」40.2%となっている。



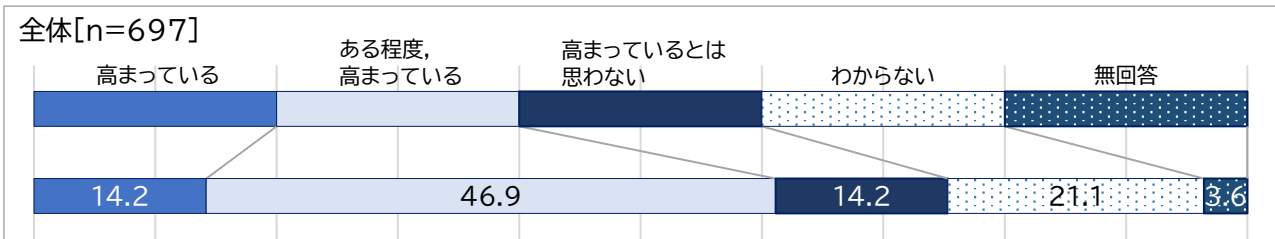
## 9. 性的少数者(LGBT)について

### (1)LGBTについての社会的意識

**問20.** あなたは、性的少数者(LGBT)について、社会的な意識が高まっていると思いますか。

◆「高まっている」、「ある程度、高まっている」を合わせると6割

性的少数者(LGBT)に対する社会的意識について、「高まっている」「ある程度、高まっている」が、61.1%で、過半数を超えている。

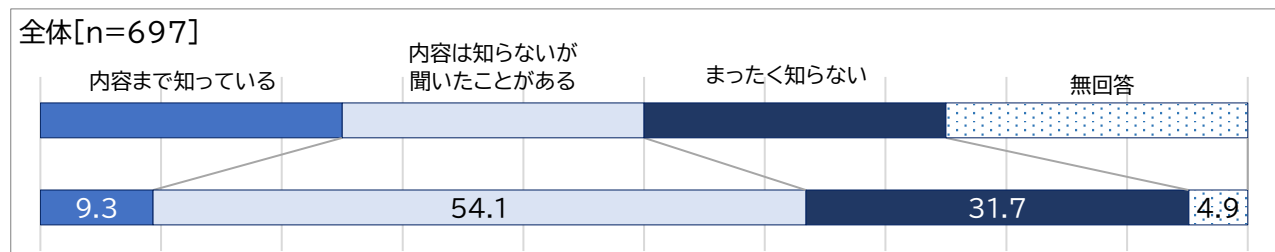


### (2)パートナーシップ制度について

**問21.** あなたは、自治体で施行されているパートナーシップ制度を知っていますか。

◆「パートナーシップ制度」の内容まで知っている割合は9.3%

パートナーシップ制度の「内容まで知っている」が、9.3%で、「内容は知らないが聞いたことがある」54.1%となっている。



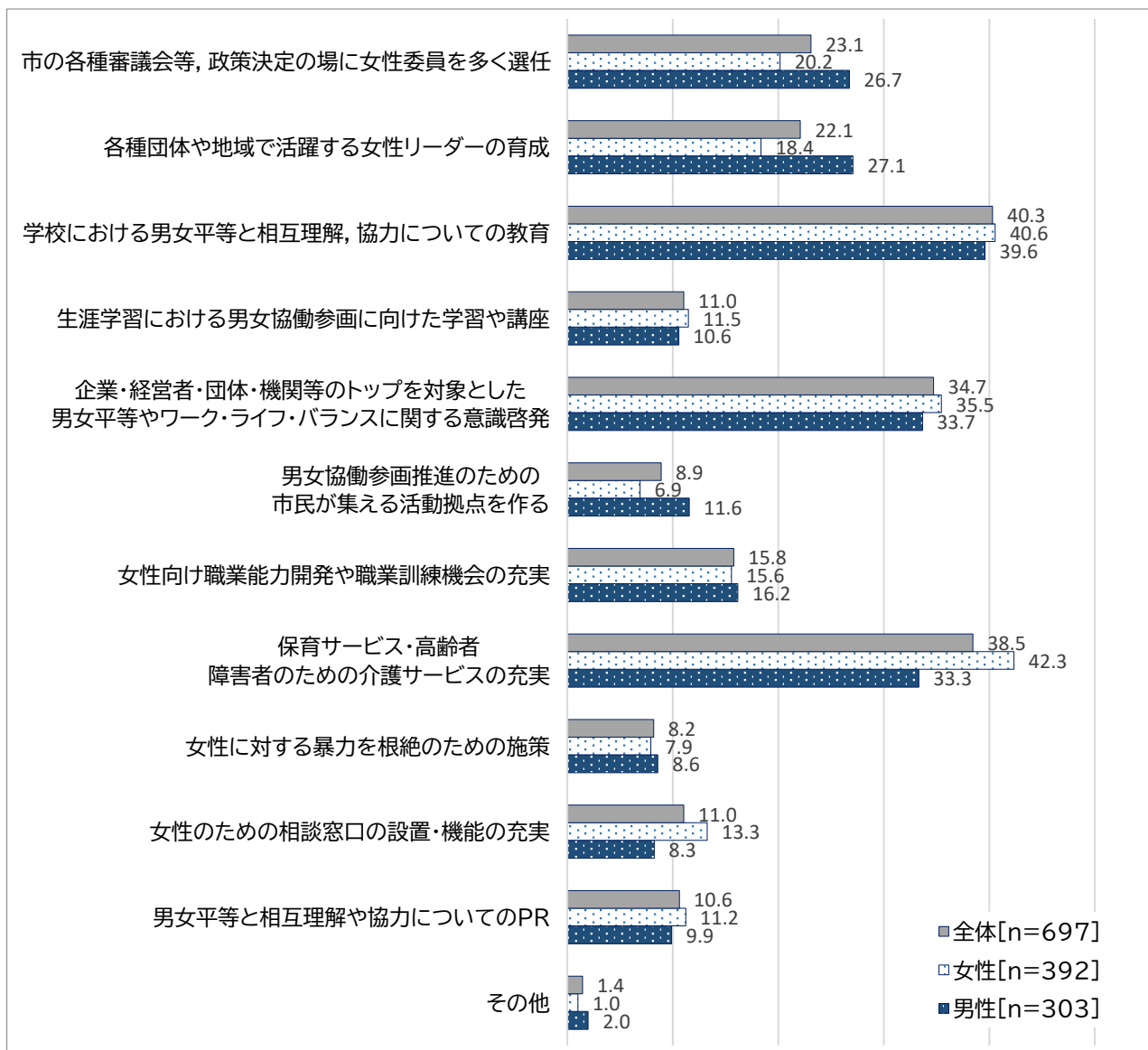
## 10. 市として取り組むべき方策について

### (1) 男女協働参画社会実現のために取り組むべき方策

**問22.** 男女協働参画社会の実現のために、伊万里市は、今後、どのような事に取り組んでいく必要があると思いますか。(〇は3つまで)

#### ◆学校における男女平等と相互理解・協力についての教育の充実が4割で最も高い

全体では「学校教育における男女の平等と相互理解・協力についての教育の充実」が、40.3%で、最も高く、次に「保育サービス、高齢者や障害者のための施設や介護サービスの充実」が、38.5%、「企業・経営者・団体・機関等のトップを対象とした男女平等やワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発の充実」が、34.7%となっている。



## 11. 条例と宣言都市について

### (1) 男女共同参画宣言都市

**問23.** 伊万里市が「男女共同参画宣言都市」であることを知っていますか。

◆「男女共同参画宣言都市」であることを知っているのは3割弱

男女共同参画宣言都市であることを「知っていた」が、27.4%で、「知らない」は68.3%となっている。

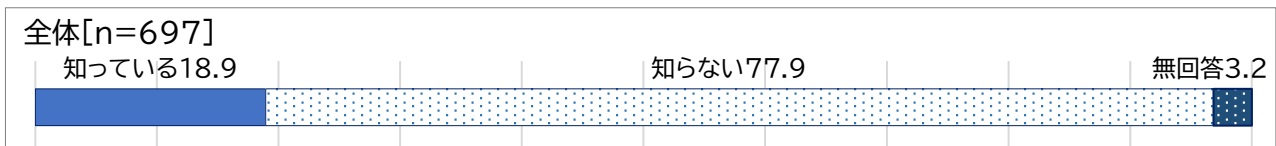


### (2) 男女協働参画を推進する条例

**問24.** あなたは、伊万里市が、平成28年4月1日に施行した「伊万里市男女協働参画を推進する条例」を知っていますか。

◆条例の施行を知っているのは2割弱

「知っている」が、18.9%で、「知らない」が、77.9%となっている。



## 12. 男女協働参画に関する意見・要望等

昔の考え方が多く残る地域では、いろいろな年齢層への啓発が重要で、その考えが低いところへ続いていくと思う。またLGBTなどの少数者への理解も低い。好奇心目で見える方が多いのが現状。オープンにできる環境も整っていない。少しずつでも確実に実現できる社会、伊万里市になれば良いと考える。

男女協働参画の推進については国・市区町村の行政と事業者や職場等が連携して環境作りを行うことが一番重要だと考えます。その環境が作られることで、それぞれの家庭や個人での選択肢が初めて可能になると思います。家庭や個人の選択肢が増えるための環境作りの推進に期待します。

世間の意識として「家事」「育児」「介護」が女性の仕事というのがまだまだあると思います。男性がこれらのことを頑張ると「いい旦那さん」「イクメン」などと言われますが女性はやって当たり前という感じです。こういった意識が変わっていかないと男女協働参画もなかなか進まないのではと思います。家事、育児を「手伝う」のではなく「一緒にやる」「きちんと分担する」ことが大切だと考えます。男女協働参画は家庭からではないでしょうか。

職場でも子育てしながら頑張っている人がいますが子どもの病気で休んだりすることも多く肩身の狭い思いをしている印象です。保育園等でも延長保育が頼みにくかったり、土日に出勤できない等あるので、子育てしながら働ける環境が整えばなあと思います。会社によってはやはり子育て中だと採用敬遠しがちなので。

女性が社会に出やすくするためには、子どもの遊び場が一番必要かと思う。子を産み最初に家族以外の社会と触れ合う機会は子どもと行く場所だから。女性が働きやすい職業の斡旋なども必要。

男女平等が好ましいと思いますが、力が必要なことは男性が得意で、細かなことに、気を配れるのは女性が得意とするところで、それぞれの個性を生かした役割をそれぞれが尊重して良い流れを作っていくことを望みます。

女だからと言われることは多々ありますし、私は比較的それに反発してきました。しかし周囲の圧に負けてしまう女性は少なくないと思います。自分のやりたいことを実現できる社会にすることが理想ではありますが、まずは男女に役割を押し付けない社会意識をつけてほしいです。特に地方からの進学については自由に出来るようにしてほしいと思います。親が女だから近くにしろ、大学はいかなくていいと言わないことを当たり前にしてほしいです。

伊万里市民で良かった。伊万里に生まれて良かったと、これから先の人々が言えるように皆で努力しなくてはならないと思います。住みたい伊万里。働きたい伊万里へと。

能力のある女性は年齢を問わずたくさんいらっしゃると思います。その人たちが活躍できるような機会を作ることが大切だと思う。まわりの人の目を気にして、なかなか能力を出せずにいる女性が多いように思う。みんなの意識改革が必要だと感じます。女性も男性も出来る女性を認める心が大切だと思う。

まずは男の役割、女の役割を十分達成していくこと。力仕事、機械を使う仕事等、男女平等はいかないにしてもお互いに認め合うこと。100%は無くても80%を達成できれば満点。

子どもが小さいときはどうしても母親の負担が重くなります。保育園だけではなく子育てサポートの充実が必要だと思います。若くやる気のある女性が活躍しやすい仕組みを考えていく必要があると思います。

最近のご夫婦で協力し子育て家事等されている姿をよく見かけるようになりほほえましくなります。急に意識は変わらないでしょうが、幼い頃からの教育が人を育てていくと思います。地道にコツコツとですね。高齢者の多い伊万里市ですので大変だと思いますが、子ども達が少ないからこそ、しっかりとお金もかけて育てていけたらいいと思います。

伊万里市内の男性トイレにもオムツ台の設置、ベビー椅子の設置を公共機関やお店に進めてほしい。早く育休取得や子どもの行事に参加しやすいシステムが構築されることを願っています。男性が育休取得した場合、育休手当のようなお得感や生活に困らない保証などあれば取得率が上がりそうですが、育休証明書のような物を発行して、それを提示すると買い物やイベントで得をするとか。

私達は義務教育の道徳の授業で習い、この内容は常識と思います。学問も良いですが、これからは男女協働参画を多くの人が受け止めてほしいです。

男性と女性が協力し合うのは、いろいろありますが、まずは家庭からですね。家庭の中がうまく回ると仕事やりやすくなるのではないのでしょうか。

地域では今でも男性が優位の慣例があり。難しい問題です。また、女性も男性をさておいては、女性自身が意識を変えてゆくことが必要だと感じます。

女性が不平等、不公平に感じているところは男性に伝わらないことが多いので、女性が積極的にアイデア等を発信していけばいいと思う。会社の役員や市議会は男女比より能力を優先すべきだと思います。

女性の能力の向上が出来る企画と発揮の場を増やし、男性にしか出来ない事、女性にしか出来ない事の格差を小さくする努力が必要だと思う。

日本社会はこれまで男中心であった。これから男女協働を進めるのであれば教育を充実させること。

経済的、生活面の自立へは、男女同じく学び育つことが必要とは思いますが、男の子女の子の良い特性も同じに伸ばす必要もあると思っている。

男女平等は当たり前と思いつつ70数年生きてきました。未だにこの問題の特集しなくてはならない現実に憤りを感じます。一刻も早く「男女平等」「男女協働参画」などの文言が無くなることを願っています。担当の皆様ご苦勞様です。

50歳代なのですが、私達が子育て中より男性の子育て協力はよくなっていると思います。しかし、残念ながら年齢が高くなるほど「男にこがんことばさせて」等等など決めつけで男性に協力させにくい社会はまだあると思います。自分がこうならない様決めつけないことを頭に置いておきたいです。又、介護師なのですが、男性には掃除、洗濯、作業等させられない雰囲気があります。でも、力仕事は男性がやってくれます。時々矛盾した気持ちになりますが、女性も守られていることもあります。

働きながら妊娠、出産を経験し社会制度の厳しさを実感しました。また周囲の話を聞いていると女性が働きながら子育てをするのも、経済的な理由であったり保育サービス、職場の理解、協力などの面で、まだまだ環境が整っていないように感じます。

私自身は近頃、そんなに女性だからという差別をひどく感じたりDVなども受けたことはないのですが、差別、DVなどを受けた方の話をよく聞いて、問題解決していかなくてはならないと思います。そして組織の中に女性を多く入れることや、女性が遠慮し、嫌な事は嫌と、ことわり。自分の意見を言える教育も必要だと思います。



# Ⅲ. 事業所 調査結果

---

## ■回答者の属性

---

### 1. 男女協働参画の職場にするための積極的改善について

---

(1)男女協働参画の職場にするための取り組み

---

(2)職場における女性の地位向上

---

### 2. 育児・介護に関する休業制度について

---

(1)育児・介護休業制度

---

(2)再雇用制度

---

### 3. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

---

(1)ワーク・ライフ・バランス

---

### 4. ハラスメント対策について

---

(1)セクシュアル・ハラスメント

---

(2)パワー・ハラスメント

---

(3)マタニティ・ハラスメント

---

### 5. 市として取り組むべき方策について

---

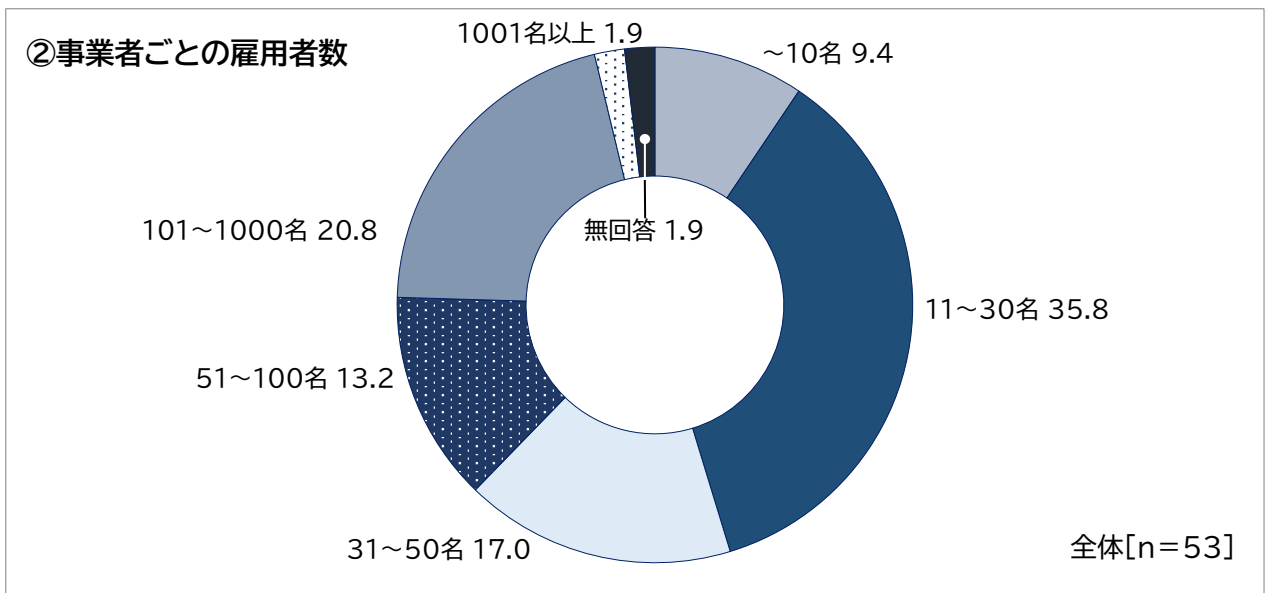
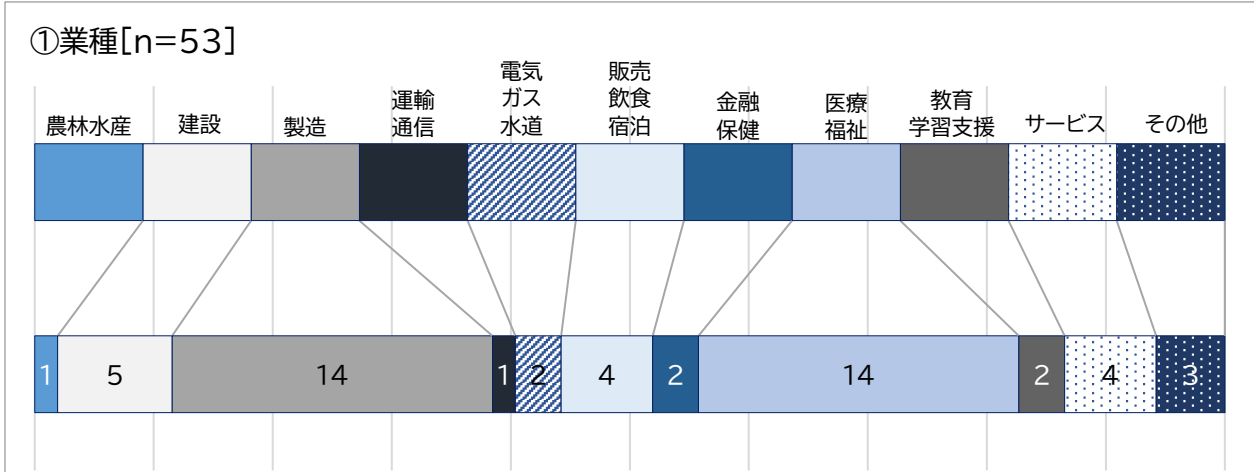
### 6. 自由意見

---



### Ⅲ 事業所 調査結果

#### ■回答者の属性



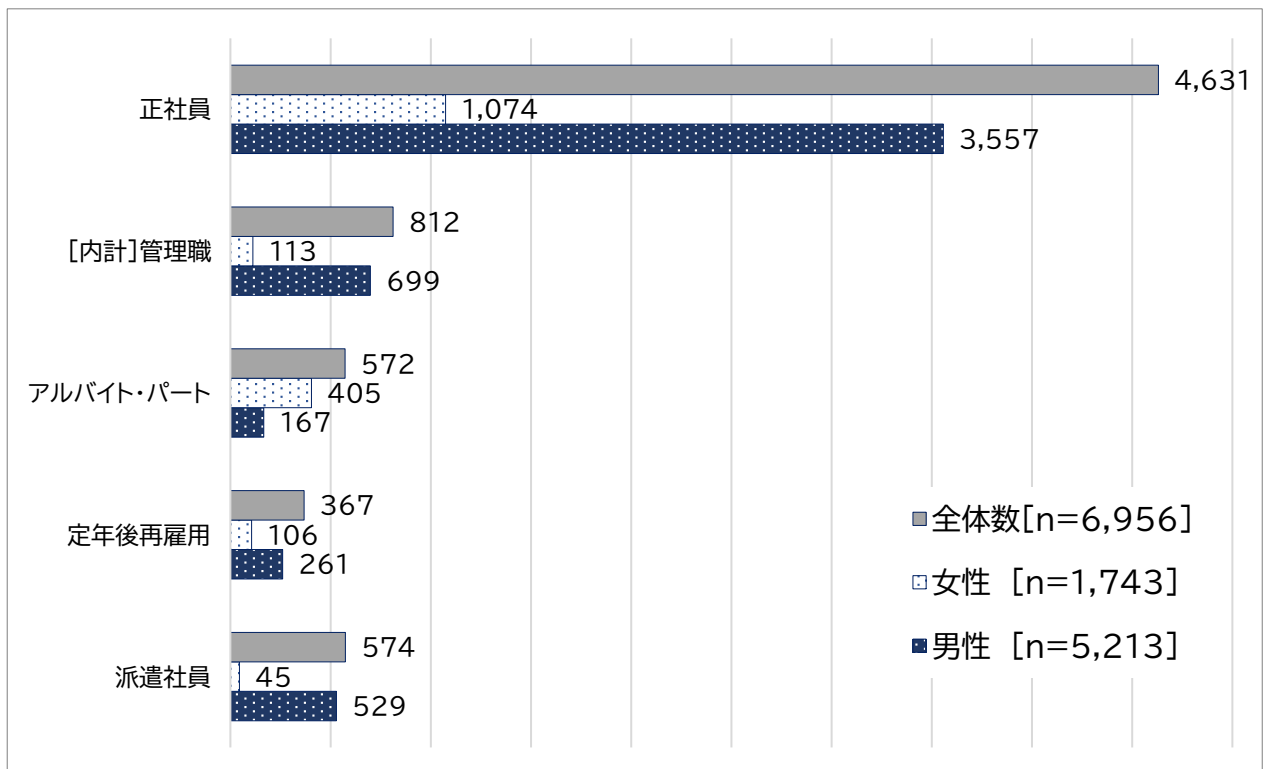
#### ③勤務形態ごとの雇用者数

雇用者数(人)	正社員	アルバイト・パート	派遣社員	定年後再雇用	再掲管理職	雇用者数合計
女性	1,074	405	45	106	113	1,630
男性	3,557	167	529	261	699	4,514
合計	4,631	572	574	367	812	6,144

※再掲、管理職とは：正社員・アルバイト・定年後再雇用者の数と重複

#### 管理職等の内訳

	役職 部長相当職	課長相当職	係長相当職
女性	35	32	46
男性	156	258	285
合計	191	290	331



④平均年齢・勤続年数

	女性	男性
平均年齢	43.7	44.2
平均勤続年数	11.0	12.3

## 1. 男女協働参画の職場にするための積極的改善について

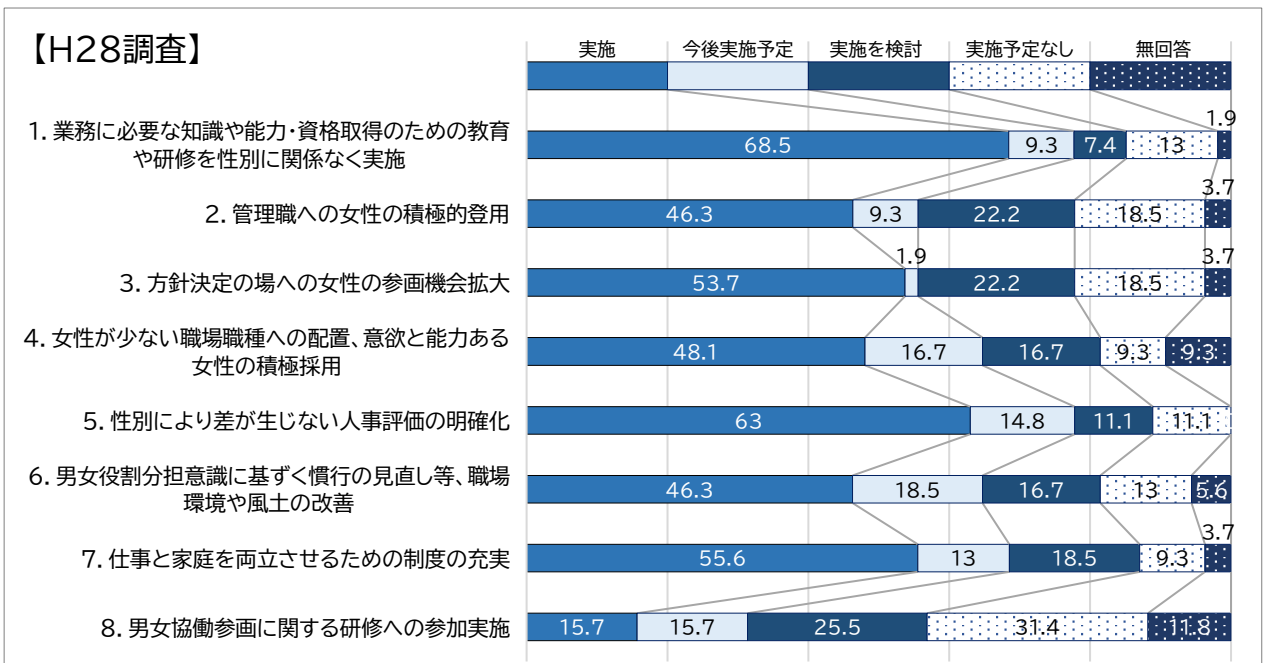
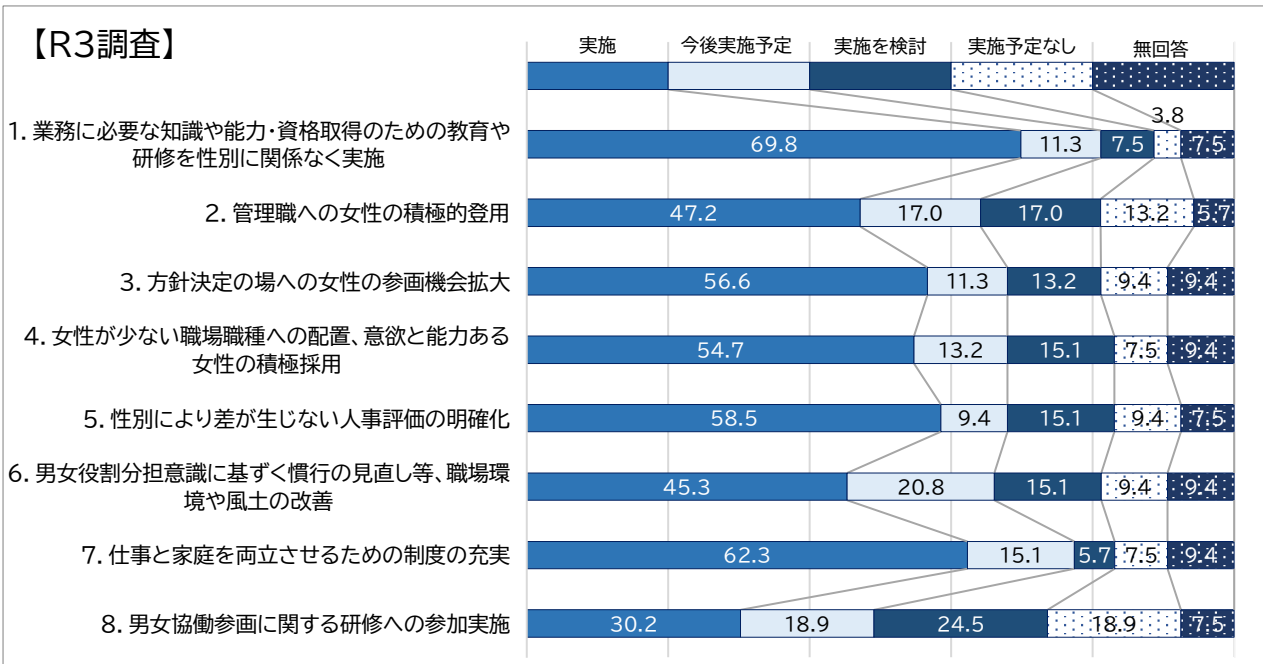
### (1) 男女協働参画の職場にするための取り組み

**問1.** 貴事業所では男女協働参画の職場にするために、どのような取り組みをしていますか。  
(○は質問項目ごとに1つ)

#### ◆「業務に必要な知識や能力・資格取得のための教育や研修を性別に関係なく実施」が7割弱

「業務に必要な知識や能力・資格取得のための教育や研修を性別に関係なく実施」が、69.8%で、最も高く、次に「仕事と家庭を両立させる制度の充実」が、62.3%、「性別により差が生じない人事評価基準の明確化」が、58.5%となっている。

H28調査と比較すると、「男女協働参画に関する研修への参加・実施」は、ほぼ2倍となっている。(R3: 30.2%、H28:15.7%)

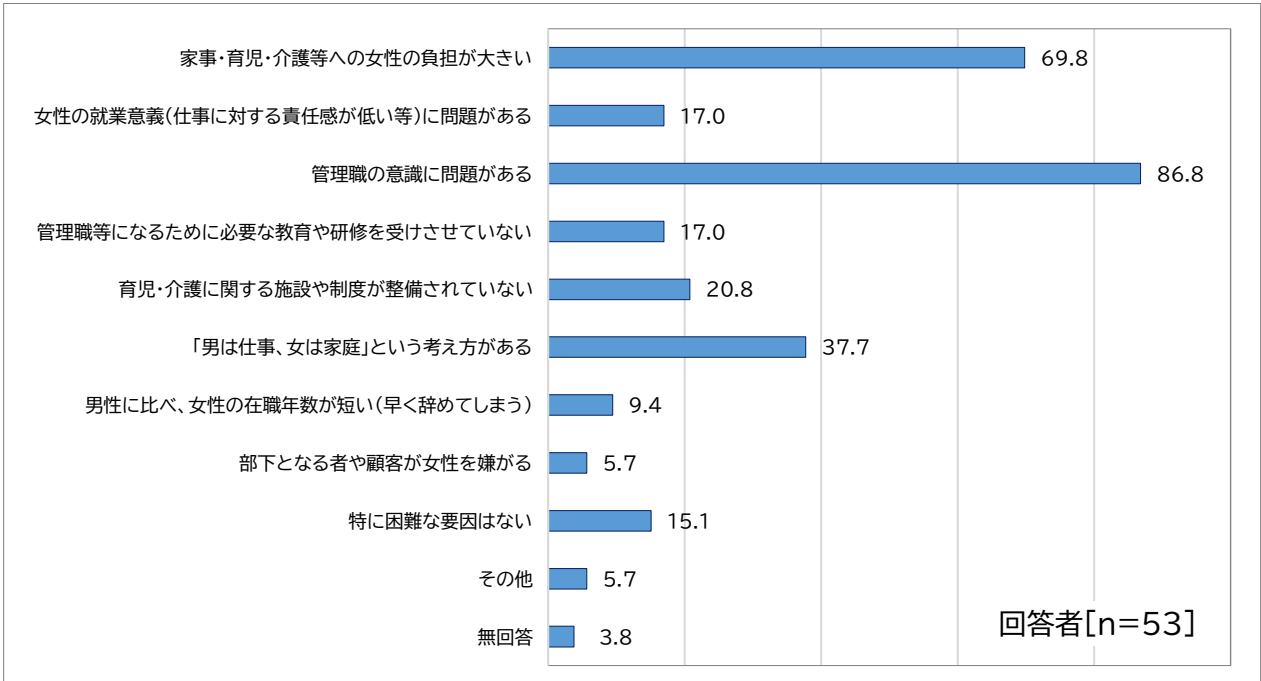


(2)職場における女性の地位向上

**問2.** 貴事業所に限らず、一般的に職場における女性の任用(管理職や意思決定の場への参画)を困難にしている要因は、どのようなところにあると思いますか。(〇は3つまで)

◆「管理職の意識に問題がある」が8割強で高くなっている

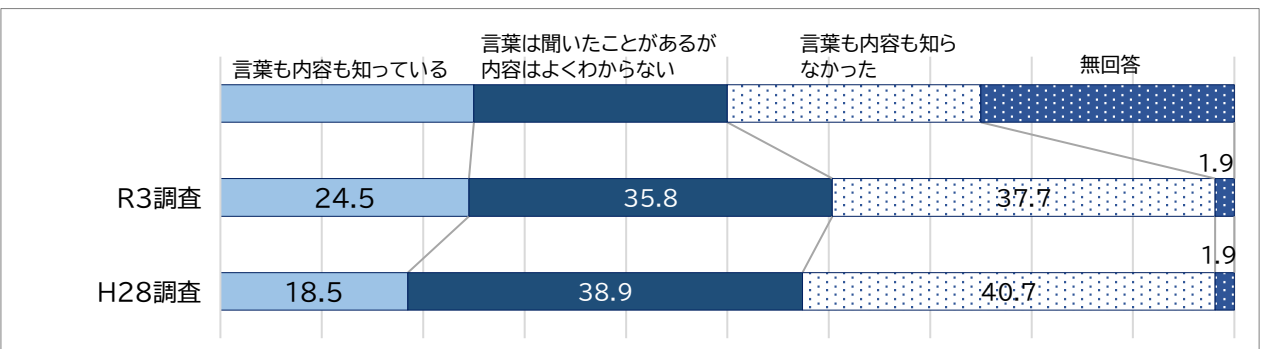
「管理職の意識に問題がある」が、86.8%(H28:22.2%)で、最も高く、次に「家事・育児・介護等への女性の負担が大きい」が、69.8%で、(H28:74.1%)と高くなっている。



**問3.** 「ポジティブ・アクション」について知っていますか。(〇は1つだけ)

◆「ポジティブ・アクション」は、まだ十分に浸透していない

「言葉も内容も知っている」が、24.5%で、H28調査 18.5%より微増していますが、「言葉も内容も知らない」は、37.7%(H28:40.7%)となっている。



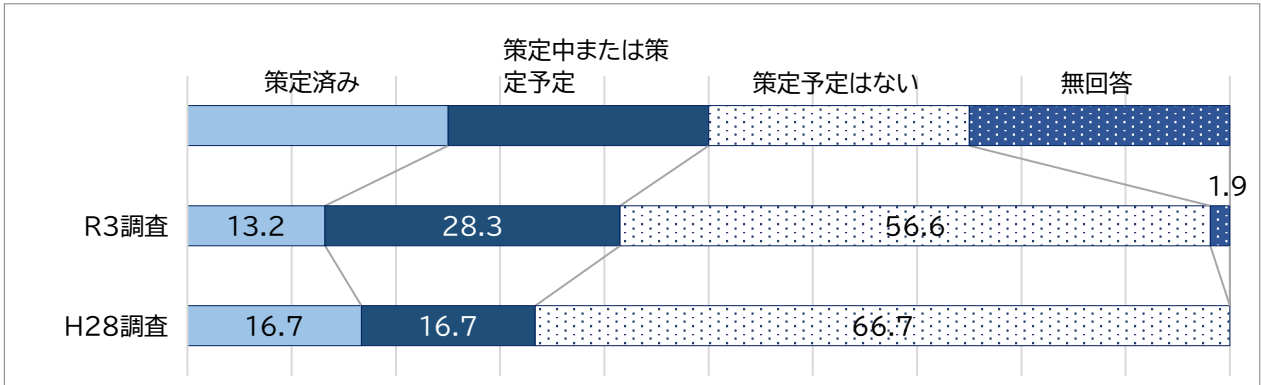
※ポジティブ・アクションとは:

固定的な男女の役割分担意識や過去の経緯から「課長以上の管理職は男性が大半を占めている」等の差が男女労働者の間に生じている場合、このような差を解消しようと、個々の企業が行う自主的かつ積極的な取り組みをいいます。

**問4.** 貴事業所では、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)に基づく「一般事業主行動計画」を策定されていますか。(〇は1つ)

◆「一般事業主行動計画」を策定済みの事業所は13.2%

「策定済みである」が、13.2%(H28:16.7%)であり、「策定中または策定予定」が、28.3%(H28:16.7%)と合わせると41.5%となっている。



## 2. 育児・介護に関する休業制度について

### (1) 育児・介護休業制度

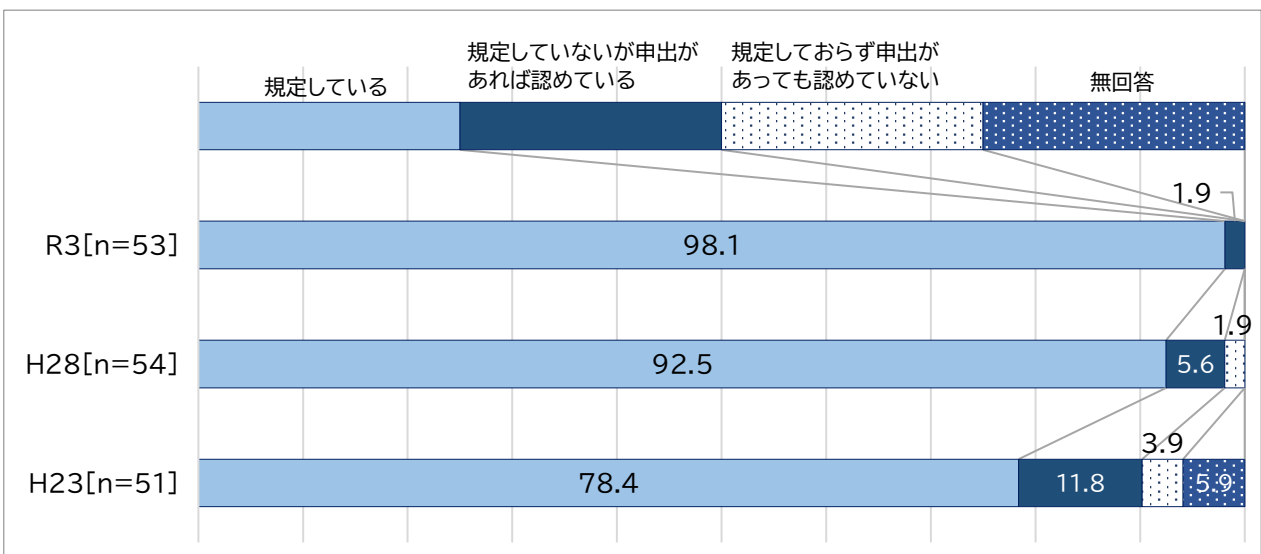
**問5.** 貴事業所では、就業規則に「育児休業制度」を規定していますか。(〇は1つ)

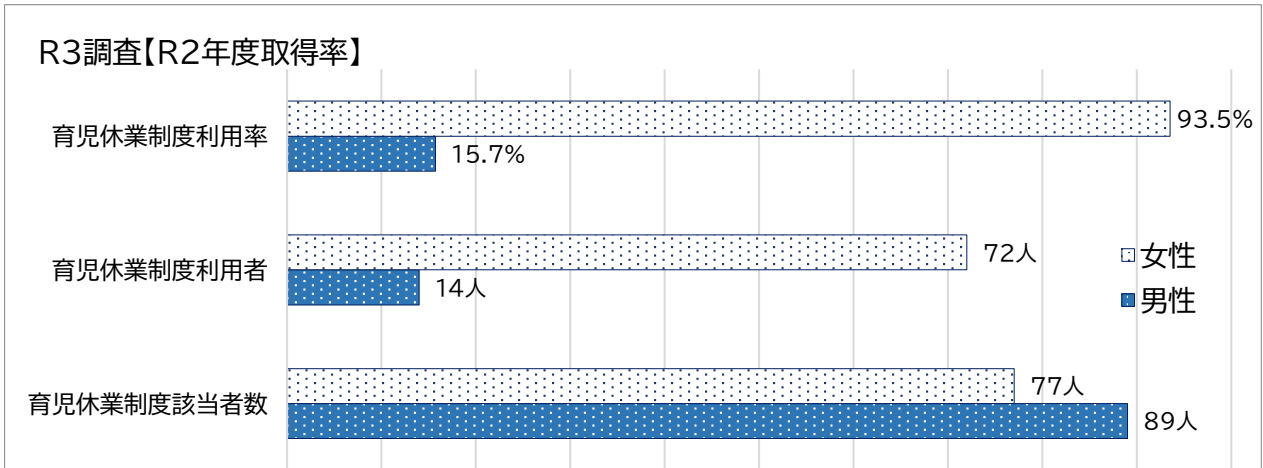
◆「育児休業制度」を規定している事業所は、98.1%

◆育児休業の取得率は、女性が93.5%、男性は15.7%

育児休業制度を「規定している」が、98.1%、「規定していないが申出があれば認めている」の1.9%を合わせると、今回の調査では全ての事業所が育児休業制度を認めている。

令和2年度に育児休業制度に該当した女性従業員の取得率は、93.5%となっているが、男性従業員の取得率は15.7%となっている。



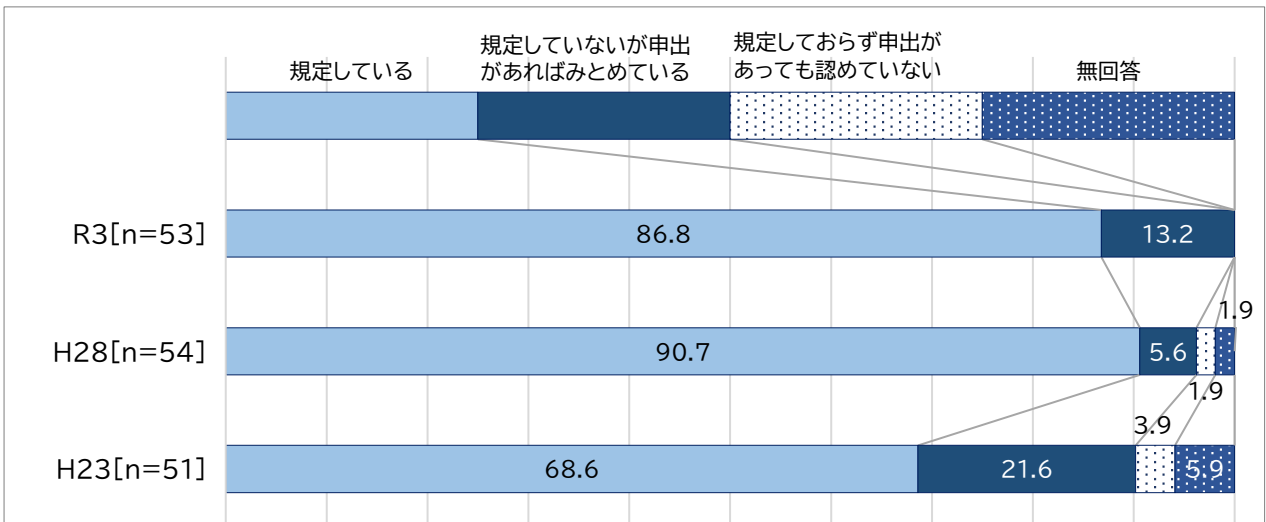


**問6.** 貴事業所では、就業規則に「介護休業制度」が規定されていますか。(○は1つ)

◆「介護休業制度」を規定している事業所は86.8%

介護休業制度を「規定している」が、86.8%で、「規定していないが申出があれば認めている」の13.2%とあわせると100%の事業所が介護休業制度を認めている。

令和2年度に介護休業を取得したのは女性6名。(H28調査では、1名)

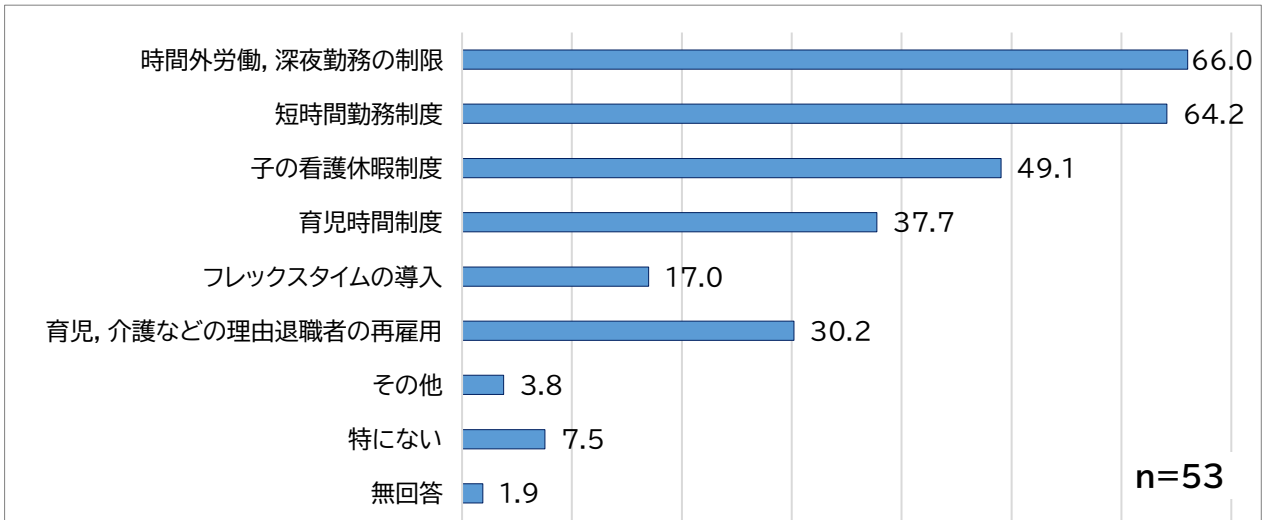


**問7.** 貴事業所では、育児や介護を行う従業員のために、どのような支援を行っていますか。(あてはまるもの全てに○)

◆「時間外労働・深夜勤務の制限」「短時間勤務制度」の支援が6割強

「時間外労働・深夜勤務の制限」が、66.0%(H28:61.1%)、「短時間勤務制度」が、64.2%(H28:63.0%)となっている。

「子の看護休暇制度」は、5割程の事業所で支援が行われている。(R3:49.1%、H28:48.1%)

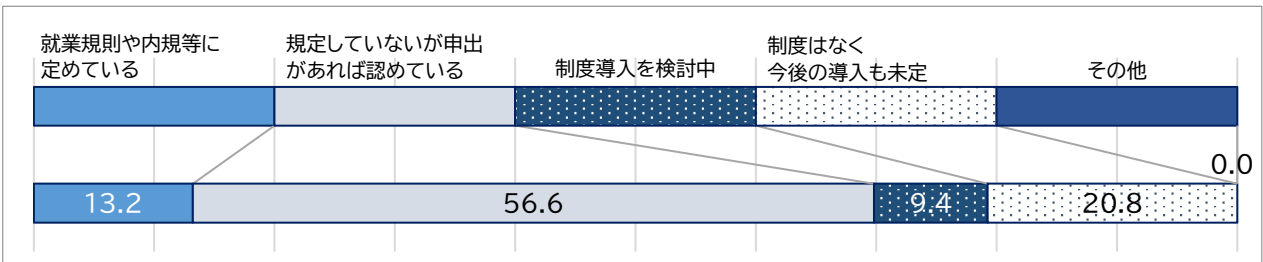


(2)再雇用制度

**問8.** 貴事業所では、妊娠・出産・育児・介護を理由に退職した従業員を対象とした再雇用制度を定めていますか。(〇は1つ)

◆再雇用制度を実施または検討をしている事業所は、8割弱

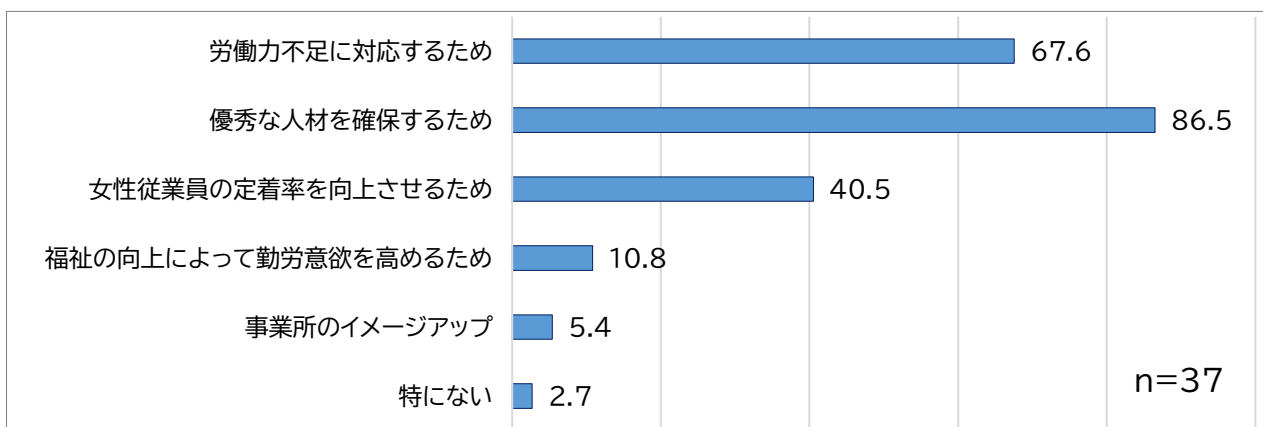
「就業規則や内規等に定めている」が、13.2%(H28:11.1%)、「規定していないが申出があれば認めている」が、56.6%(H28:55.6%)で、7割弱の事業所が再雇用制度を取り入れており、「制度導入を検討中」9.4%(H28:3.7%)を加えると8割弱の事業所が再雇用制度を実施・検討している。



**問8-1.** 【「就業規則や内規等に定めている」、「規定していないが申出があれば認めている」とした事業所】再雇用制度を行っている理由は何ですか。(〇は3つまで)

◆「労働力不足に対応するため」、「優秀な人材を確保するため」が多い

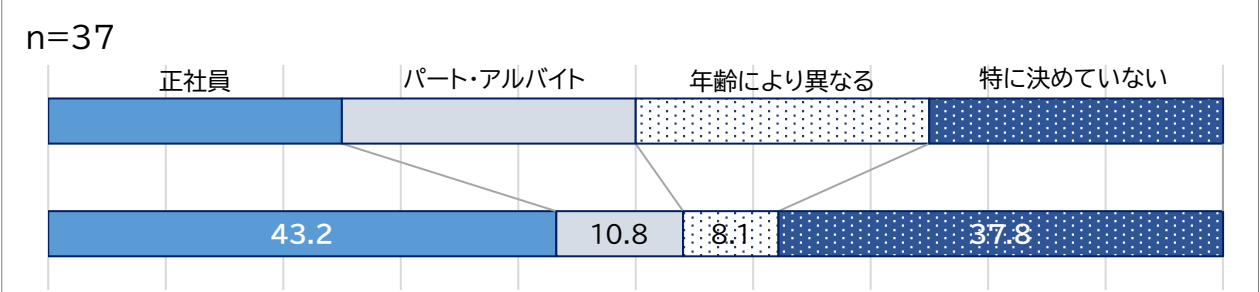
「優秀な人材を確保するため」が、86.5%(H28:80.6%)で、最も高く、次に「労働力不足に対応するため」67.6%(H28:69.4%)となっている。  
また、「女性従業員の定着率を向上させるため」が、40.5%となっている



**問8-2.** 【「就業規則や内規等に定めている」、「規定していないが申出があれば認めている」とした事業所】再雇用後の雇用形態はどうなっていますか。（〇は1つ）

◆「正社員」が4割強

「正社員」が、43.2%(H28:38.9%)となっている。



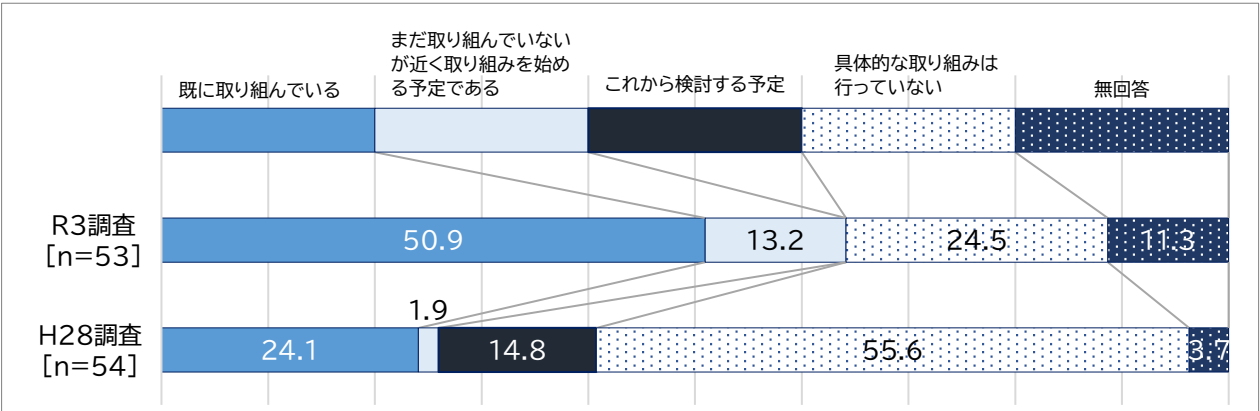
3. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

(1)ワーク・ライフ・バランス

**問9.** 貴事業所での「ワーク・ライフ・バランス」の推進の取り組みはどのような状況ですか。（〇は1つ）

◆ワーク・ライフ・バランスの推進を行っている事業所は5割

「既に取り組んでいる」が、50.9%で、H28調査 24.1%から大きく増加している。「まだ取り組んでいないが近く取り組みを始める予定である」の13.2%(H28:1.9%)を合わせると6割を超えている。

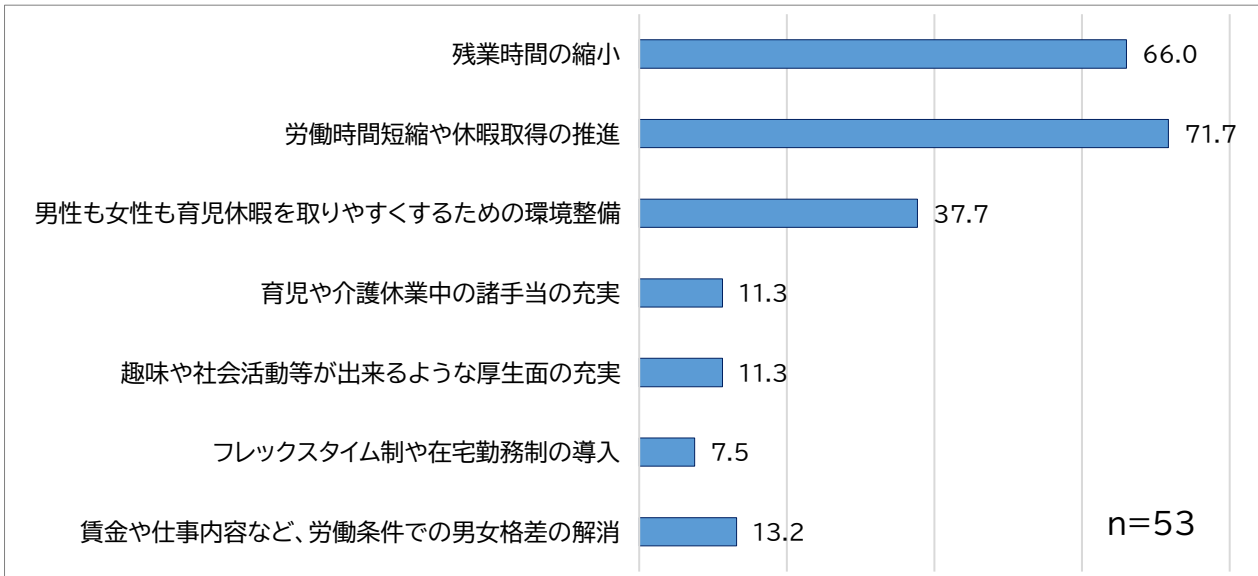


**問10.** 「ワーク・ライフ・バランス」を推進するため、事務所で必要なことは何ですか。（〇は3つまで）

◆「労働時間短縮や休日の増加推進」が最も多い

「労働時間短縮や休暇取得の推進」が、71.7%(H28:46.3%)で、最も高く、次に「残業時間の縮小」が66.0%(H28:53.7%)、「男性も女性も育児休暇を取りやすくするための環境整備」が37.7%(H28:31.5%)となっている。





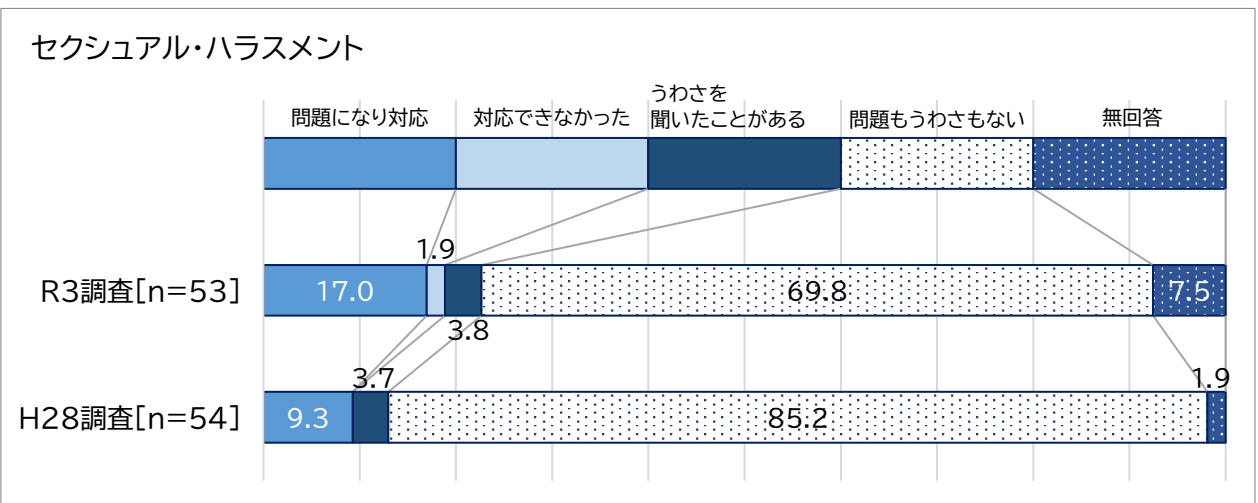
#### 4. ハラスメント対策について

##### (1) セクシュアル・ハラスメント

**問11.** 貴事業所内で「セクシュアル・ハラスメント」について(1)問題になったことがありますか、(2)取り組みを行っていますか。(〇は1つ)  
 セクハラ

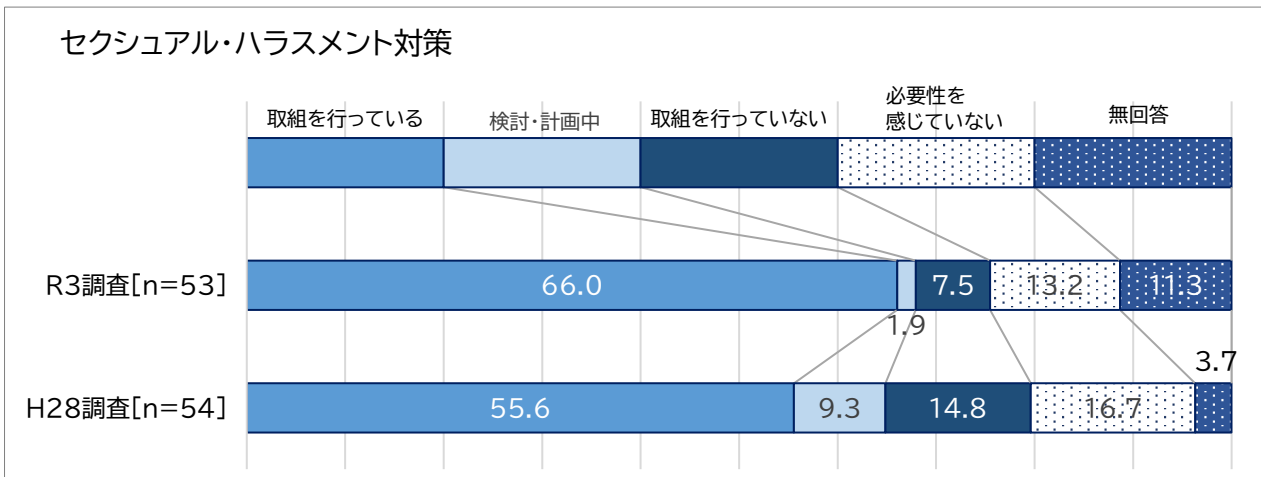
##### ◆「問題になり対応した」事業所は17%で増加

「問題になり事業所で対応した」が、17.0%で、H28調査 9.3%から増加している。また、対応できなかった事業所が1.9%(1社)となっている。



##### ◆「取り組みを行っている」事業所が増加

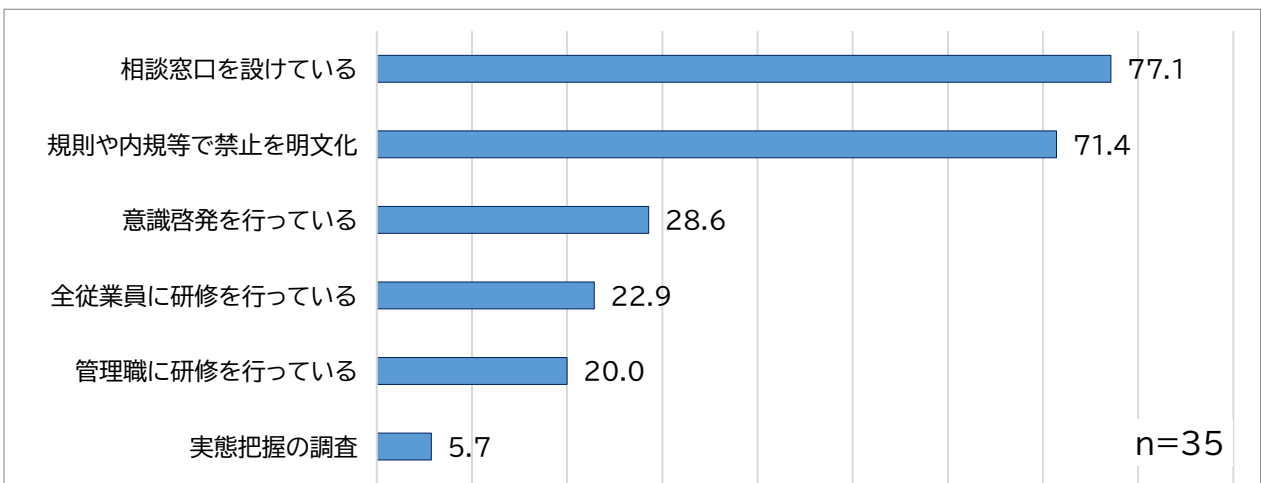
「取り組みを行っている」が、66.0%で、H28調査 55.6%から増加し、「必要性を感じていない」が、13.2%で、H28調査 16.7%より減少している。



**問11-1. 【「取り組みを行っている」とした事業所】**  
 セクハラ どのような取り組みを行っていますか。 (あてはまるもの全てに○)

◆「規則や内規等で禁止を明文化」した事業所が増加

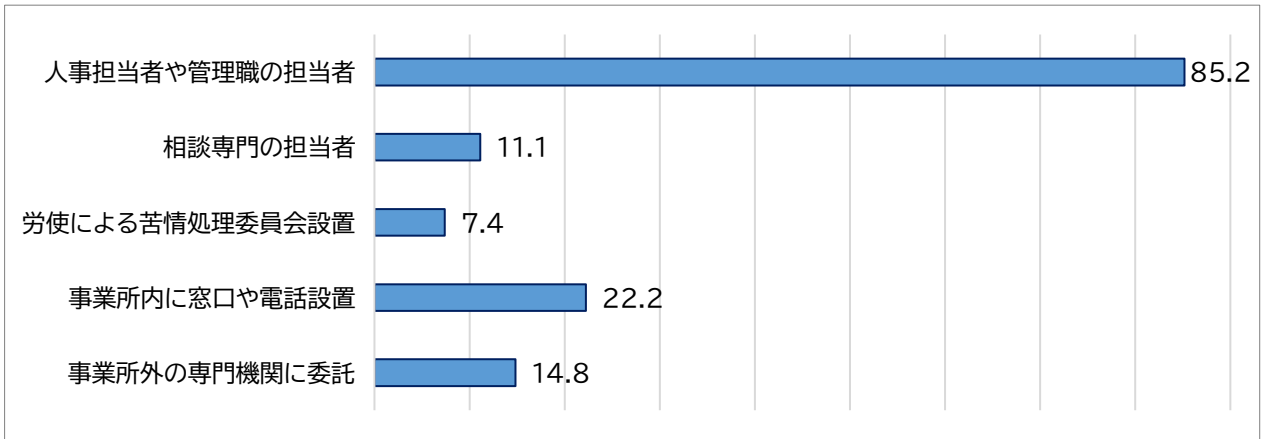
「相談窓口を設けている」のは、77.1%(H28:83.3%)で、最も高く、「規則や内規等で禁止を明文化」(R3:71.4%、H28:46.7%)、「全従業員に研修を行っている」(R3:22.9%、H28:3.3%)、「管理職に研修を行っている」(R3:20.0%、H28:10.0%)の取り組みが増加している。



**問11-2. 【「相談窓口を設けている」とした事業所】**  
 セクハラ 相談・苦情対応窓口をどのように設置していますか。 (あてはまる全てに○)

◆人事担当者や管理職の担当者を窓口に行っている事業所が8割

「人事担当者や管理職の担当者」が、85.2%(H28:64%)と増加している。

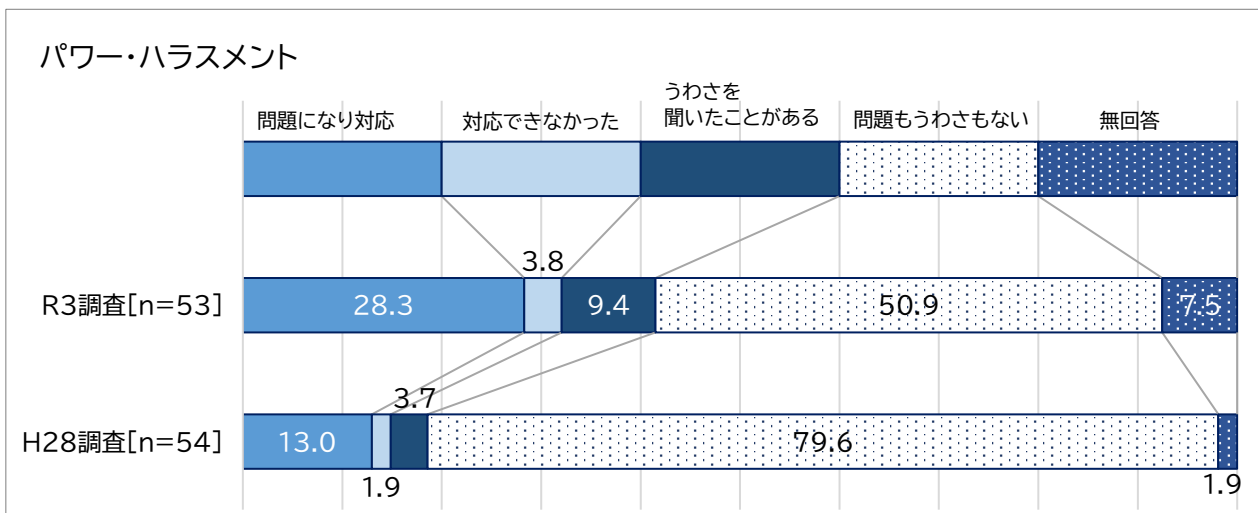


(2) パワー・ハラスメント

**問11.** 貴事業所内で「パワー・ハラスメント」が問題になったことがありますか。  
 パワハラ

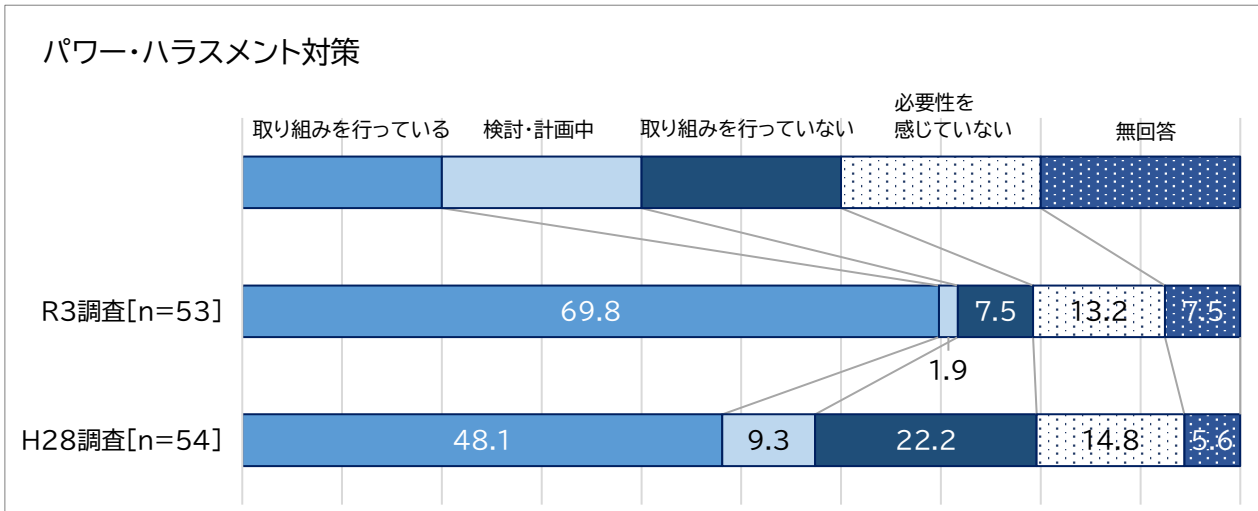
◆「問題になり対応した」事業所は28.3%で増加

「問題になり対応した」が、28.3%で、H28調査 13.0%から増加している。また、「対応できなかった」とした事業所が、3.8%(2社)となっている。



◆「取り組みを行っている」事業所が増加

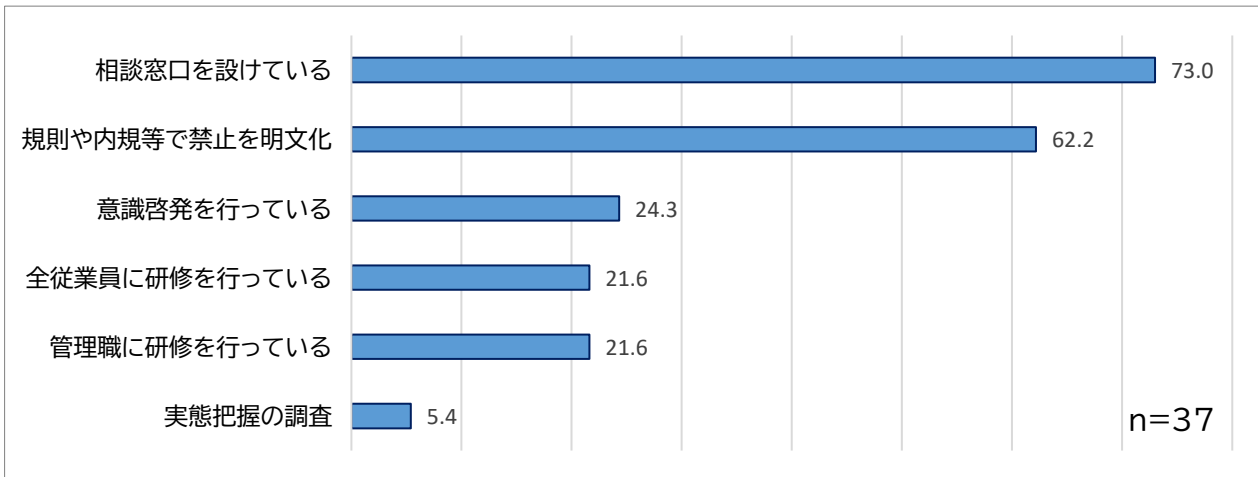
「取り組みを行っている」とした事業所は69.8%で、H28調査 48.1%から増加している。



**問11-1. 【「取り組みを行っている」とした事業所】**  
 パワハラ どのような取り組みを行っていますか。（あてはまるもの全てに○）

◆「規則や内規等で禁止を明文化」した事業所が増加

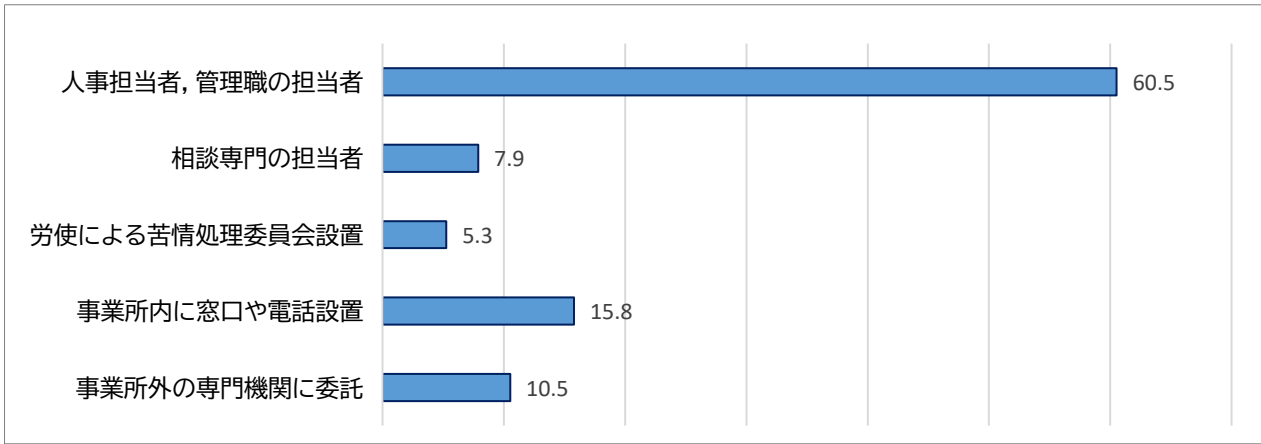
「相談窓口を設けている」が、73.0%(H28:80.8%)で、最も高く、「規則や内規等で禁止を明文化」は、62.2%(H28:38.5%)と大幅に増えている。



**問11-2. 【「相談窓口を設けている」と答えた事業所】**  
 パワハラ 相談・苦情対応窓口をどのように設置していますか。（あてはまる全てに○）

◆「人事担当者や管理職の担当者」が窓口となっている事業者が6割

「人事担当者や管理職の担当者」が、60.5%(H28:61.9%)となっている。

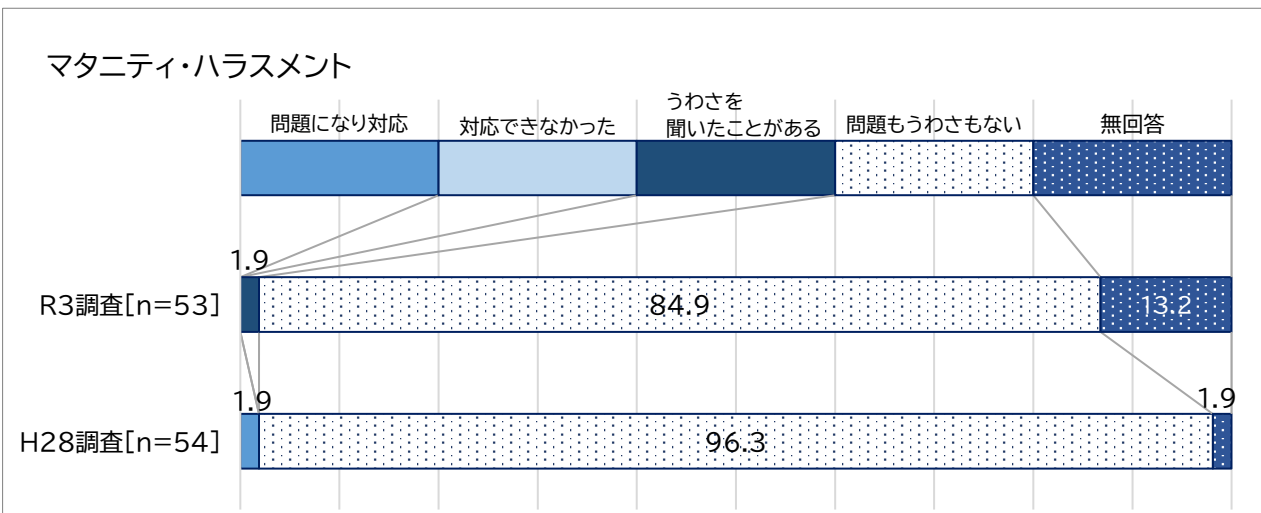


(3) マタニティ・ハラスメント

**問11.** 貴事業所内で「マタニティ・ハラスメント」が問題になったことがありますか。  
マタハラ

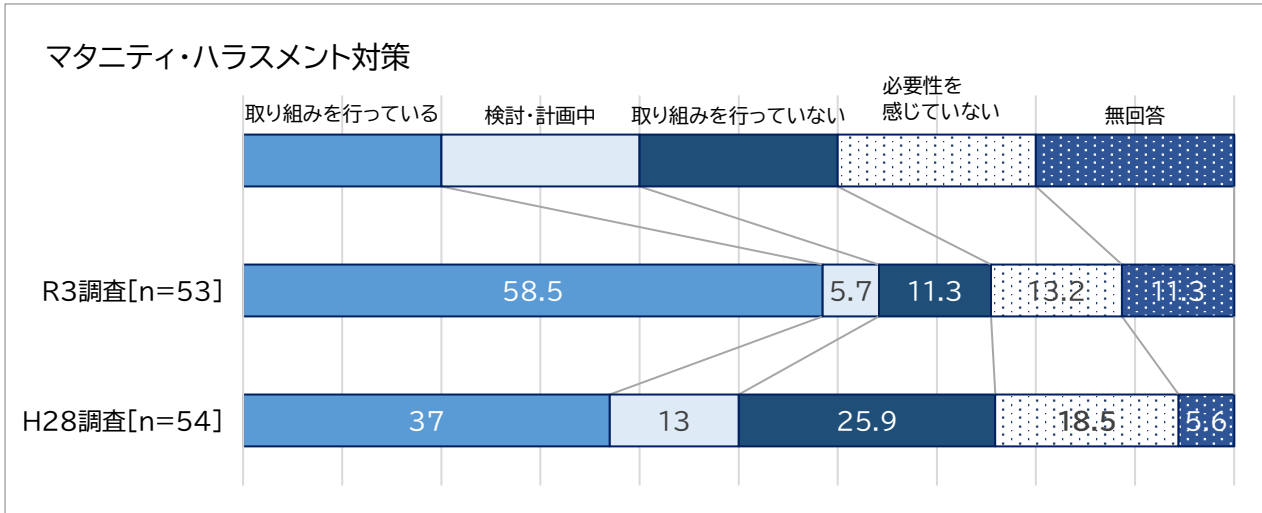
◆「問題もうわさもない」が84.9%

「問題もうわさもない」が、84.9%(H28:98.3%)となっている。



◆「取り組みを行っている」事業所が増加

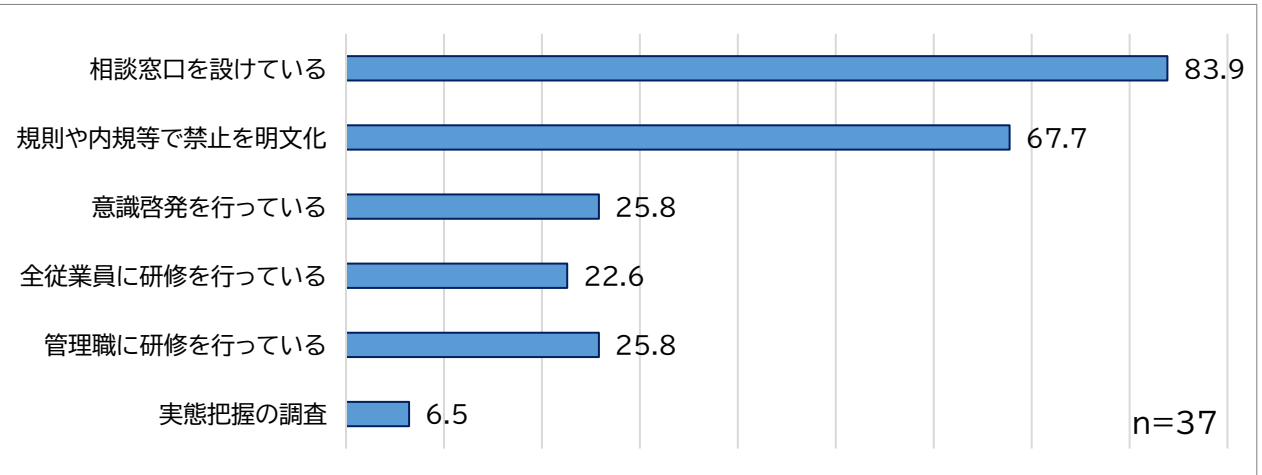
「取り組みを行っている」が、58.5%で、H28調査 37.0%から20ポイント増となっている。また、「取り組みは行っていない」、「必要性を感じていない」と答えた事業所の合計は24.5%となっている。



**問11-1. 【「取り組みを行っている」と答えた事業所】**  
 マタハラ どのような取り組みを行っていますか。 (あてはまるもの全てに○)

■「相談窓口を設けている」事業所は83.9%

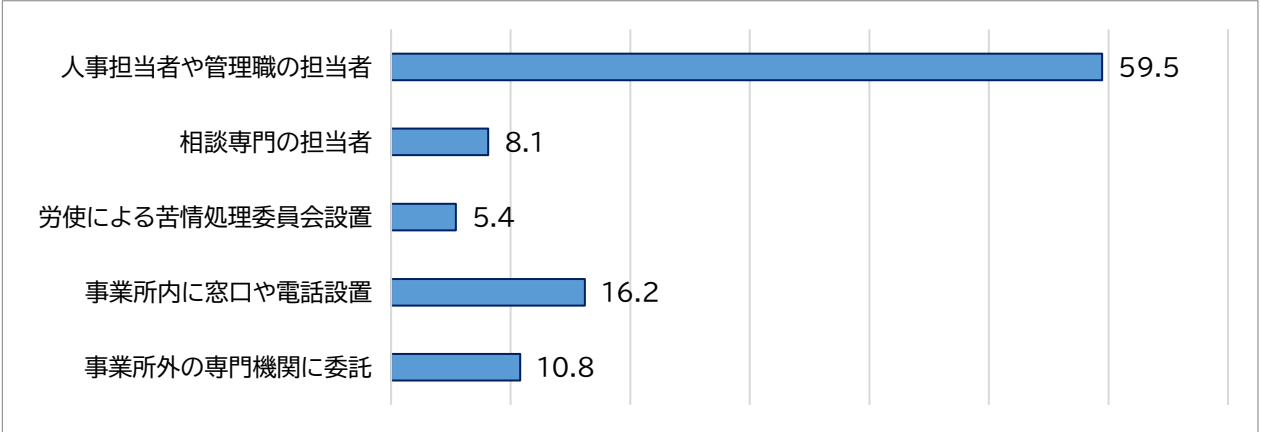
「相談窓口を設けている」は83.9%(H28:80%)で、「規則や内規等で禁止を明文化」が67.7%(H28:30%)となっています。



問11-2. 【「相談窓口を設けている」と答えた事業所】  
 マタハラ 相談・苦情対応窓口をどのように設置していますか。(あてはまる全てに○)

◆「人事担当者や管理職の担当者」が窓口となっている事業者が6割弱

「人事担当者や管理職の担当者」が、59.5%(H28:68.8%)となっている。



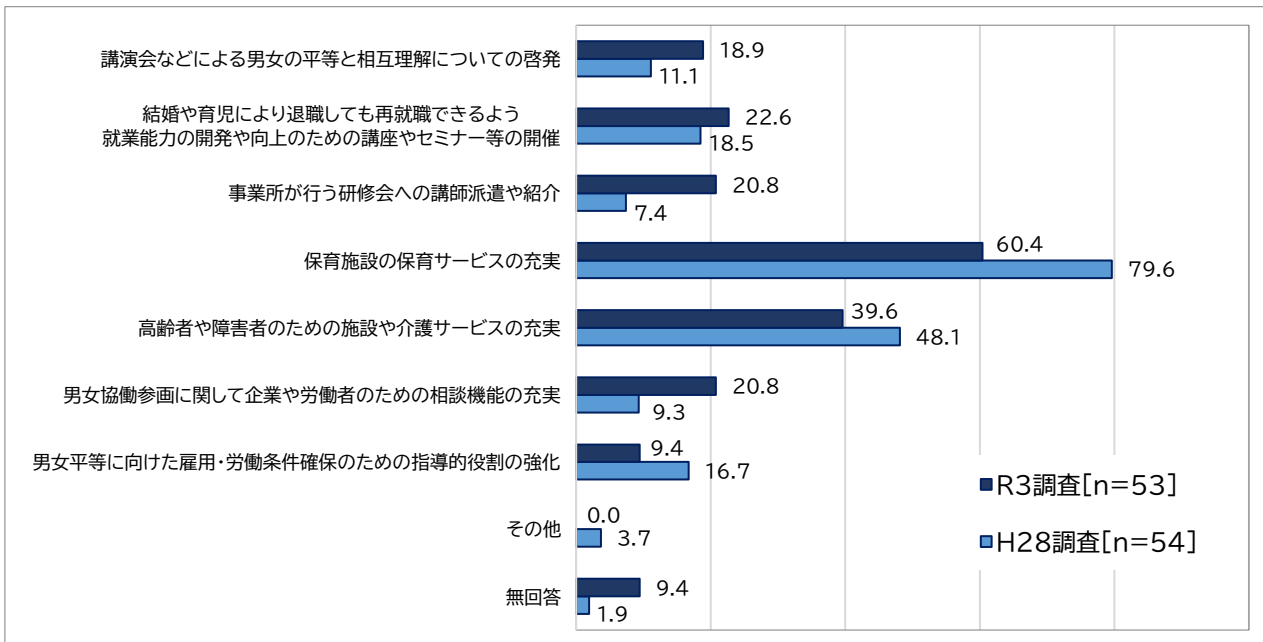
## 5. 市として取り組むべき方策について

**問12.** 事業所の男女協働参画を進めるにあたって、伊万里市は、今後、どのようなことに取り組んでいく必要があると思いますか。  
(〇は3つまで)

### ◆「保育サービスや介護サービスの充実」が高い

「保育施設の保育サービスの充実」が、60.4%(H28:79.6%)で、最も高く、次に「高齢者や障害者のための施設や介護サービスの充実をさせる」39.6%(H28:48.1%)となっている。

また、「事業所が行う研修会への講師派遣や紹介」が、20.8%(H28:7.4%)、「男女協働参画に関しての企業や労働者のための相談機能の充実」が、20.8%(H28:9.3%)で、H28調査より特に高くなっている。



### 「その他」と答えた事業所の回答

・会社(事務所)での啓発や取組は重要であるが、家庭や地域での意識改革に取り組まないと男女協働参画は進まない。(女性が社会進出するための環境)

・市議会や各種委員会(市が所管する)の構成に男女比率に加えて年齢構成を規定すること。

## 6. 自由意見

・男女協働参画について当事業所では業務的に関心がない

・業種によって男女協働の在り方が違うので、試験的に取り組みをしてもらえる企業を募集して実施・結果を報告した方が良いのではないのでしょうか。少子化と男女協働の両立は正直、難しいと思います。

・現場職での女性採用には労使共にハードルが高い。具体的には雇う側としては出産、育児、体力面など。雇われる側としてはその分、賃金が低く設定される。そのギャップを市で助成する様、制度があれば双方に採用、求職の意欲につながると思う。





# IV. 中学生 調査結果

---

## ■回答者の属性

---

## ■家族構成

---

### 1. 男女平等について

---

(1) 家族等から言われること

---

(2) 家事について

---

(3) 男女平等の実現状況

---

### 2. 将来について

---

(1) 職業について

---

(2) 性別役割分担意識

---

### 3. DV(ドメスティック・バイオレンス)について

---

(1) DVについて

---

(2) デートDVについて

---

### 4. 自分らしく生きられる社会について

---

(1) 「男女共同参画社会」という言葉について

---

(2) 「男女協働参画社会」実現のために取り組むこと

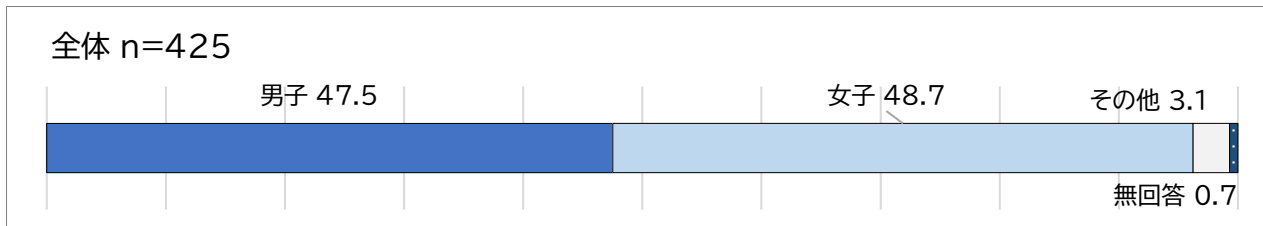
---

### 5. 自由意見・要望等

---

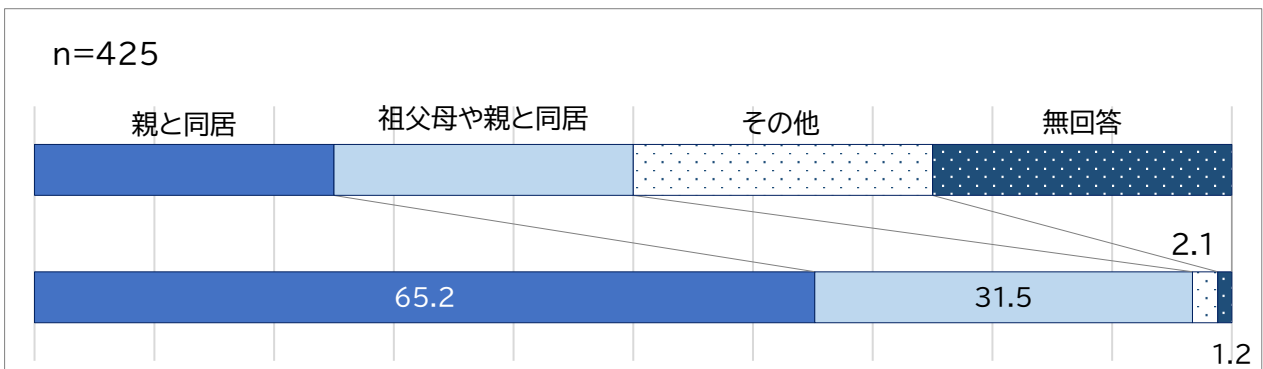
## IV. 中学生 調査結果

### ■回答者の属性



### ■家族構成

◇ 親と同居の2世代世帯が 65.2%、祖父母・親と同居の3世代世帯が 31.5%。



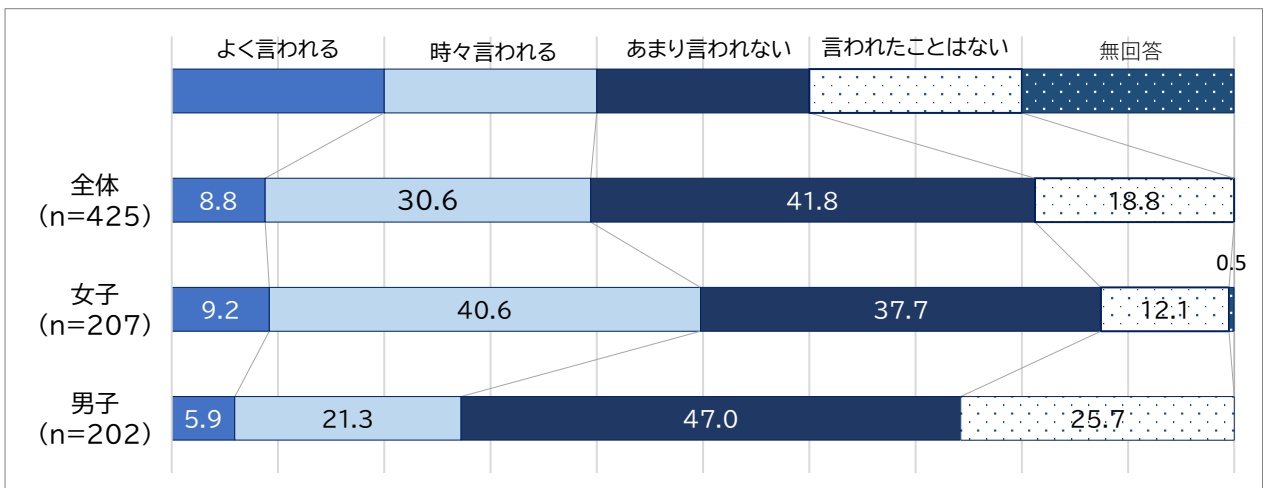
## 1. 男女平等について

### (1) 家族等から言われること

**問1.** あなたは大人の人に「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。  
(〇は1つ)

◇「よく言われる」「時々言われる」は、女子が、男子の2倍弱

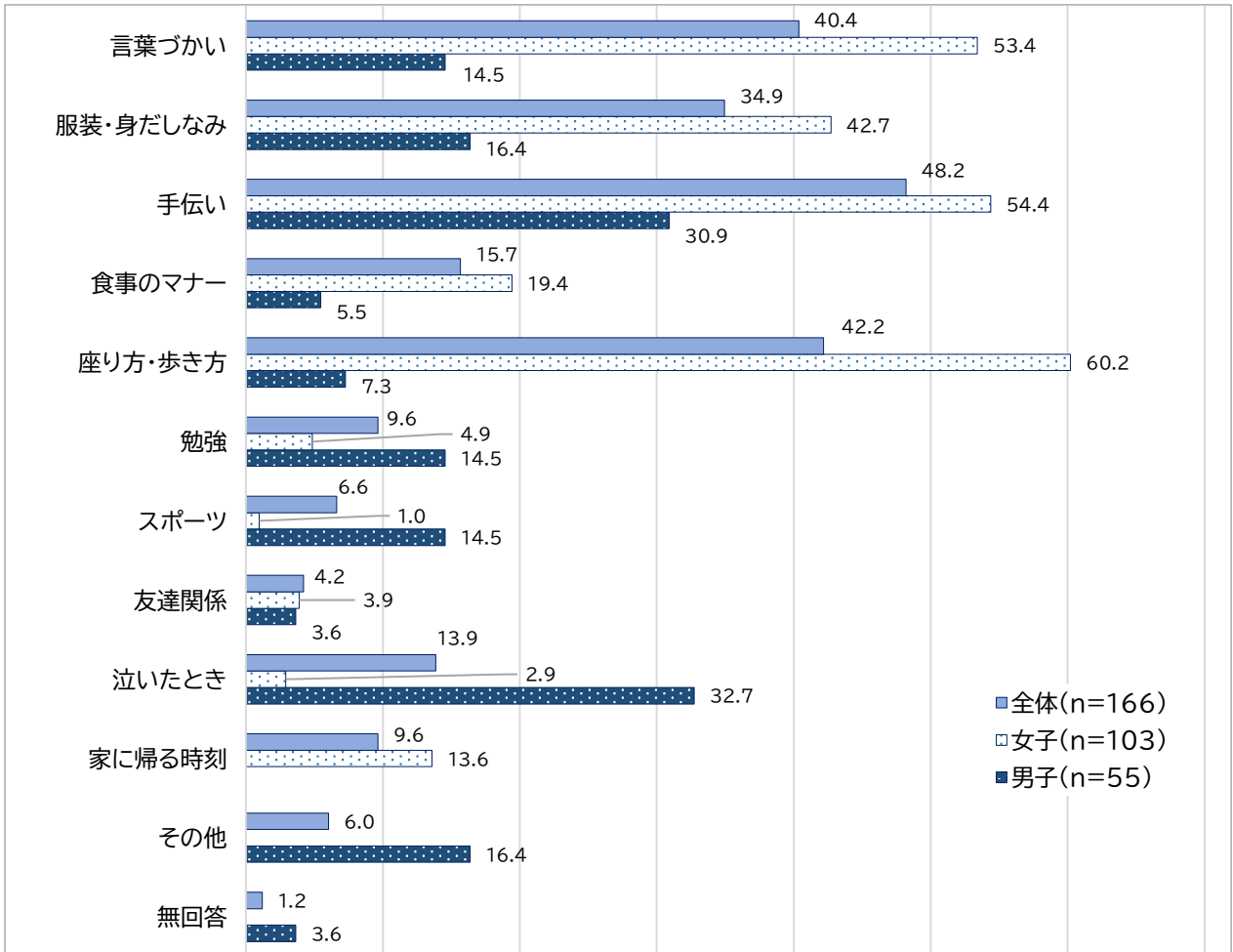
「よく言われる」「時々言われる」が、女子は 49.8%で、男子より22.6ポイント高く、「言われたことはない」「あまり言われたい」は、男子は 72.7%で、女子より、22.9ポイント高くなっている。



**問1-1. 【問1で「よく言われる」「時々言われる」とした方】**  
 どんなことについて言われましたか。（あてはまるもの全てに○）

◇全体では「言葉づかい」「手伝い」「座り方・歩き方」が多い

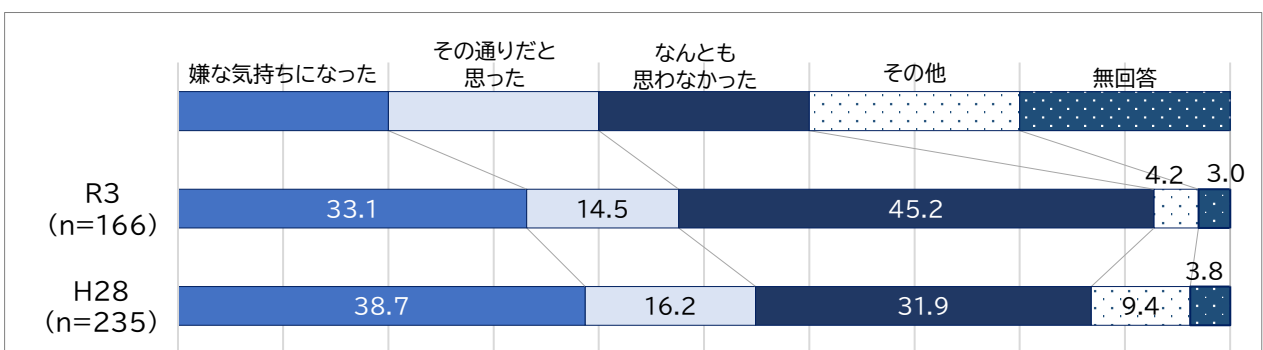
「座り方・歩き方」では、女子 60.2%、男子 7.3%、「言葉づかい」では、女子53.4%、男子14.5%と女子の割合が高くなっている。



**問1-2. 【問1で「よく言われる」「時々言われる」とした方】**  
 「男だから○○しなさい」や「女だから○○しなさい」と言われ時、どんな気持ちでしたか。（○は1つ）

◇「なんとも思わなかった」が最も多い。

「なんとも思わなかった」が、45.2%で、最も高く、前回のH28調査 31.9%より、高くなっている。「嫌な気持ちになった」が、33.1%となっている。

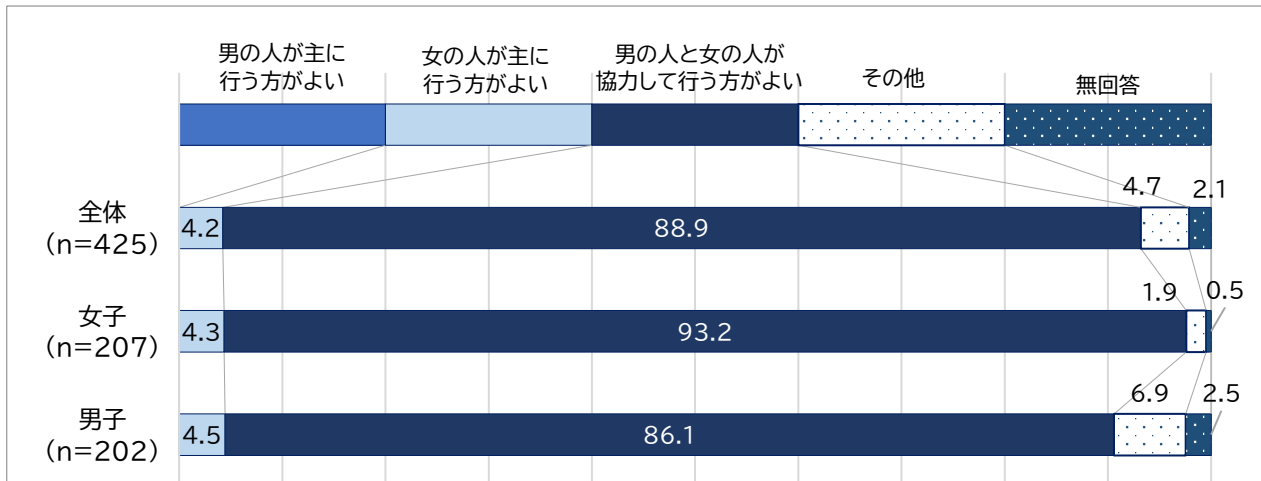


## (2)家事について

**問2.** あなたは、家で食事の用意や掃除、洗濯のような家事は、どのように行う方がよいと思いますか。(○は1つ)

## ◇「男の人と女の人が協力して行う方がよい」が9割弱

「男の人と女の人が協力して行う方がよい」が、女子 93.2%となっており、男子より、7.1ポイント高くなっている。



## (3)男女平等の実現状況

**問3.** あなたは、今の社会は男女平等になっていると思いますか。(○は1つ)

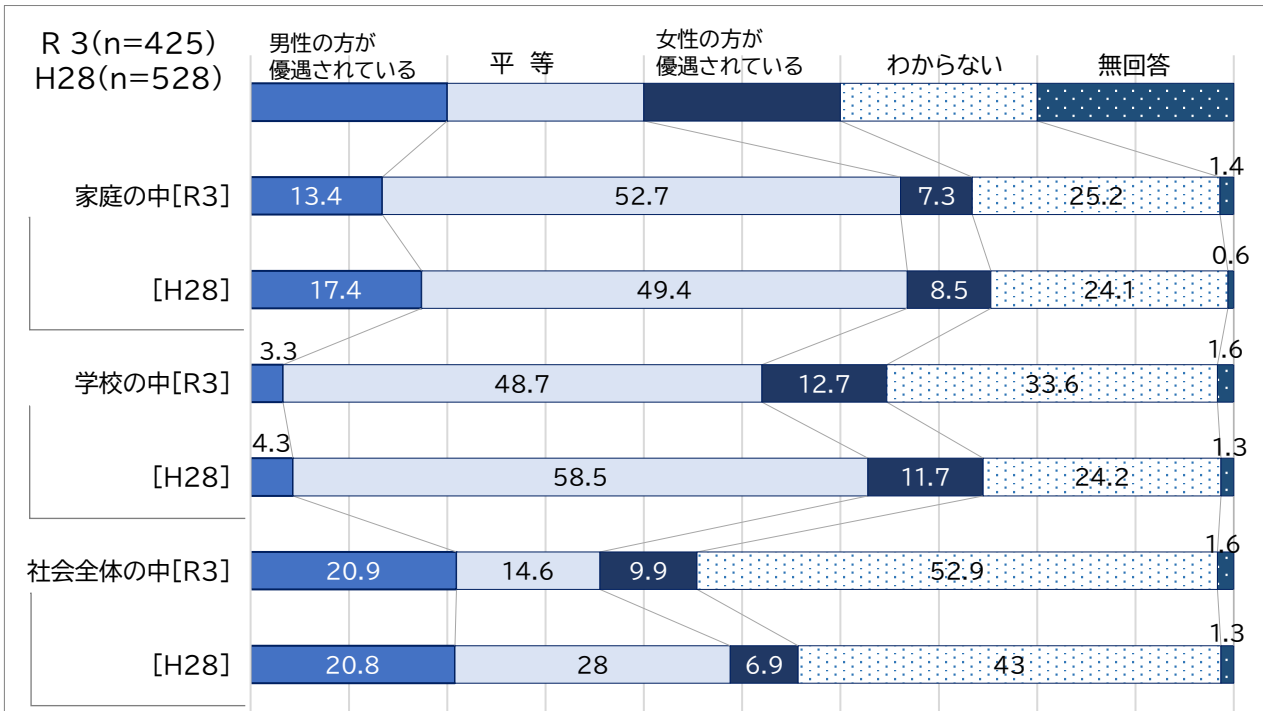
## ◇「社会全体の中」では「男性が優遇されている」と思う割合が高い

「社会全体の中」では「男性が優遇されている」が高くなっているが、「学校の中」では、「女性が優遇されている」が高くなっている。

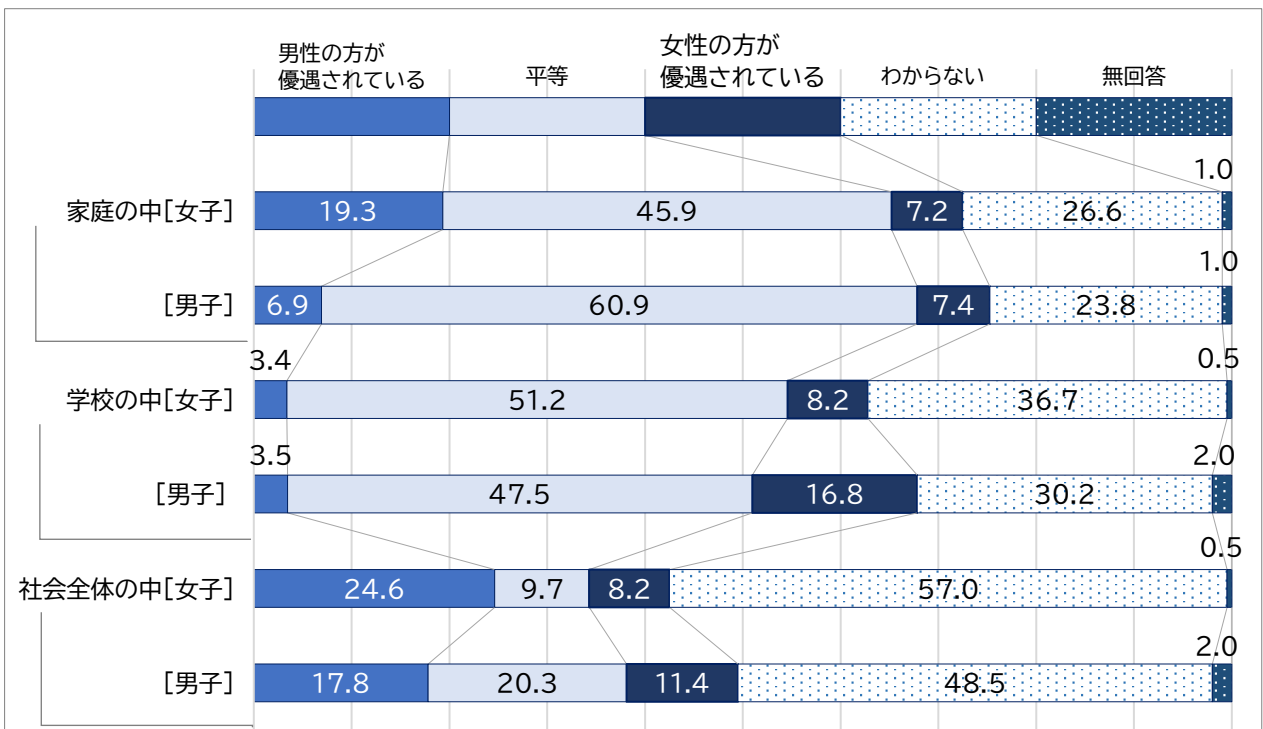
性別でみると、「家庭の中」では「男性が優遇されている」と思う割合は、女子が19.3%で、男子より12.4ポイント高く、「社会全体の中」では「男性が優遇されている」と思う割合は、女子が24.6%で、男子より6.8ポイント高くなっている。

「学校の中」では、「女性が優遇されていると思う割合」が、男子が16.8%で、女子より8.6ポイント高くなっている。

男女平等の実現状況 [全体]



男女平等の実現状況 [性別]

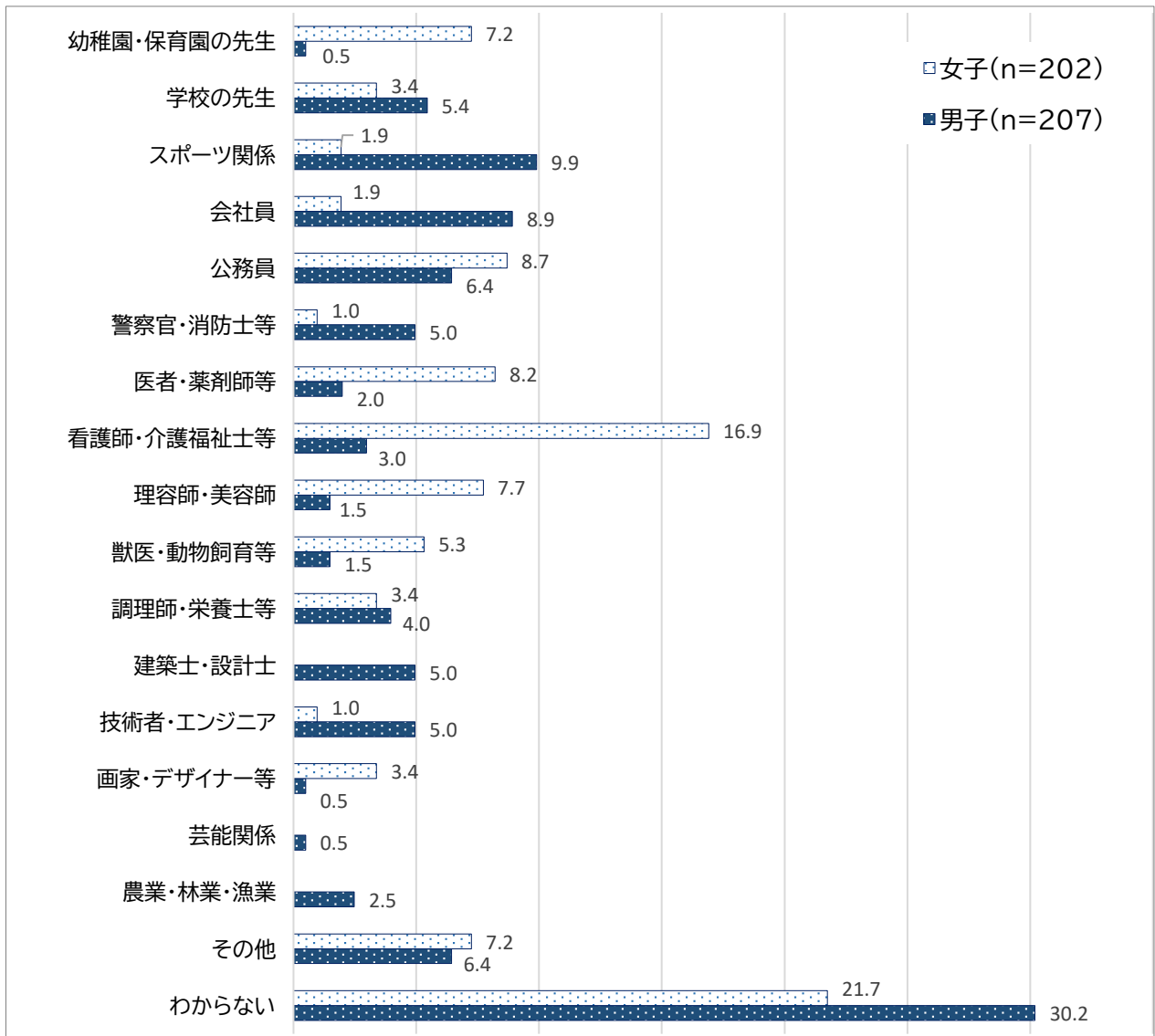


2. 将来について

(1) 職業について

**問 4.** あなたは、将来どのような仕事をしたいですか。(○は1つ)

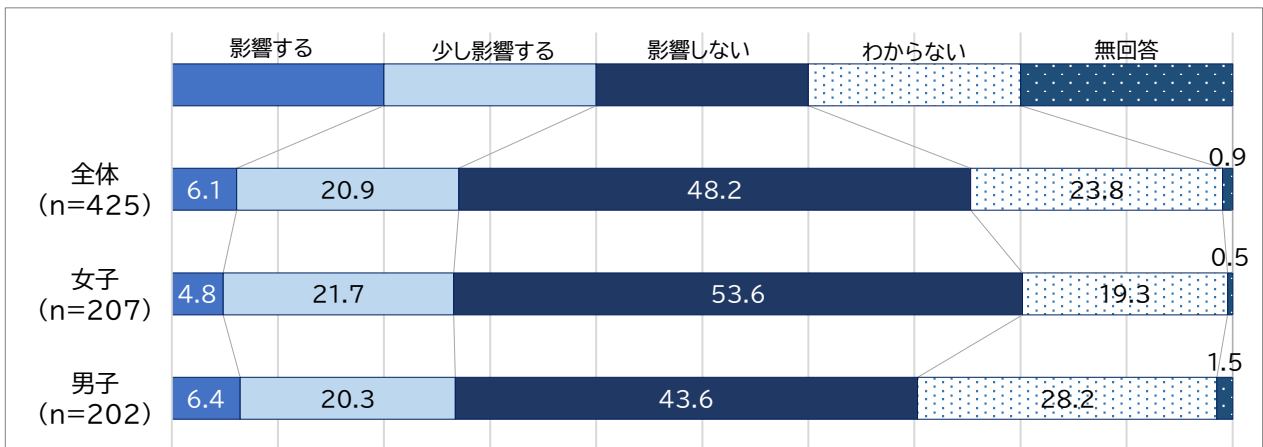
◇女子は「看護師・介護福祉士」が最も多く、男子では「スポーツ関係」が多い。



**問 5.** あなたは、将来なりたい仕事を実現する上で、『男であること』もしくは『女であること』が影響すると思いますか。(○は1つ)

◇「影響する」「少し影響する」が27%

「影響する」「少し影響する」が、女子では 26.5%が、男子 26.7%となっている。

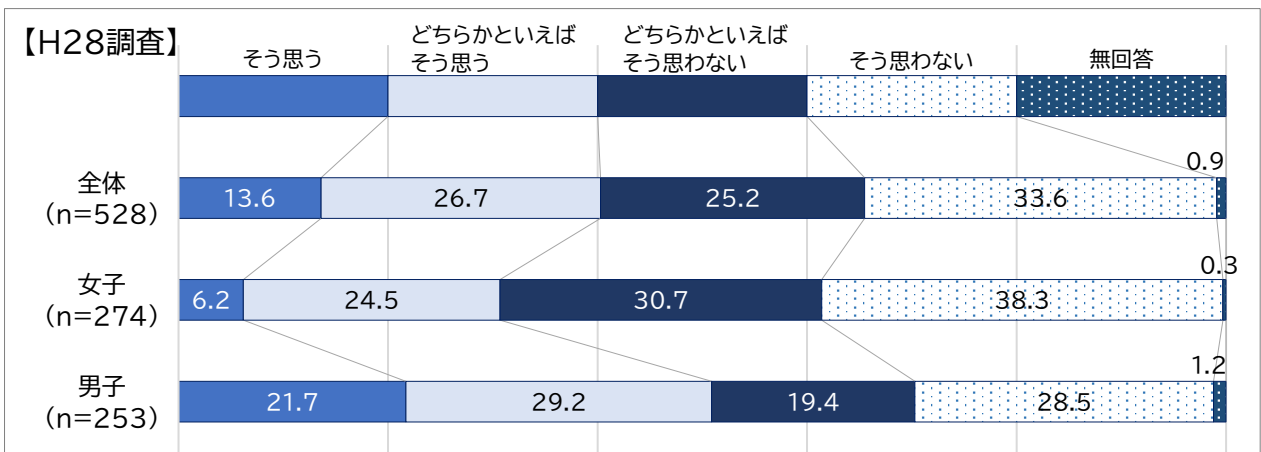
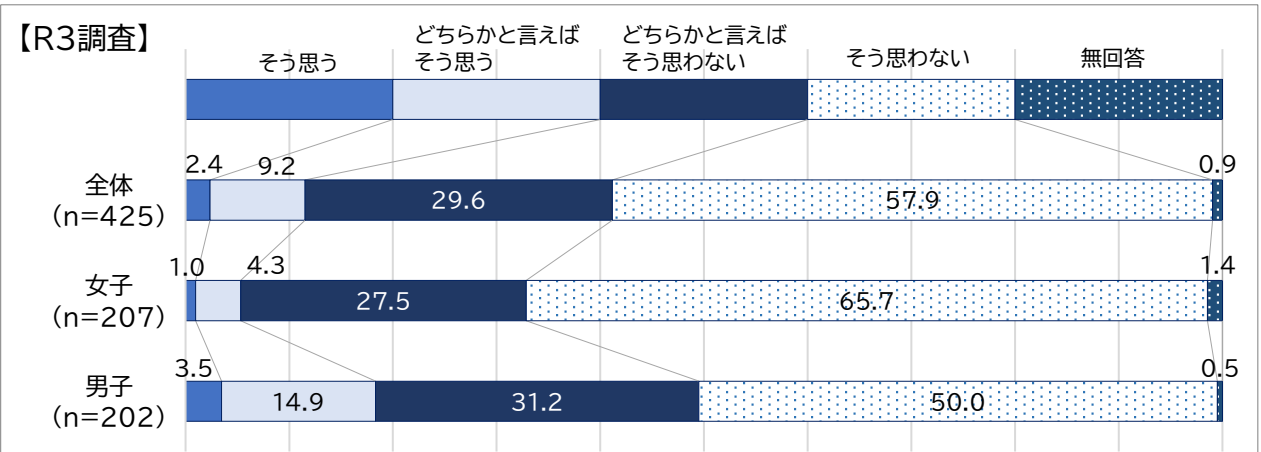


(2)性別役割分担意識

**問 6.** あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という性別で役割を決めるという考え方をどう思いますか。(○は1つ)

◇「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が8割を超えている

「そう思わない」「どちらかといえば思わない」が、87.5%(H28:58.8%)、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、11.6%(H28:40.3%)となっている。

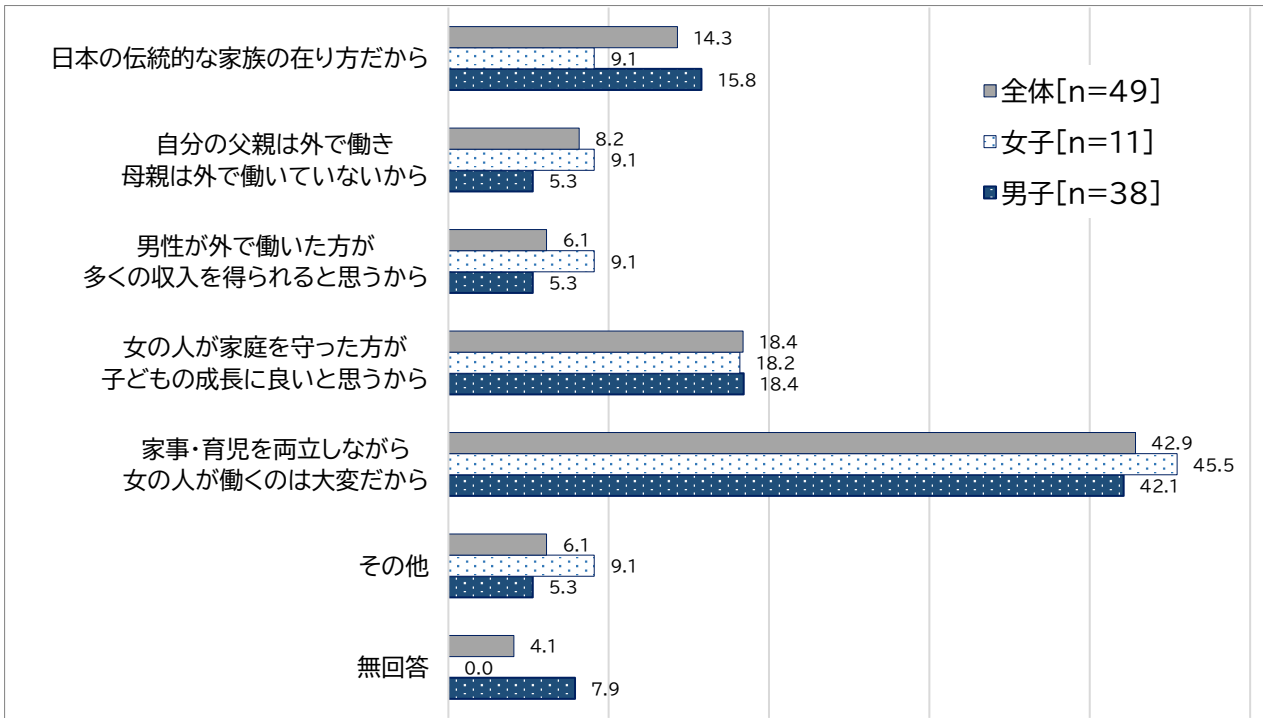


**問 6-1.** 【問6で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」とした方】  
 そう思う理由は何ですか。(○は1つ)

◇「家事・育児と両立しながら女の人が働くのは大変だから」が4割強

「家事・育児と両立しながら女の人が働くのは大変と思うから」が、42.9%で、最も高く、次に「女の人が家庭を守った方が子どもの成長に良いと思うから」が、18.4%となっている。

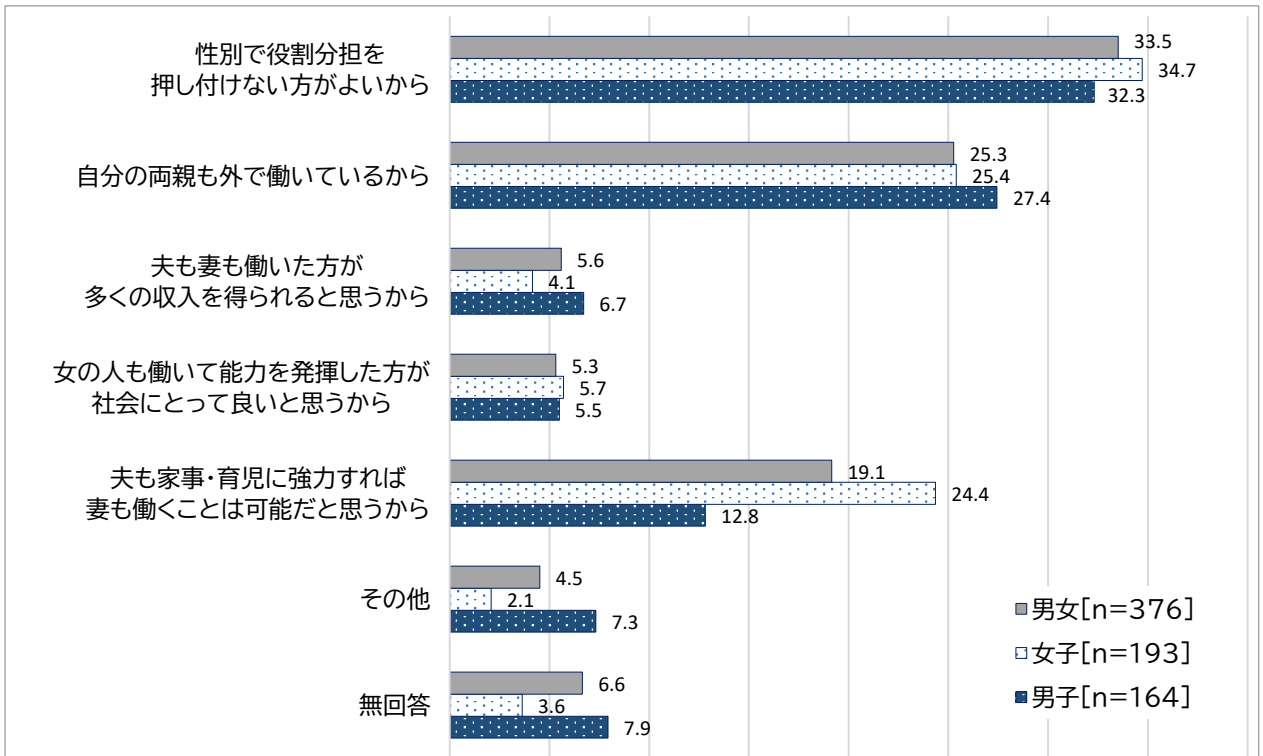




**問 6-2.** 【問6で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」とした方。】  
 そう思わない理由は何ですか。 (○は1つ)

◇「性別役割分担を押し付けない方がよいから」が3割強

「性別で役割分担を押し付けない方がよいから」が、33.5%で、最も高く、女子男子共に3割を超えている。性別で見ると、「夫も家事・育児に協力すれば妻も働くことが可能だと思うから」は、女子24.4%、男子12.8%で、女子が2倍近く高くなっている。



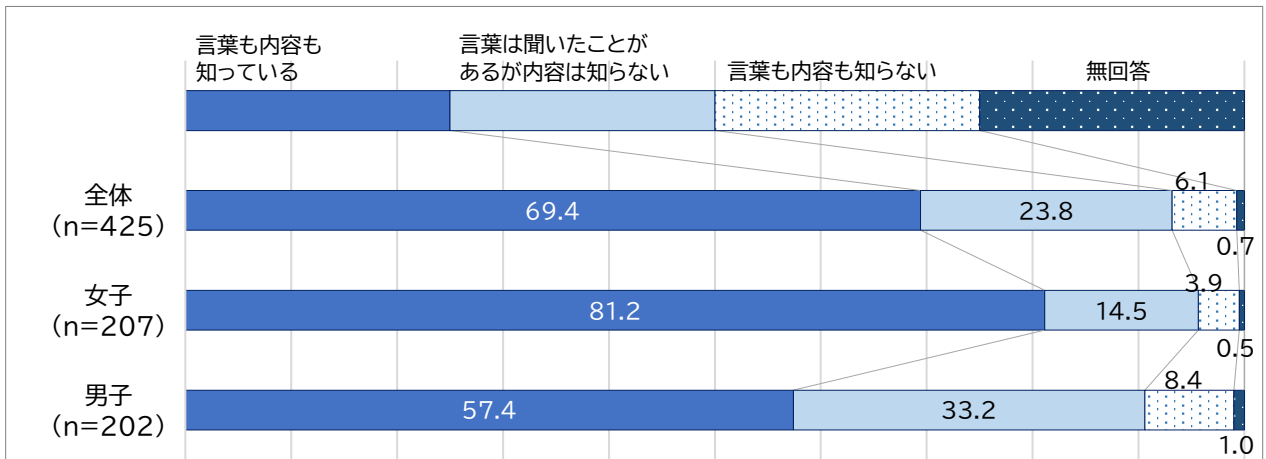
### 3. DV(ドメスティック・バイオレンス)について

#### (1)DVIについて

**問 7.** あなたは「DV」について知っていますか。(○は1つ)

◇「言葉も内容も知っている」が、7割弱

性別でみると、「言葉も内容も知っている」は、女子が81.2%で、男子より23.8ポイント高くなっている。

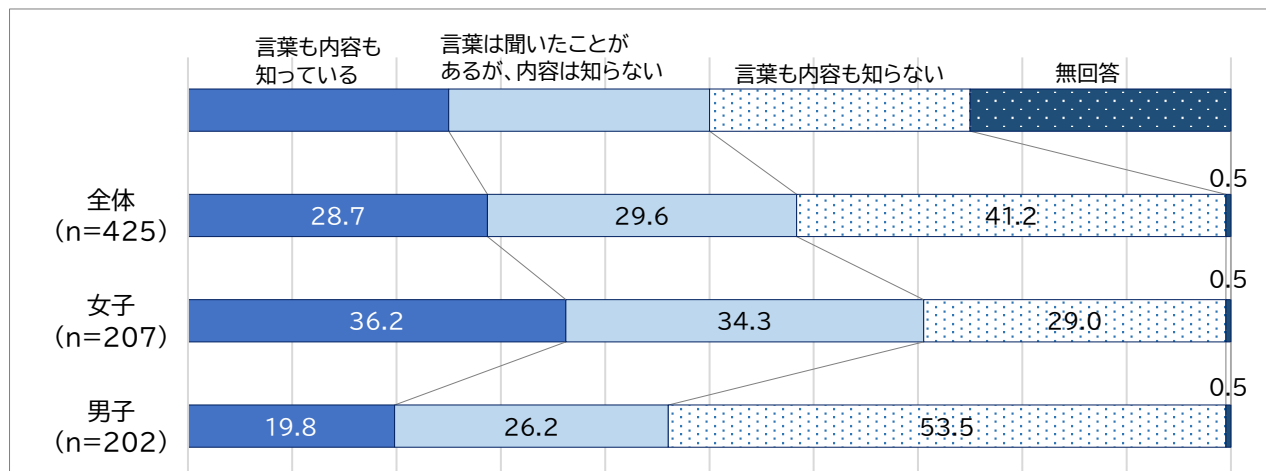


#### (2)デートDVについて

**問 8.** あなたは「デートDV」について知っていますか。(○は1つ)

◇デートDVの「言葉も内容も知っている」が、3割

「言葉も内容も知っている」は、28.7%で、「言葉も内容も知らない」が、41.2%で、となっている。  
性別でみると、「言葉も内容も知らない」が、男子は53.5%で、女子生徒より24.5ポイント高くなってる。

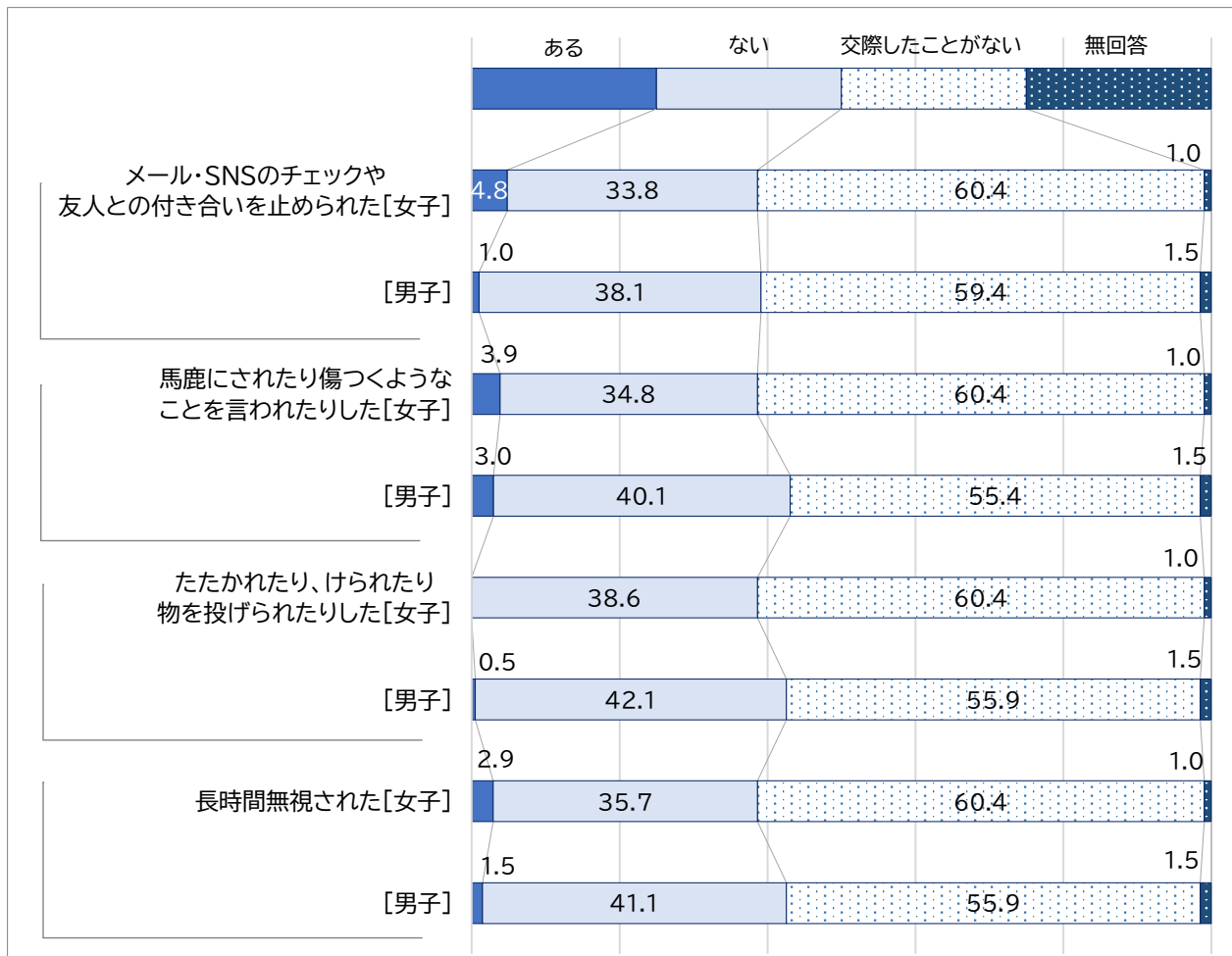


**問 9.** あなたは、これまでに交際相手から次のような行為を受けたことがありますか。  
 (質問項目ごとに○は1つ)

◇「メールやSNSをチェックされたり、他の友人との付き合いを止められたりした」が多い

女子では、「メールやSNSをチェックされたり、他の友人との付き合いを止められたりした」が、4.8%で、最も高い。次に、「馬鹿にされたり、傷つくような事を言われたりした」が、3.9%となっている。

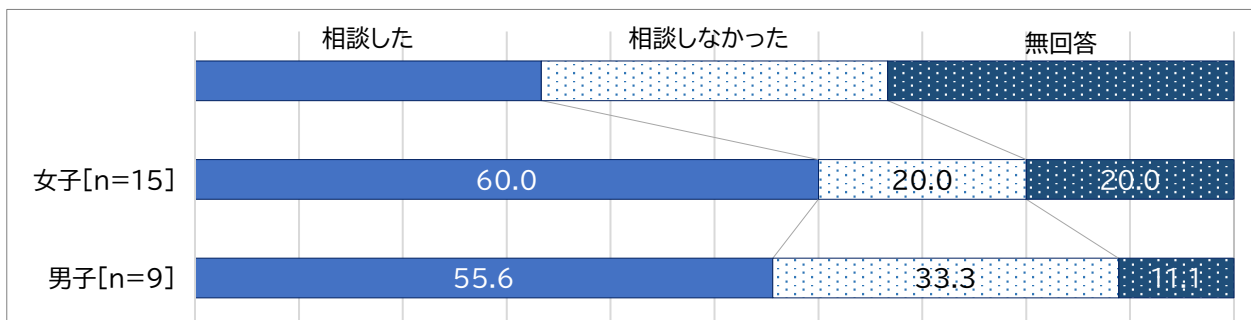
男子では、「馬鹿にされたり、傷つくような事を言われたりした」が、3.0%で、最も高くなっている。



**問 9-1.** 【問9で、1つでも「ある」とした方】あなたが受けた行為について、どこ(だれ)に相談しましたか。  
 (あてはまるもの全てに○)

◇「相談した」が女子で6割

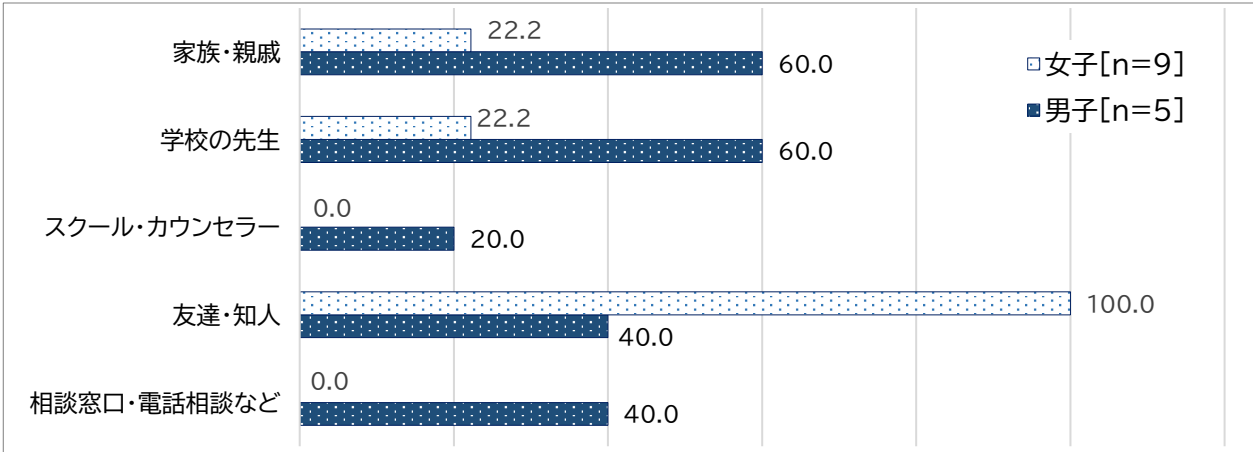
「相談した」が、女子60.0%、男子55.6%となっている。



**問 9-2.** 【問9-1で「相談した」とした方。】どこ(だれ)に相談しましたか。  
(あてはまるもの全てに○)

◇女子の相談先は「友達・知人」が最も多い

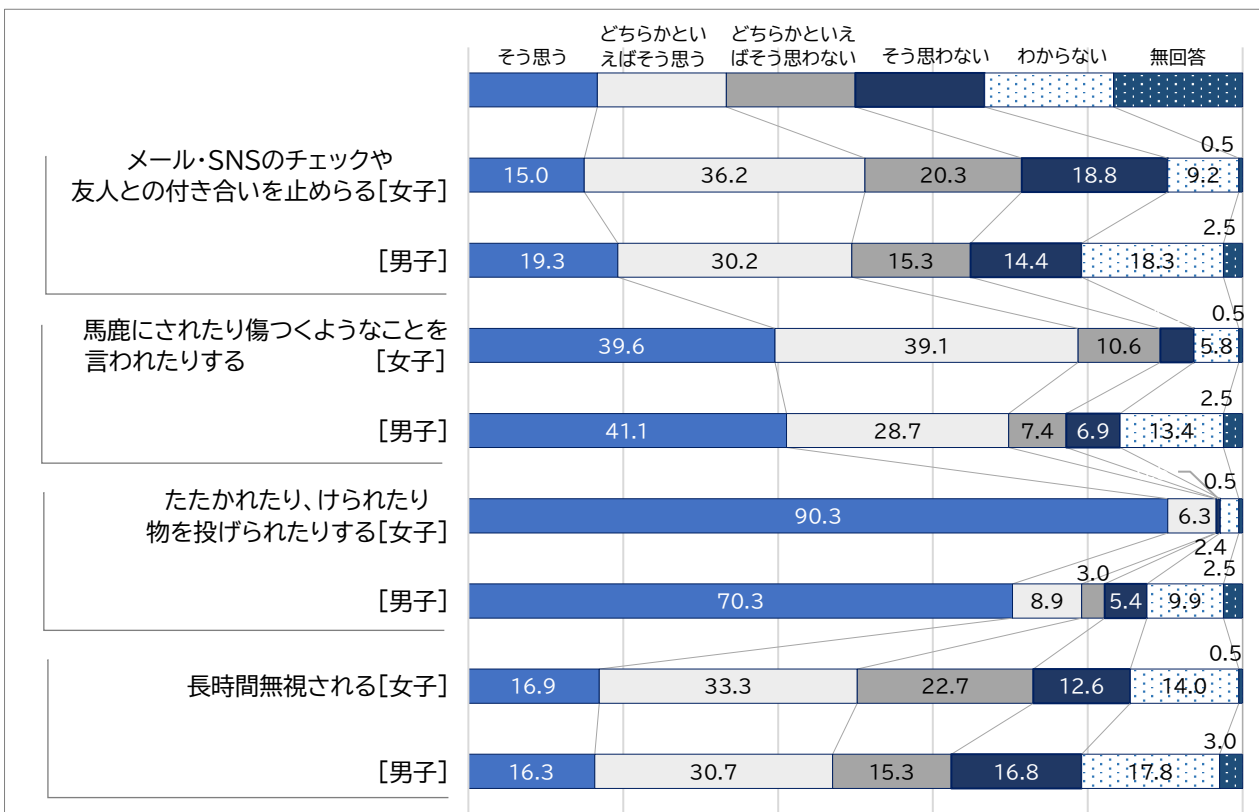
女子では「友達・知人」が最も多く、男子は「家族・親戚」、「学校の先生」が、多い。



**問 10.** あなたが、交際相手との間で次のような行為を受けた時、それを暴力だと思いますか。  
(質問項目ごとに○は1つ)

◇「メールやSNSをチェックされたり、他の友人との付き合いを止められる」、「長時間無視される」を暴力と認識していない割合は、3割を超えている

「メールやSNSをチェックされたり、他の友人との付き合いを止められる」の行為について、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」とした女子は 39.1%、男子は 29.7%、で、「長時間無視される」の行為について、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」とした女子は 35.3%、男子は 32.1%となっている。



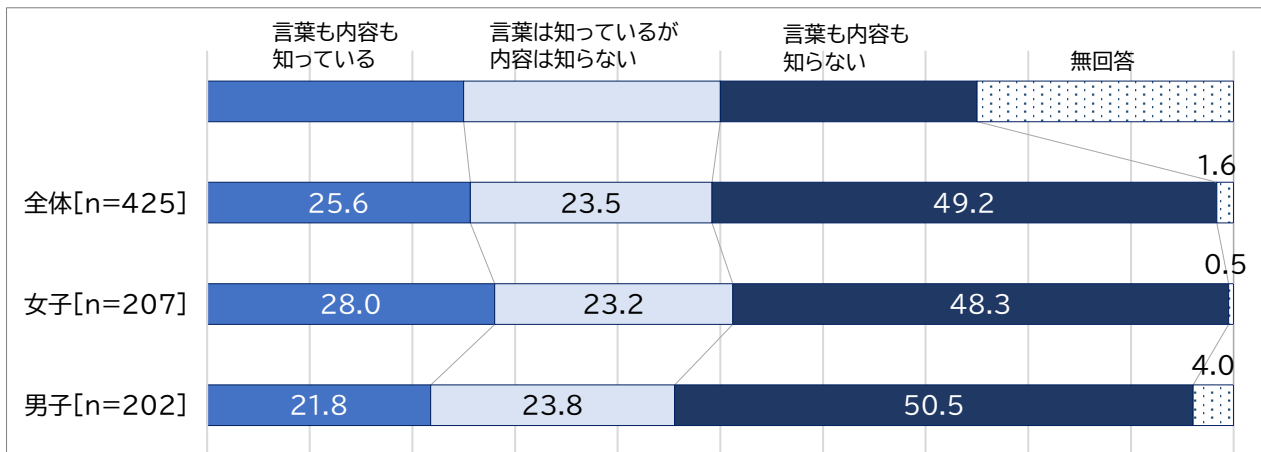
#### 4. 自分らしく生きられる社会について

##### (1)「男女共同参画社会」という言葉について

**問 11.** あなたは、「男女共同参画」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

##### ◇「男女共同参画社会」という言葉の認知度は5割弱

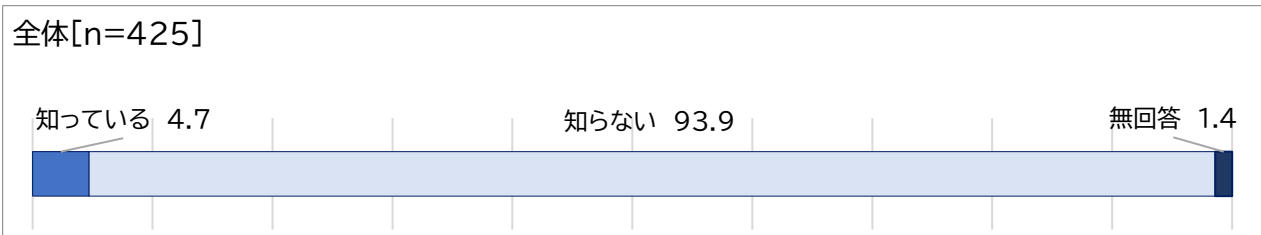
「言葉も内容も知っている」が、25.6%、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」が、23.5%となっている。



**問 12.** あなたは、伊万里市が「男女共同参画宣言都市」であることを知っていますか。

##### ◇「男女共同参画宣言都市」であることは、ほとんど浸透していない

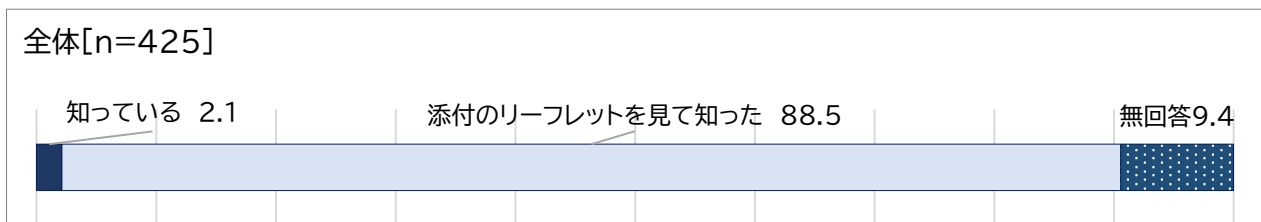
「知っている」が、4.7%となっている。



**問 13.** あなたは、伊万里市が平成28年4月1日に施行した「伊万里市男女協働参画を推進する条例」を知っていますか。

##### ◇「伊万里市男女協働参画を推進する条例」を施行したことは、ほとんど浸透していない

「知っている」が、2.1%となっている。

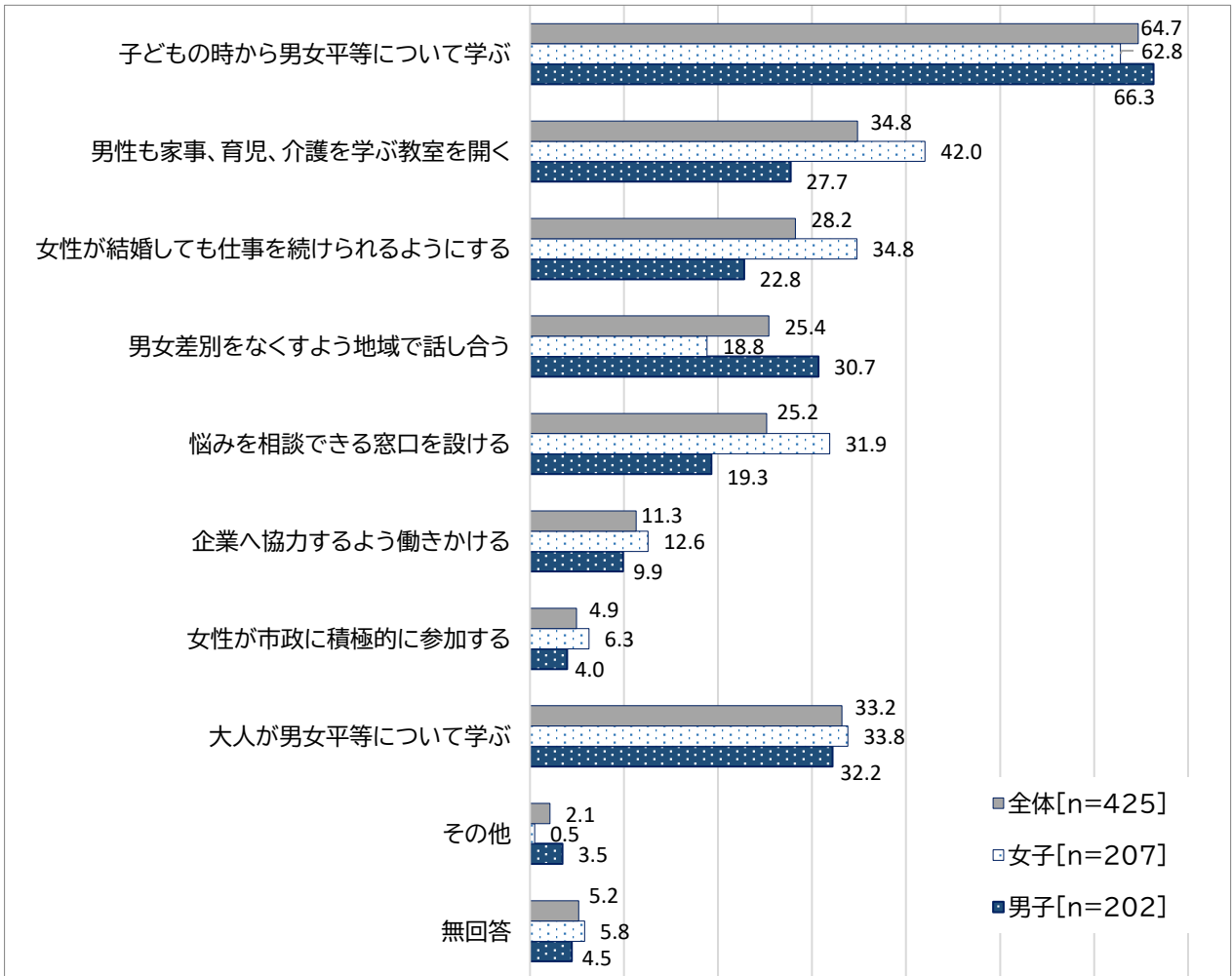


(2)「男女協働参画社会」実現のために取り組むこと

**問 14.** 「男女協働参画社会」の実現のために、市民の皆さんと一緒に取り組んでいます。今後、どのようなことに取り組んでいく必要があると思いますか。（〇は3つまで）

◇「子どもの時から男女平等について学ぶ」が男女ともに6割強

女子では、「子どもの時から男女平等について学ぶ」が、62.8%でも最も多く、次に、「男性も家事・育児・介護を学ぶ教室を開く」が、42.0%となっている。男子では、「子どもの時から男女平等について学ぶ」が、66.3%と最も多く、次に、「大人が男女平等について学ぶ」が、32.2%となっている。



## 5. 男女平等や男女の人権などに関する「自由意見・要望等」

男性の女性も平等に過ごす。相談ができるところをつくる。

男も女も人権はあるから差別する理由がない

男女でもめたときに女子が有利になる。男だから我慢すると言われる。

性別にこだわっていると、この先様々なことがやりにくくなると思う。性別関係なく個人として見てほしい。

女性専用車両があるなら男性専用も作っていいんじゃないか。

自分は、「男だから」と祖父に言われるし、他を聞いても高齢者から言われることが多いので、男女平等についてもっと高齢の人にアピールしてほしい。

全部平等にできることはした方がいい。

もっと知る機会を増やしてほしい。

もっと告知してほしい。

わかるように簡単に説明してほしい。

子どもにもわかりやすいように教えてほしい。もっと宣伝してほしい。

僕たちもわかるようにもっと頑張してほしい。

男女共同参画宣言都市だということを知らなかったから、もっとアピールするべき。

伊万里市が男女協働画推進する条例があること知らない人が多いと思うので、もっとわかりやすく告知したほうが良いと思います。

もっと分かりやすくしてほしい。

伊万里市が男女協働参画を推進していることをもっとアピールしてほしい。

いじめなどの差別がいけないということを社会に教えてほしい。

男女平等にしたいのなら男だけでなく女も意識しなければいけないんじゃないでしょうか。男だけじゃないと思います。

男女協働するのはいいけど、男女わけてほしいと思う人もいると思う。

もう少し事項を改善したほうが良いと思います。

女性を気かけすぎていて、逆に女性中心の社会になってしまうとニュースを見たりしているとき思ってしまう。まだまだ男女が平等になっているとはあまり思いません。いろんな場面で男性が上とか女性が上という考えがあるのでそれをなくせば平等になっていくと思いました。

今、LGBTQや身体的特徴などの偏見などを減らそうとする世に中になっていると思うので、伊万里市が進んで政策を行って下さっているのにすごくいいことだなと思いました。

最近どの学校でも女子がスカートじゃなくてスラックスを着れるようになってきていると思うのですが、やっぱりそうじゃない人と一緒に生活していくのは苦しい部分もあると思うので、できる時が来たらいいですが、性に対して違和感を持っている人だけの学校とかをつくるのはどうでしょうか。障害者の皆さんだけが通う学校のようにしたらちょっとは楽になれるのかなと思います。

LGBTがいろんな人に認められるようにしてほしい。

みな平等に接すること

お互いを尊重する

男性教師が女性の生徒には優しく、男には厳しくしていた

男子更衣室をつくろう。

LGBTの方々が安心して暮らせる町づくりをしてほしい。

5年に1度の調査ではなく毎年した方がよい。

男女平等というくりに入るかわからないが、LGBTQについてもっと理解を深めるべきと思う。

LRBTQのニュースなどが流れた時に親たちが「バカじゃないのか」などと言っているから相談できない。子が学がのも重要だけど、大人の人もしっかり学んだ方がいいと思う。

高校の制服など女性用(?)のズボンはあるのになんで男性用(?)のスカートはないんですか。

# V. 高校生 調査結果

---

## ■回答者の属性

---

## ■家族構成

---

### 1. 男女平等について

---

(1) 家族等から言われること

---

(2) 家事について

---

(3) 男女平等の実現状況

---

### 2. 将来について

---

(1) 職業について

---

(2) 性別役割分担意識

---

### 3. DV(ドメスティック・バイオレンス)について

---

(1) DVについて

---

(2) デートDVについて

---

### 4. 自分らしく生きられる社会について

---

(1) 「男女共同参画社会」という言葉について

---

(2) 「男女協働参画社会」実現のために取り組むこと

---

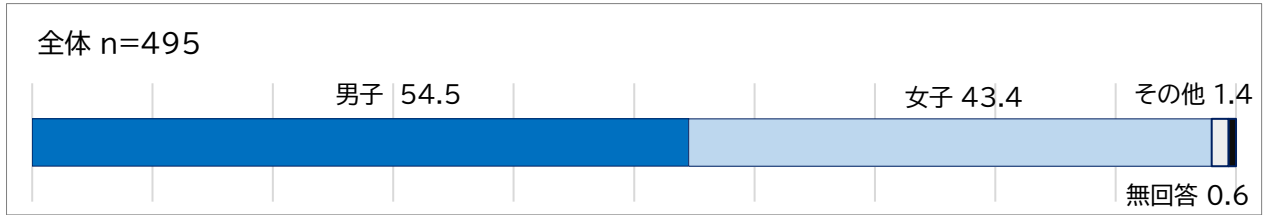
### 5. 自由意見・要望等

---



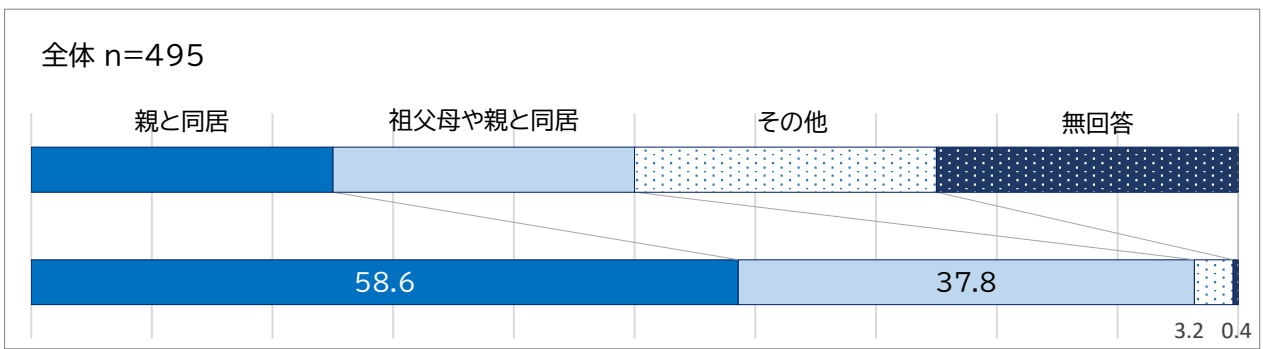
# V. 高校生 調査結果

## ■回答者の属性



## ■家族構成

◇親と同居の2世代世帯が 58.6%、祖父母・親と同居の3世代世帯が 37.8%。



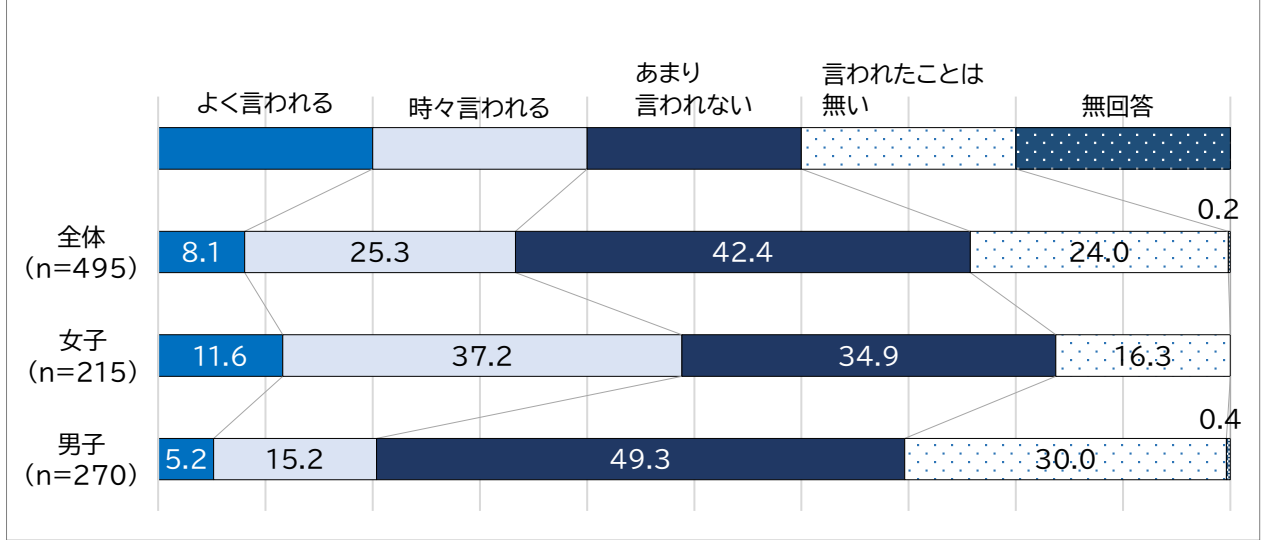
## 1. 男女平等について

### (1) 家族から言われること

**問1.** あなたは大人の人に「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。(〇は1つ)

◇「よく言われる」「時々言われる」は、女子が、男子の2倍強

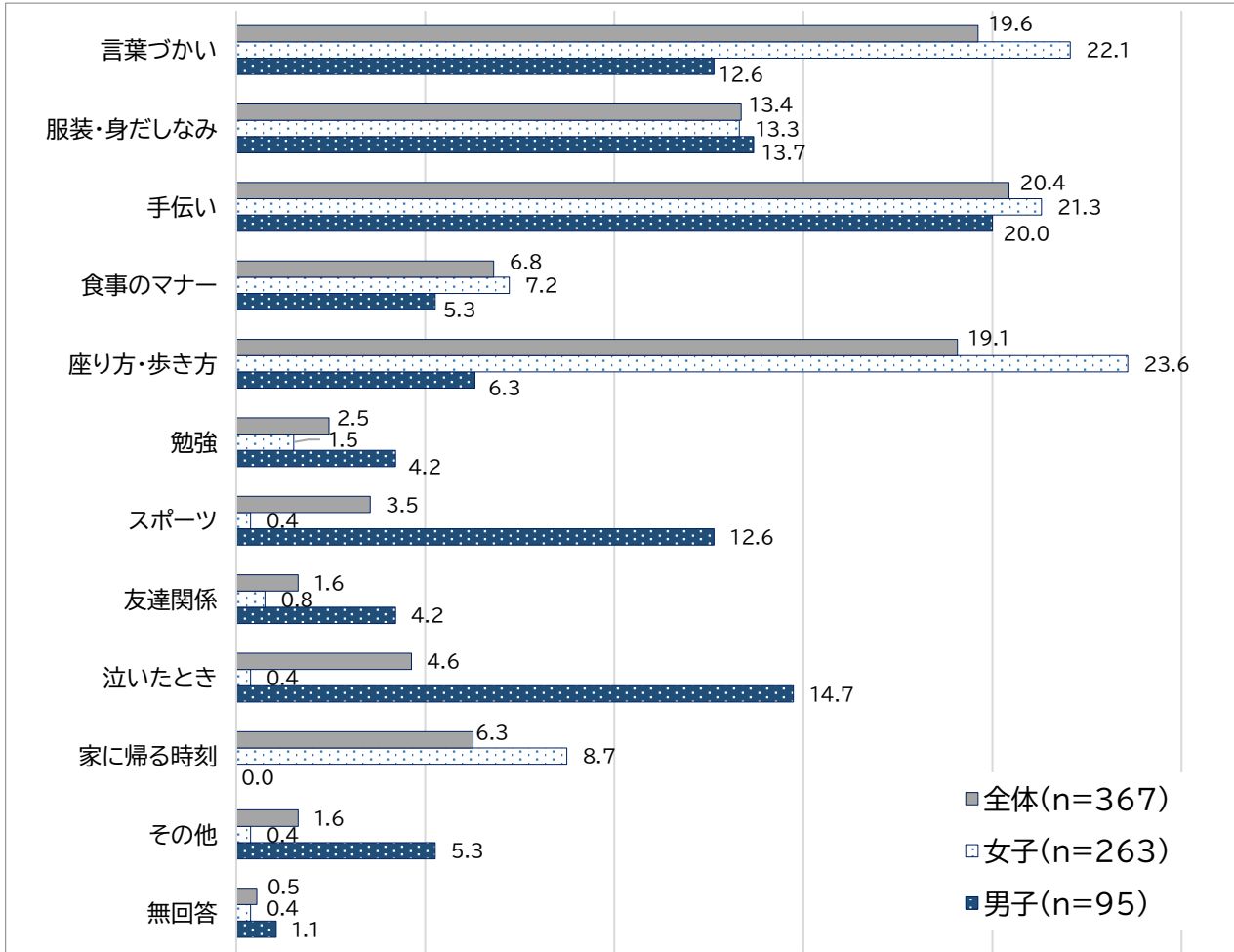
「よく言われる」「時々言われる」は、女子が、48.8%で、男子より28.4ポイント高く、「言われたことはない」「あまり言われたことはない」は、男子が、79.3%で、女子より28.1ポイント高くなっている。



**問1-1.** 問1で「よく言われる」「時々言われる」と答えた方にお聞きします。どんなことについて言われましたか。（あてはまるもの全てに○）

◇全体では「言葉づかい」「座り方・歩き方」「手伝い」が多い

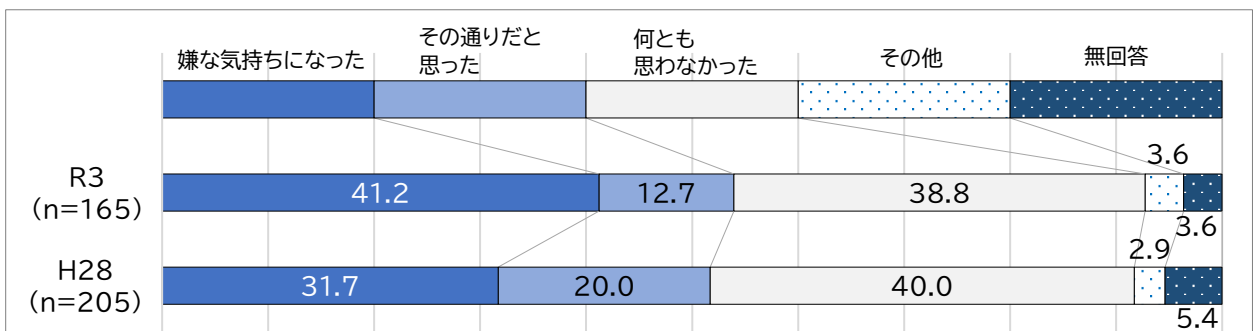
「座り方・歩き方」では、女子 23.6%、男子 6.3%、「言葉づかい」では、女子 22.1%、男子 12.6%と女子の割合が高くなっている。



**問1-2.** 【問1で「よく言われる」「時々言われる」とした方】  
「男だから○○しなさい」や「女だから○○しなさい」と言われ時、どんな気持ちでしたか。（○は1つ）

◇「嫌な気持ちになった」が最も多い。

「嫌な気持ちになった」が、41.2%で、前回H28調査 31.7%より、高くなっている。また、「なんとも思わなかった」も、38.8%となっている。

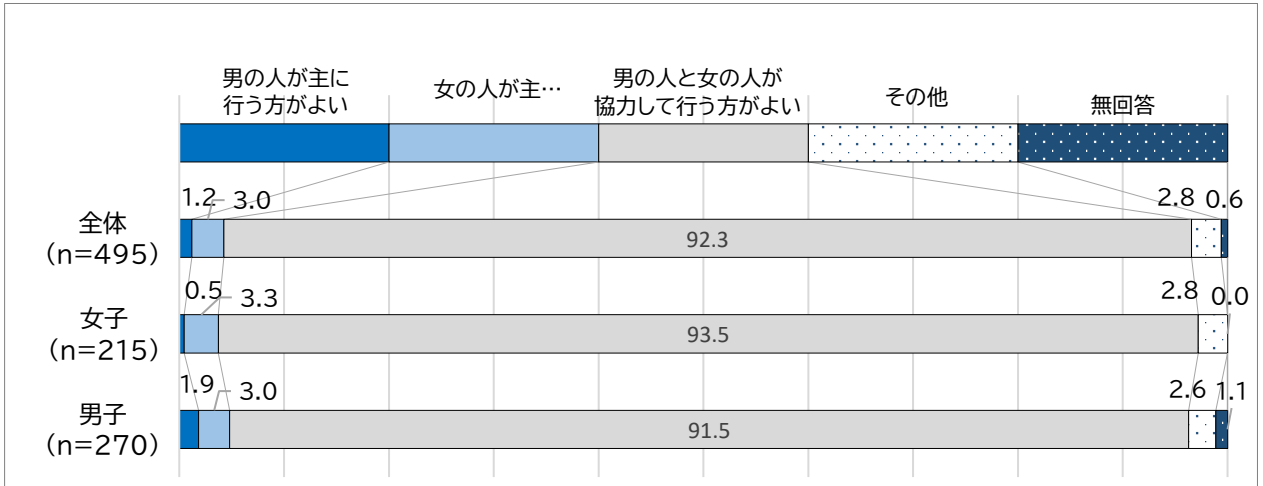


(2)家事について

**問2.** あなたは、家で食事の用意や掃除、洗濯のような家事は、どのように行う方がよいと思いますか。(○は1つ)

◇「男の人と女の人が協力して行う方がよい」が92.3%

「男の人と女の人が協力して行う方がよい」が、女子 93.5%で、男子 91.5%となっている。



(3)男女平等の実現状況

**問3.** あなたは、今の社会は男女平等になっていると思いますか。(○は1つ)

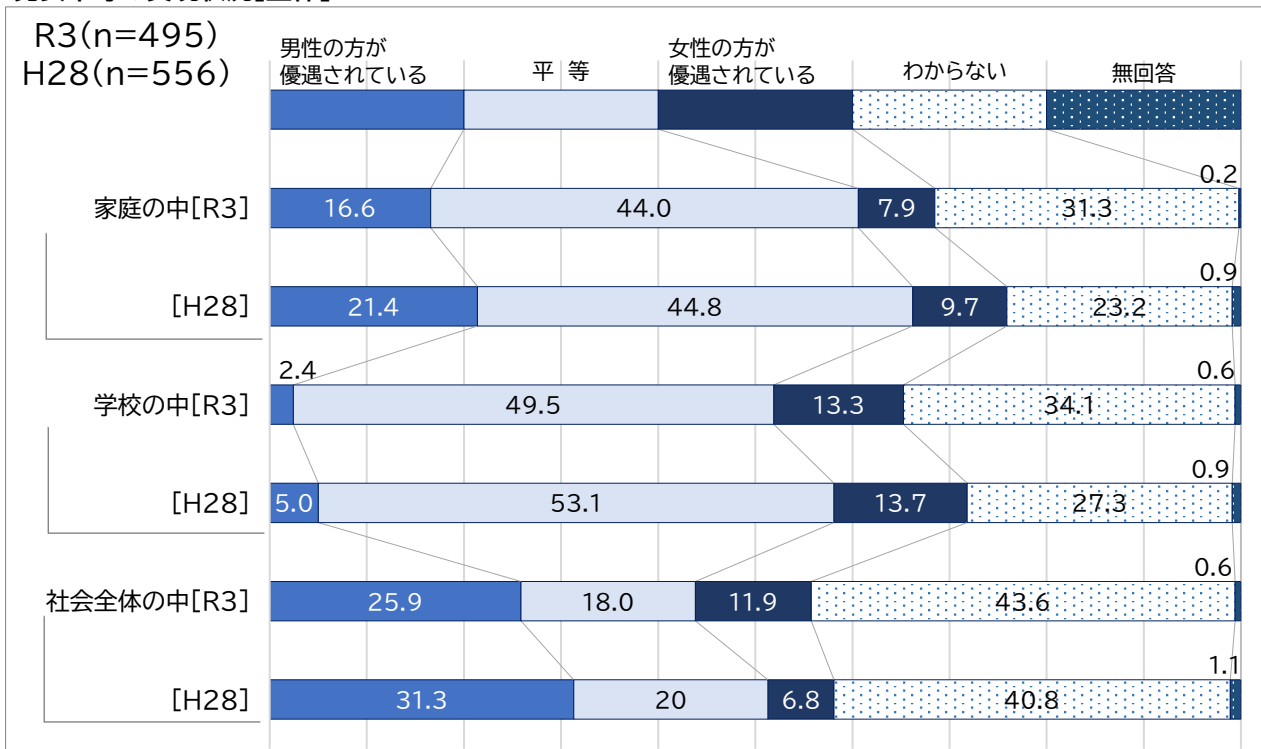
◇「社会全体の中」では、「男性が優遇されている」と思う割合が高い

「社会全体の中」では、「男性が優遇されている」が、最も高くなっているが、「学校の中」では、「女性が優遇されている」割合が、高くなっている。

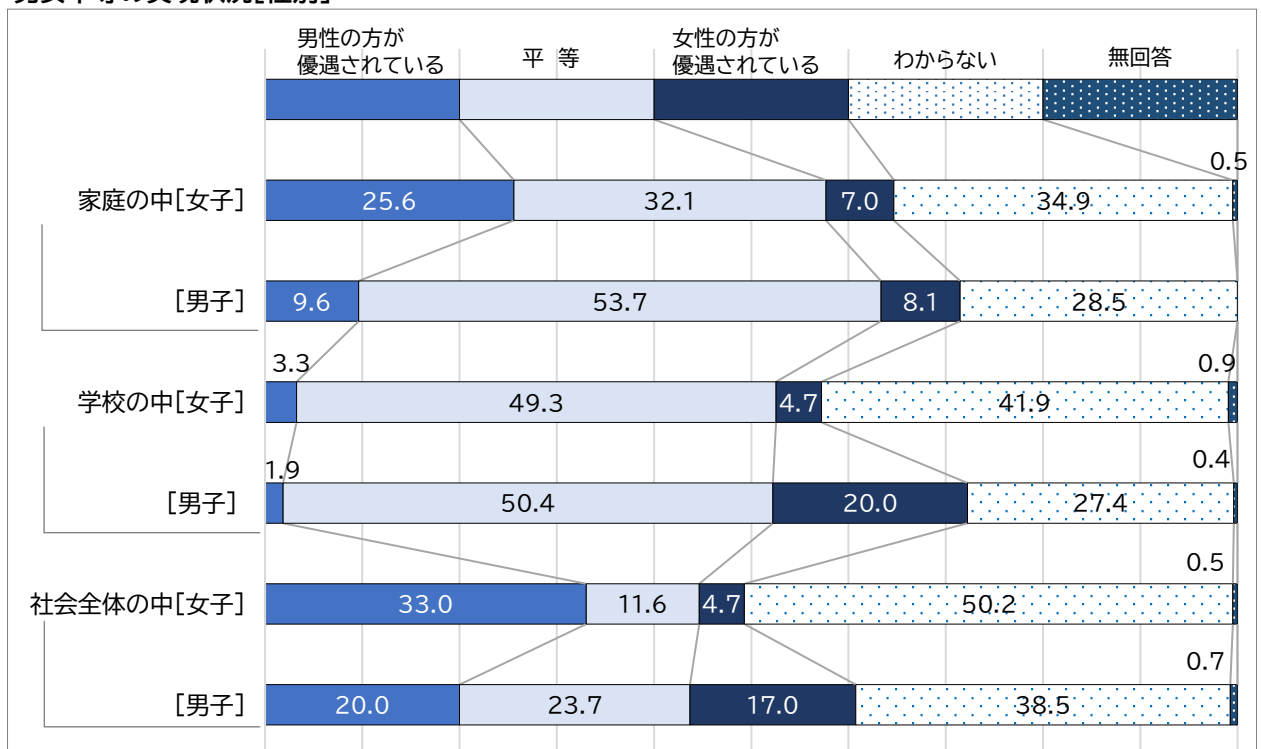
性別でみると、「家庭の中で男性が優遇されている」と思う割合は、女子生徒が25.6%で、男子生徒より16ポイント高く、「社会全体の中」で、「男性が優遇されている」と思う割合は、女子生徒が33.0%で、男子生徒より13ポイント高くなっている。

「学校の中」では、「女性が優遇されていると思う割合」が、男子生徒が20.0%で、女子生徒より15.3ポイント高くなっている。

男女平等の実現状況[全体]



男女平等の実現状況[性別]

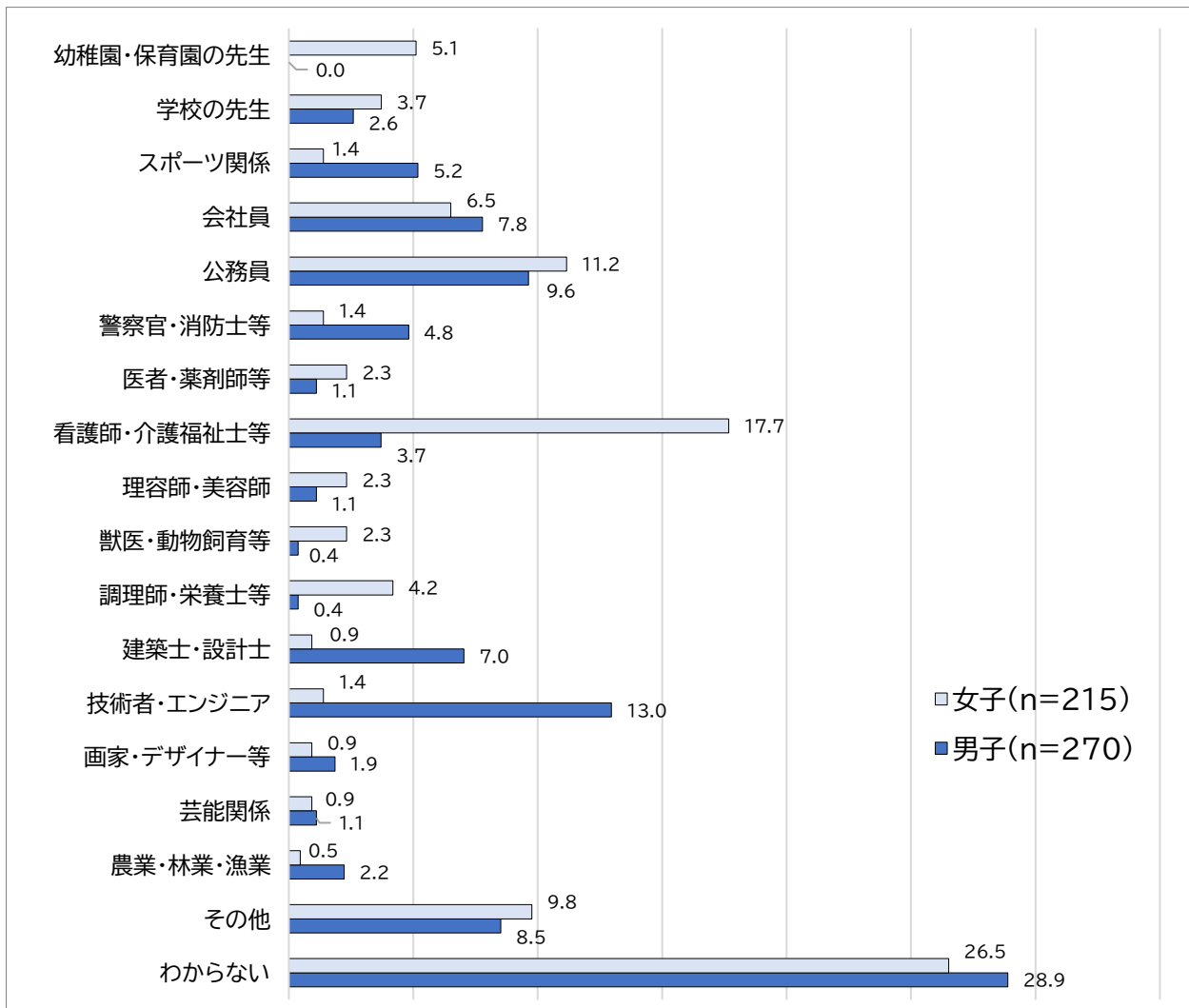


2. 将来について

(1) 職業について

問 4. あなたは、将来どのような仕事をしたいですか。 (○は1つ)

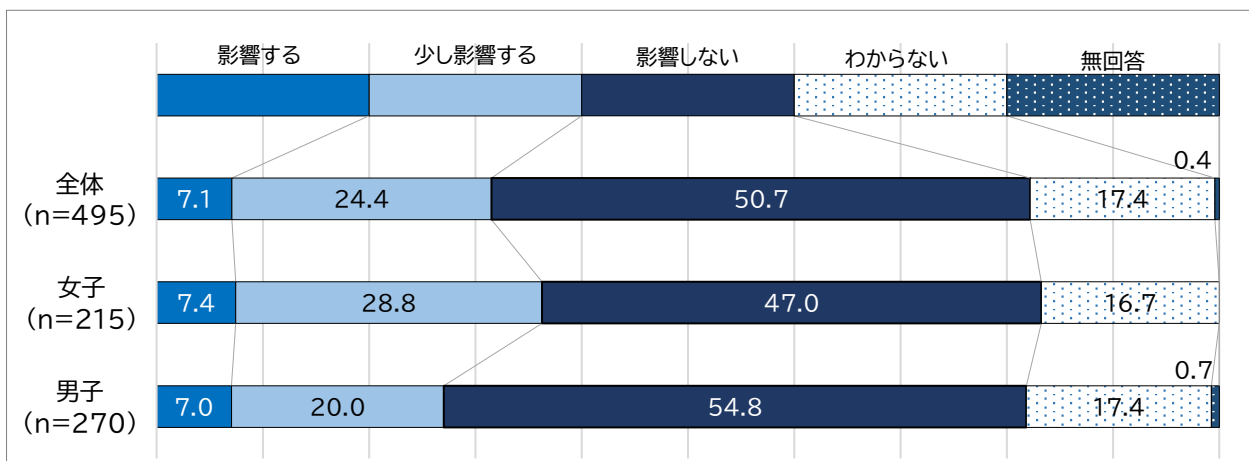
◇女子では、「看護師・介護福祉士等」が最も多く、男子では、「技術者・エンジニア」が多い。



**問 5.** あなたは、将来なりたい仕事を実現する上で、『男であること』もしくは『女であること』が影響すると思いますか。(○は1つ)

◇「影響する」「少し影響する」が31.5%

「影響する」「少し影響する」が、女子では 36.2%が、男子 27.0%となっている。

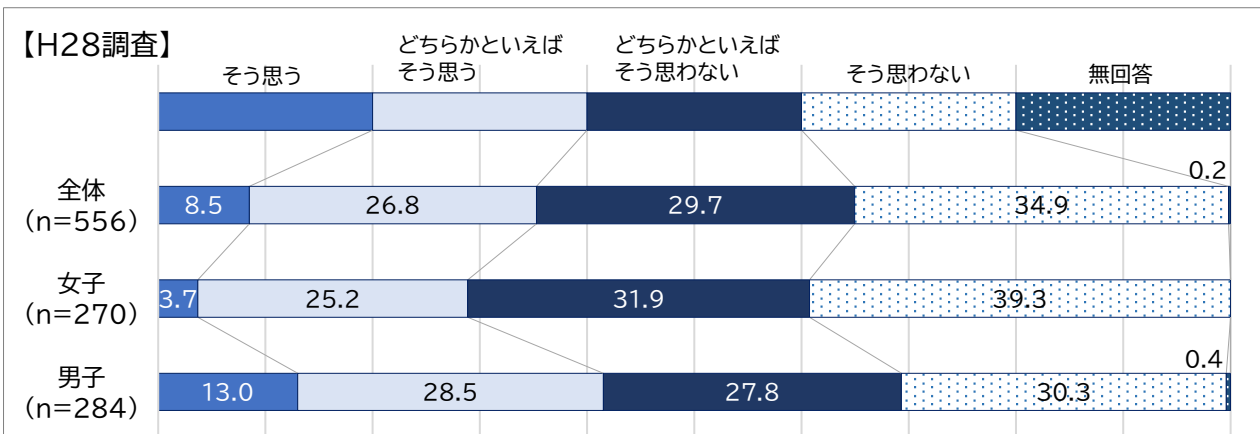
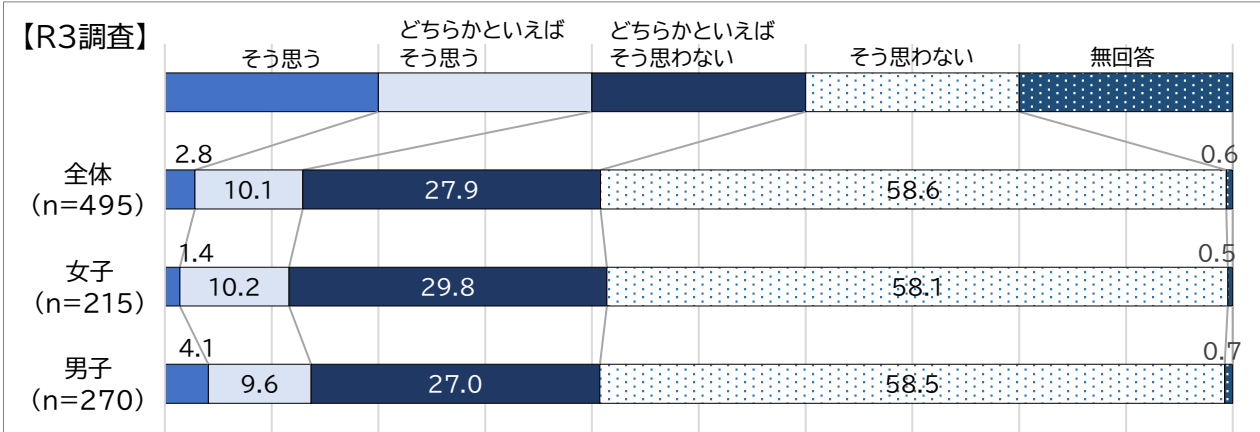


(2)性別役割分担意識

**問 6.** あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という性別で役割を決めるという考え方をどう思いますか。(○は1つ)

◇「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が8割を超えている

「そう思わない」「どちらかといえば思わない」が、86.5%(H28:64.6%)、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、12.9%(35.3%)となっている。

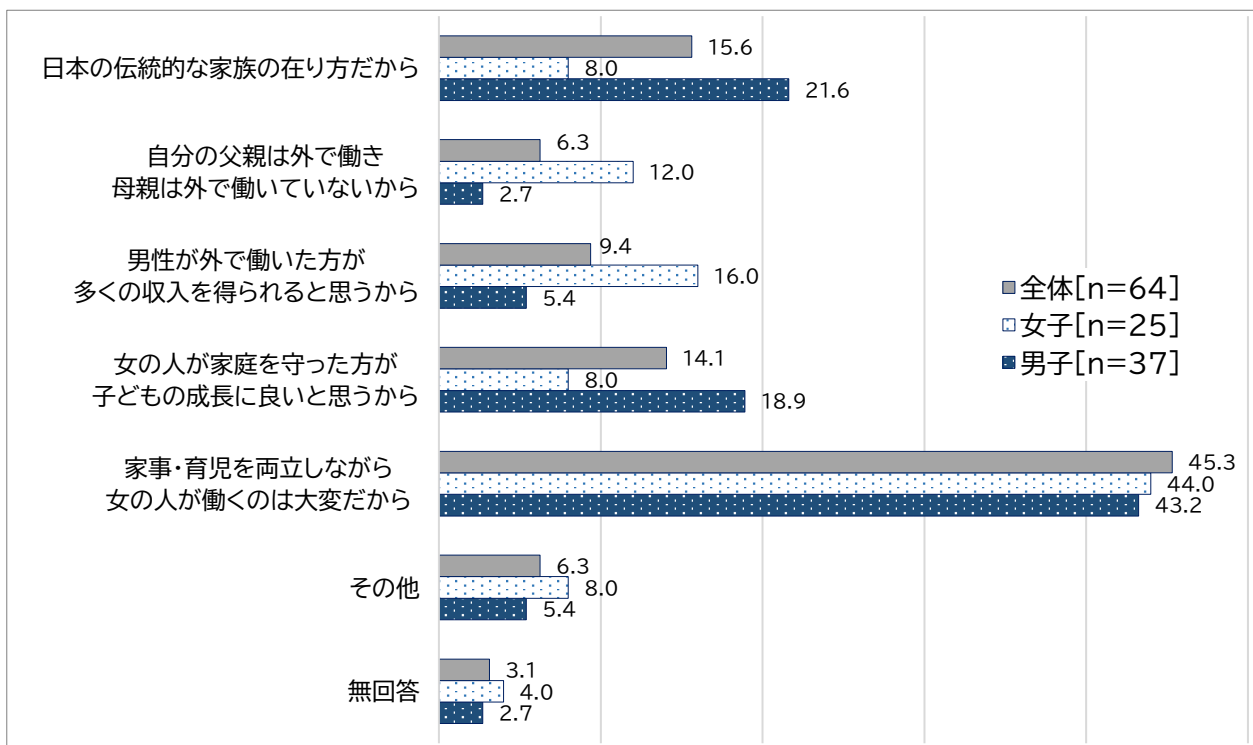


**問6-1.** 【問6で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」とした方】  
そう思う理由はなんですか。(○は1つ)

◇「家事・育児と両立しながら女の人が働くのは大変だから」が4割強

「家事・育児と両立しながら女の人が働くのは大変だから」が女子(44.0%)、男子(43.2%)とともに一番高くなっています。

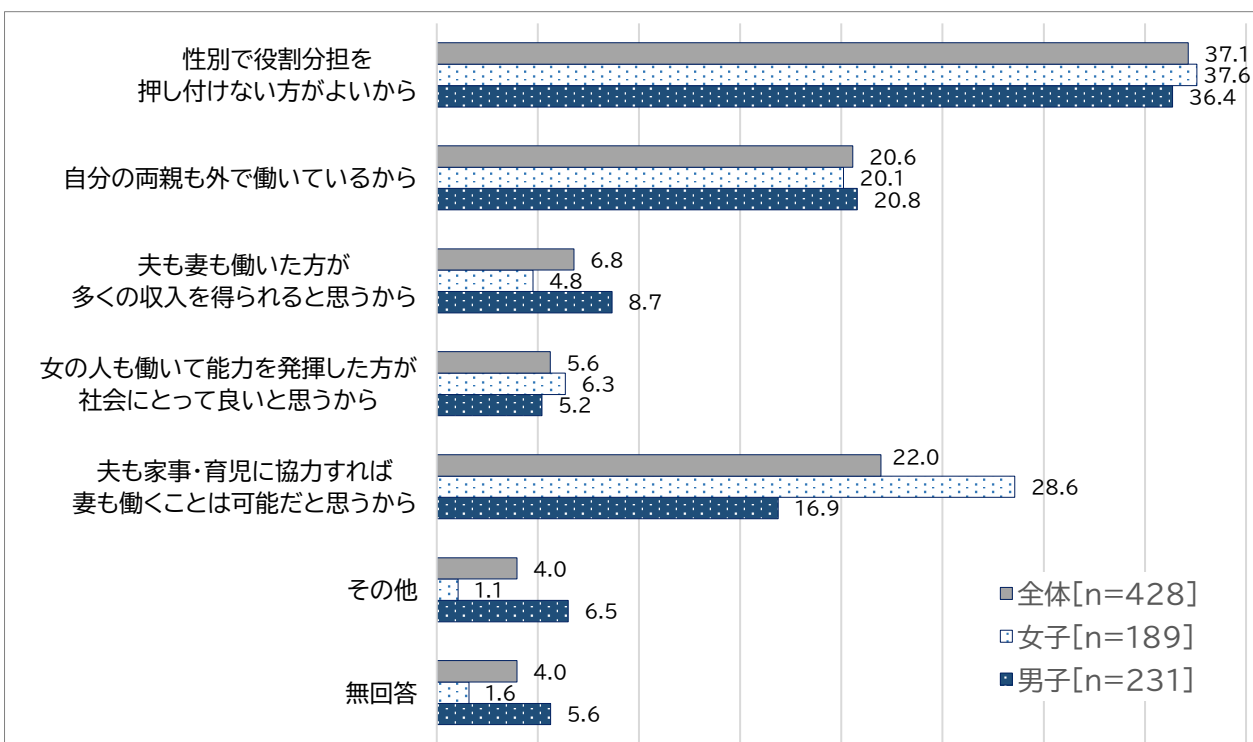
女子は「男性が外で働いた方が多くの収入を得られると思うから」が16.0%で、最も高く次に「男性が働いた方が多くの収入を得られると思うから」が、16%となっています。



**問 6-2.** 【問6で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」とした方。】  
 そう思わない理由は何ですか。 (〇は1つ)

◇「性別で役割分担を押し付けない方がよいから」が4割弱

「性別で役割分担を押し付けない方がよい」が、37.1%と最も高く、次に「夫も家事・育児に協力すれば妻も働くことは可能だと思うから」22.0%、「自分の両親も外で働いているから」20.6%となっている。



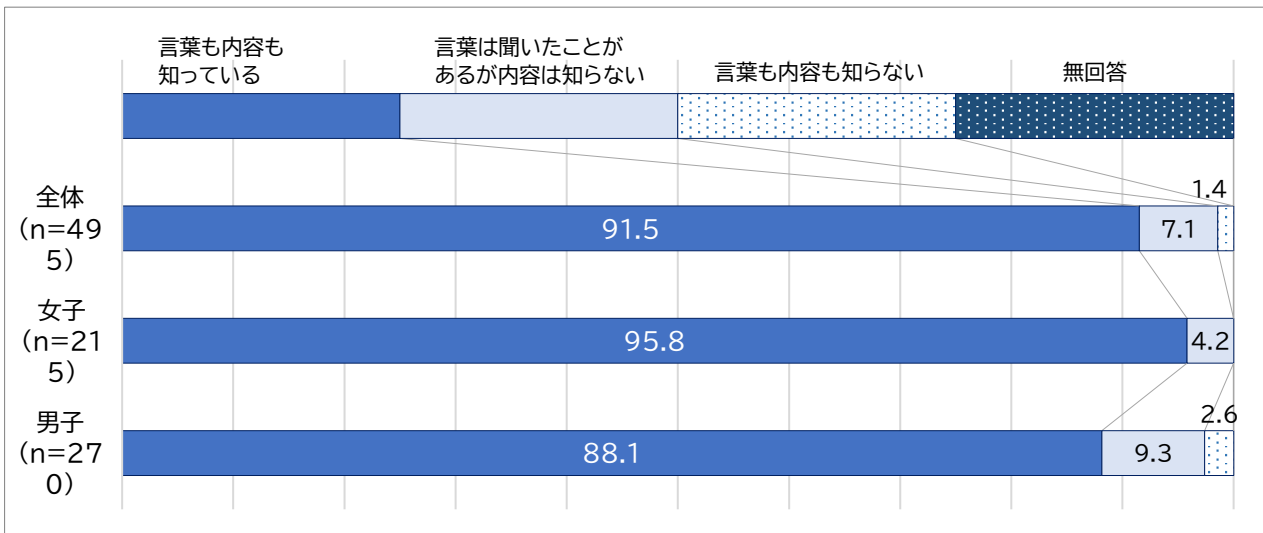
### 3. DV(ドメスティック・バイオレンス)について

#### (1)DVについて

**問 7.** あなたは「DV」について知っていますか。(○は1つ)

◇「言葉も内容も知っている」が、9割

性別でみると、「言葉も内容も知っている」は、女子が、95.8%で、男子より7.7ポイント高くなっている。

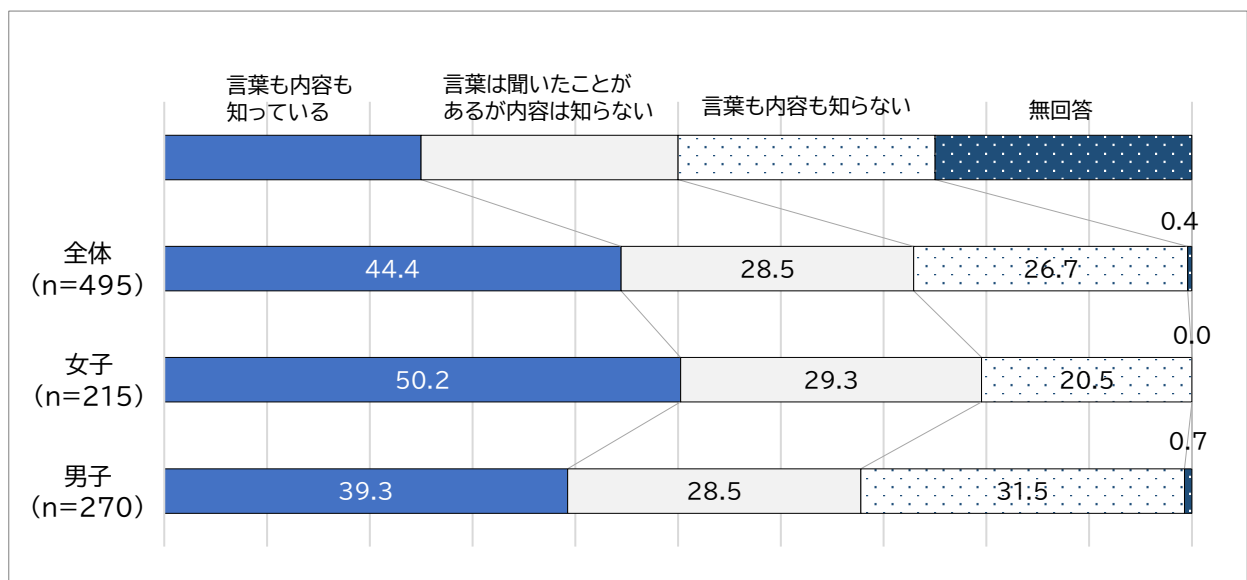


#### (2)デートDVについて

**問 8.** あなたは「デートDV」について知っていますか。(○は1つ)

◇「言葉も内容も知っている」が、4割強

「言葉も内容も知っている」が、44.4%で、「言葉も内容も知らない」が、26.7%で、となっている。性別でみると、「言葉も内容も知っている」は、女子は、50.2%で、男子より、10.9ポイント高くなっている。



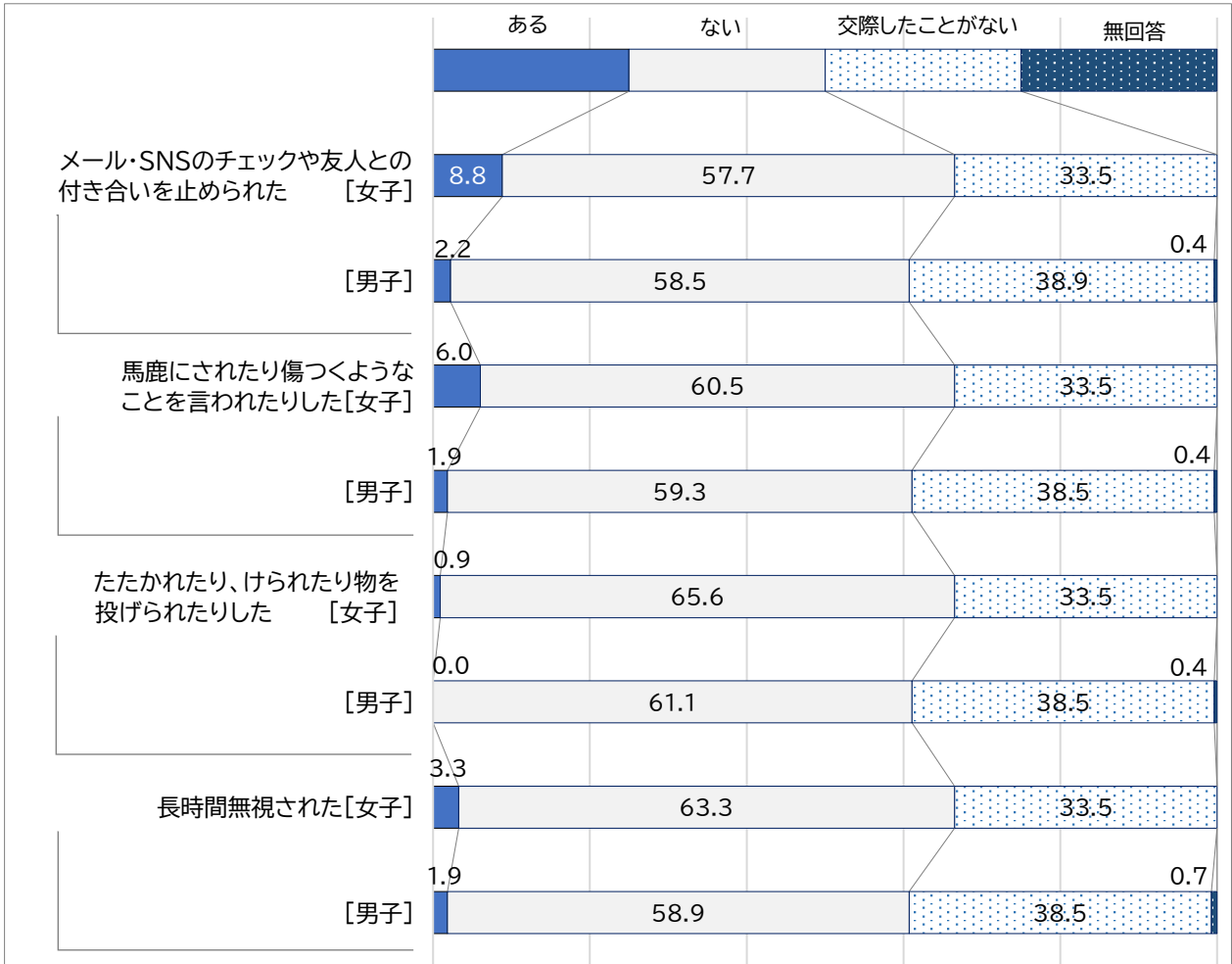


**問 9.** あなたは、これまでに交際相手から次のような行為を受けたことがありますか。  
(質問項目ごとに○は1つ)

◇「メールやSNSをチェックされたり、他の友人との付き合いを止められたりした」が多い

女子では、「メールやSNSをチェックされたり、他の友人との付き合いを止められたりした」が、8.8%で、最も高い。次に、「馬鹿にされたり、傷つくような事を言われたりした」が、6.0%となっている。

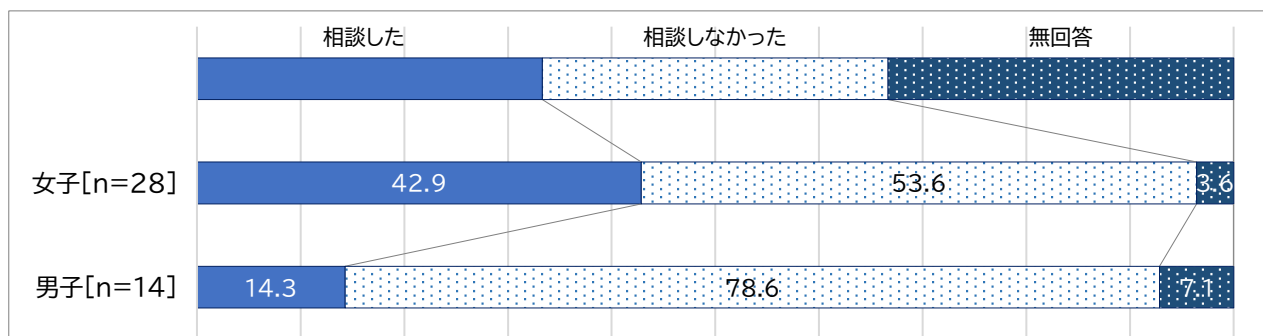
男子でも、「メールやSNSをチェックされたり、他の友人との付き合いを止められたりした」が、最も高くなっている。



**問 9-1.** 【問9で、1つでも「ある」とした方】あなたが受けた行為について、どこ(だれ)に相談しましたか。  
(あてはまるもの全てに○)

◇「相談した」が女子で4割強

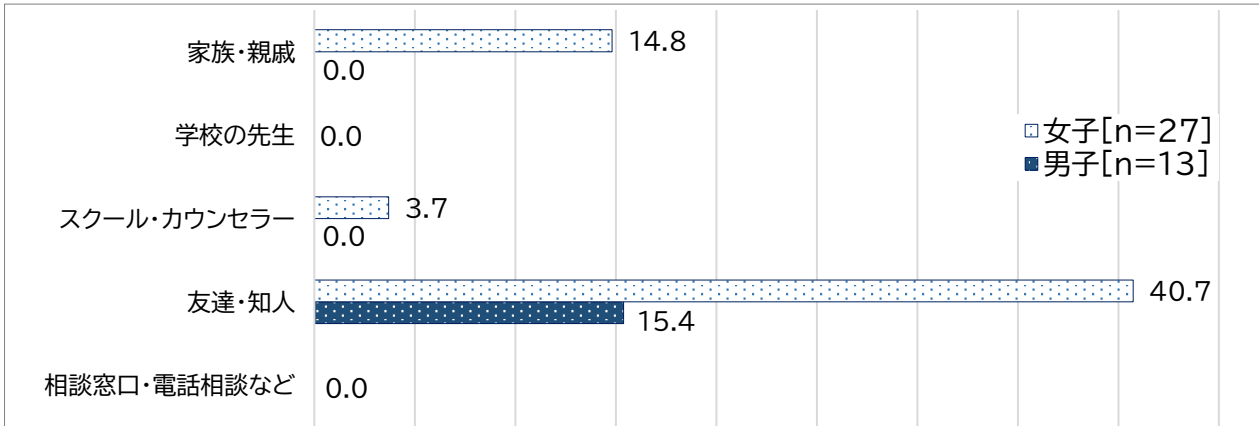
「相談した」が女子42.9%、男子14.3%となっている。



**問 9-2.** 【問9-1.で「相談した」と回答した方】どこ(だれ)に相談しましたか。  
(あてはまる全てに○)

◇女子の相談先は「友達・知人」が最も多い。

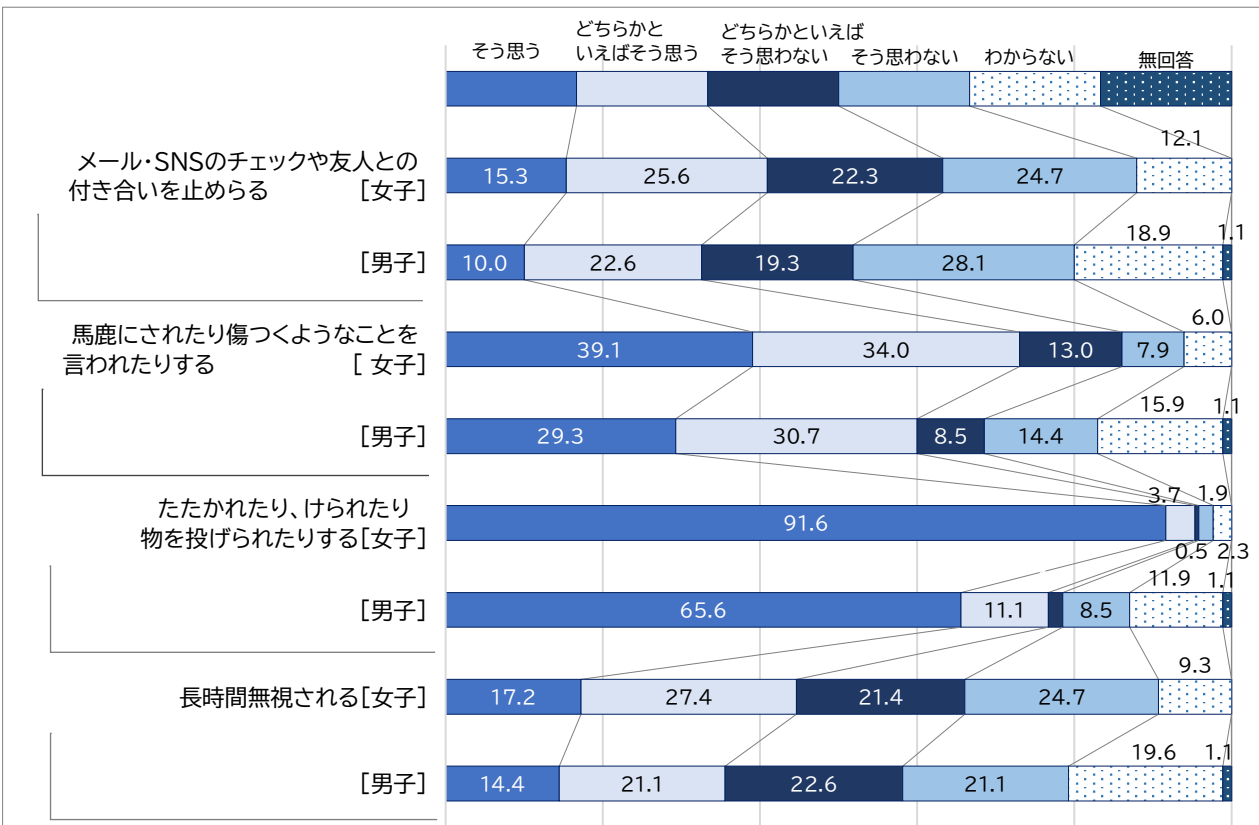
女子、男子ともに「学校の先生」は0%。「友達・知人」が女子40.7%、男子15.4%となっている。



**問 10.** あなたが、交際相手との間で次のような行為を受けた時、それを暴力だと思えますか。  
(質問項目ごとに○は1つ)

◇「メールやSNSをチェックされたり、他の友人との付き合いを止められる」、「長時間無視される」を暴力と認識していない割合が4割を超えている

「メールやSNSをチェックされたり、他の友人との付き合いを止められる」の行為について、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」とした女子は 47%、男子は 47.4%、で、「長時間無視される」の行為について、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」とした女子は 46.1%、男子は 43.7%となっている。



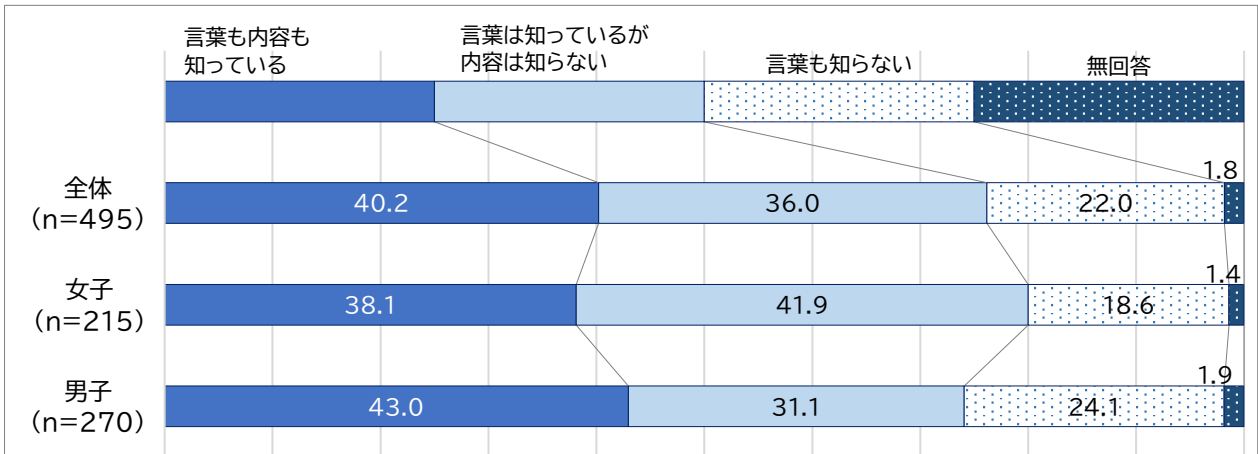
## 4. 自分らしく生きられる社会について

### (1)「男女共同参画社会」という言葉について

**問 11.** あなたは、「男女共同参画」という言葉を知っていますか。 (○は1つ)

#### ◇「男女共同参画社会」の言葉の認知度は8割弱

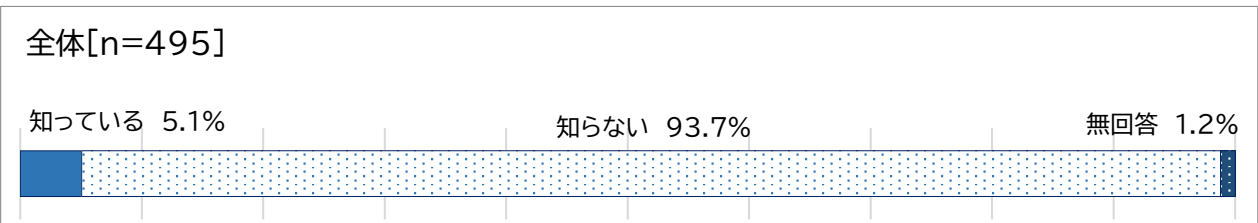
「言葉も内容も知っている」が、40.2%、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」が、36%となっている。



**問 12.** あなたは、伊万里市が「男女共同参画宣言都市」であることを知っていますか。

#### ◇「男女共同参画宣言都市」であることは、ほとんど浸透していない

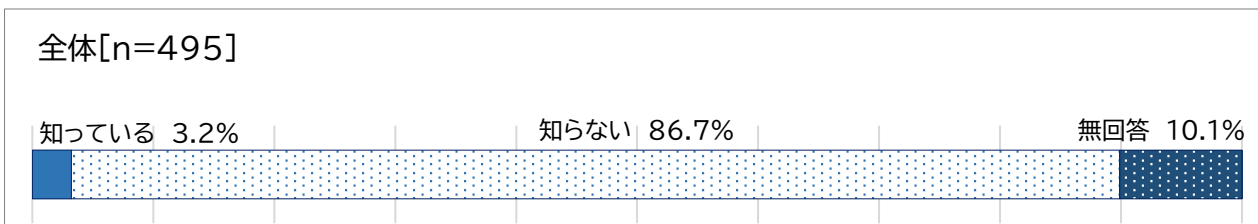
「知っている」が、5.1%となっている。



**問 13.** あなたは、伊万里市が、平成28年4月1日に施行した『伊万里市男女協働参画を推進する条例』を知っていますか。

#### ◇「伊万里市男女協働参画を推進する条例」を施行したことは、ほとんど浸透していない

「知っている」が、3.2%となっている。

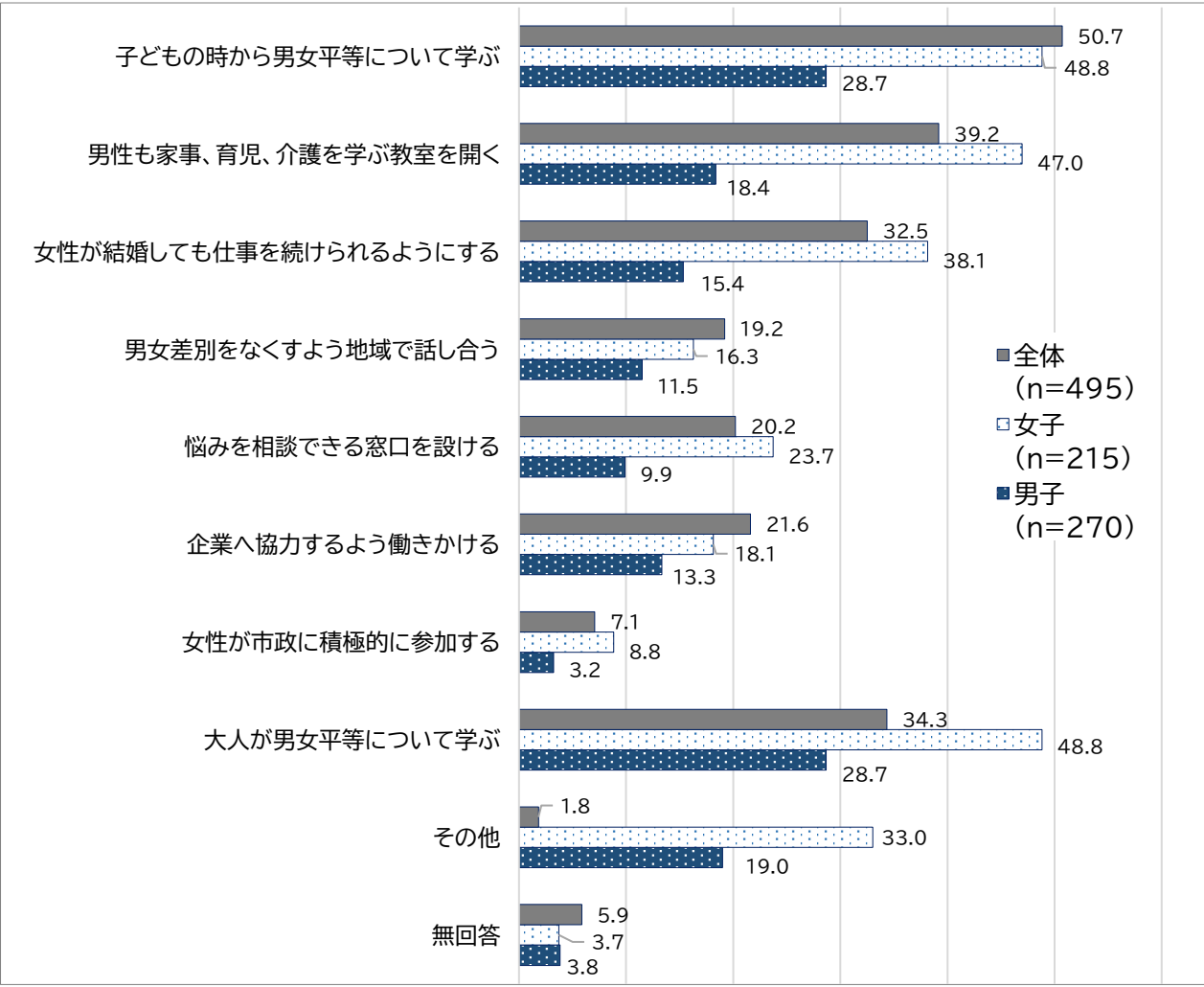


(2)「男女協働参画社会」実現のために取り組むこと

**問 14.** 伊万里市では「男女協働参画社会」の実現のために、市民の皆さんと一緒に取り組んでいます。今後、どのようなことに取り組んでいく必要があると思いますか。（〇は3つまで）

◇「子どもの時から男女平等について学ぶ」が5割

女子では、「子どもの時から男女平等について学ぶ」が、48.8%で最も多く、次に、「男性も家事・育児・介護を学ぶ教室を開く」が、47%となっている。男子では、「子どもの時から男女平等について学ぶ」、「大人が男女平等について学ぶ」が、28.7%となっている。



## 5. 男女平等や男女の人権などに関する「自由意見・要望等」

僕はぜったい男女平等はむりだとおもいます。

男もアイロンくらいします。

社会が変わろうとしているのはわかるけど、背中を見せるべき大人(50歳代)の人が女性差別をしているように見える。大人がそうしているから未来の主格になる年代もそういう傾向に見える。

男と女では肉体の構造が違って、それに伴い考え方も違うように感じる。それを考慮した上でのできる限りの”平等”を推進してほしい。

男女平等な社会に少しずつなってきたと思います。伊万里市が何かをしていたのは知らなかったです。

男女平等と言いつつ電車など女性だけが特別視？されているのでは？男性車両も作るべき。

学校の制服など、男子は許可されているのに女子は許可されていないことなど、たくさんあるので女子も許可してほしい。

学校で女子だけ更衣室があって男子は教室で着替えさせられたりするのはおかしい。男子にも更衣室が欲しい。女性専用車両があって男性専用車両がないのはおかしい。

学校でも男女差別がある。男性も育休が取れやすい会社の体制を作る。

今行っている高校のことではないですが、女の子には優しく男の子には厳しい先生とかたまに見る気がします男女協力して家事分担をする。

差別はダメだと思う。

もっと頑張ろう。伊万里市長へ。もっと差別、男尊女卑を無くすようにして。

「男性が様々な場面で優遇されている」という小さいころに受けた教育によって、学校などで男子生徒が少しだけ気をつかったり、我慢している気がします。もっとちゃんとした教育を行ってほしいです。

陰で女性が強い時代は終わりです。女性が正々堂々生きてほしい。

正直若い人が男女平等については理解していると思うので、40. 50代の人たちが理解すれば大きく動くのではないかと思いました。

女性が結婚、妊娠しても働ける社会へ。

男女平等は大事だけど、平等の形を押し付けるのもよくないと思う。変に意識せずに平等が実現できる社会がよい。

女性センター的なものを設けるとよいと思う。

大人は子ども達に自分の持っている偏見やそれを含んだ表現を使わないようにすることが大事だと思う。